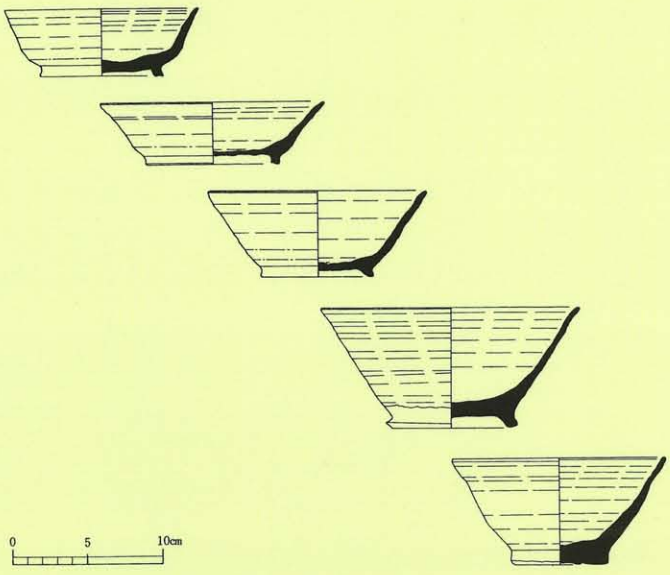
宮崎市文化財調査報告書　第72集

下村窯跡群報告書Ⅱ

（したむらようせきぐん）

〈 遺 物 編 〉



2008

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書　第72集

下村窯跡群報告書Ⅱ

〈 遺 物 編 〉

２００８

宮崎市教育委員会

序

本書は、宮崎市佐土原町東上那珂におけるゴルフ場建設に伴い、旧佐土原町教育委員会が平成3・4年度に発掘調査を実施した、下村窯跡群の発掘調査報告書です。

下村窯跡群は、古代須恵器、瓦の窯跡です。県下において、現在までに発見されている古代窯はわずかに4例だけであり、その中でも本遺跡は大規模調査が実施された唯一の例です。近年、調査が行われている日向国分寺では、下村窯で作られたと思われる瓦も出土しており、古代史研究や地域の歴史復元における本遺跡の重要性は、改めて言うまでもありません。

本遺跡の報告書は、旧佐土原町教育委員会より、〈概要報告書〉、〈基礎資料編〉の2冊が刊行されています。平成18年の合併により、今回、宮崎市教育委員会として〈遺物編〉の刊行を行います。

諸般の事情により、10年以上もの長きにわたり報告書を刊行することができませんでした。玉稿をたまわりました宮崎県埋蔵文化財センターの長津宗重氏をはじめ、特別調査員として調査指導にあたっていただいた諸先生方、関係諸氏には大変なご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。今回の報告書において、その責の一端を果たすことができればと思います。

平成20年3月

宮崎市教育委員会

教育長　田原健二

例　　言

1．本書は旧佐土原町教育委員会（現宮崎市教育委員会）が平成 3・4 年度に実施した下村窯跡群の発掘調査報告書である。

2．本書で報告する下村窯跡群の発掘調査は、佐土原町文化財調査報告書第 7 集「下村窯跡概要報告書Ⅰ」(1992 年発行)、佐土原町文化財調査報告書第 10 集「下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉」（1996 年発行）として、過去 2 度にわたり報告を行っている。本書は「下村窯跡群報告書Ⅱ〈遺物編〉」として、上記 2 冊において未報告であった資料の報告を中心に行う。

3．現地調査は、平成 3 年 7 月 1 日～平成 4 年 9 月 18 日の期間実施した。また本書を刊行するにあたり、新たに、須恵器資料の整理作業を平成 19 年 6 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日の期間実施した。

4．調査組織

〈現地調査〉（平成 3・4 年度）

調査主体	佐土原町教育委員会		
	調査総括	社会教育課長	寺坂　正紘（平成 3 年度）
		〃	関屋紀久男（平成 4 年度）
		社会教育課長補佐	斎藤　成實
	調査事務	主　　幹	関谷　文子
	調査担当	主　　事	木村　明史
調査指導	宮崎県文化課	主　　査	北郷　泰道
		〃	長津　宗重

〈整理作業〉（平成 20 年度）

調査主体	宮崎市教育委員会		
	調査総括	文化振興課長	野田　清孝
		主幹兼文化財係長	山田　典嗣
	調査事務	主任主事	吉永　大介
	整理担当	主任技師	竹中　克繁
	補助員	属　　託	安藤　五月
		〃	稲元久美子
		〃	徳丸　理奈
		〃	永友加奈子

5．掲載した図面・表・図版の作成は、木村、長津、竹中、安藤、稲元、徳丸、永友が行った。

6．「第Ⅲ章　第 3 節 (1)瓦の分類」の項は、「下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉」（1996 年）所収の同文を一部改編し、再録したものである。

7．本書の執筆・編集は竹中が行った（上記「第Ⅲ章　第 3 節」を除く）。

8．出土遺物および掲載図面・写真等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

本　文　目　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境
第１節　地理的環境…… 1
第２節　歴史的環境…… 1

第Ⅱ章　調査経過
第１節　調査に至る経緯…… 3
第２節　調査対象範囲と調査経過…… 3

第Ⅲ章　調査成果
第１節　調査成果の概略…… 5
第２節　須恵器…… 5
第３節　瓦…… 13

第Ⅳ章　考察　下村窯跡の須恵器編年…… 70

第Ⅴ章　まとめ…… 75

挿　図　目　次

第１図　下村窯跡群および周辺主要遺跡位置図…… 2
第２図　下村窯跡群地形図…… 4
第３図　調査区配置図…… 4
第４～10図　出土須恵器①～⑦ …… 6～12
第11～44図　出土瓦①～ …… 18～51
第45図　下村窯跡出土須恵器編年図 …… 73

表　目　次

表１～11　遺物観察表〈須恵器〉①～⑪ …… 52～62
表12～18　遺物観察表〈瓦〉①～⑦ …… 63～69
表19　椀の属性と分類 …… 71
表20　坏の属性と分類 …… 71

表21　蓋の属性と分類 …… 71
表22　甕の属性と分類 …… 71
表23　長胴壺の属性と分類 …… 71
表24　短頸壺の属性と分類 …… 71
表25　各型式の出土地区 …… 71

図　版 …… 79

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

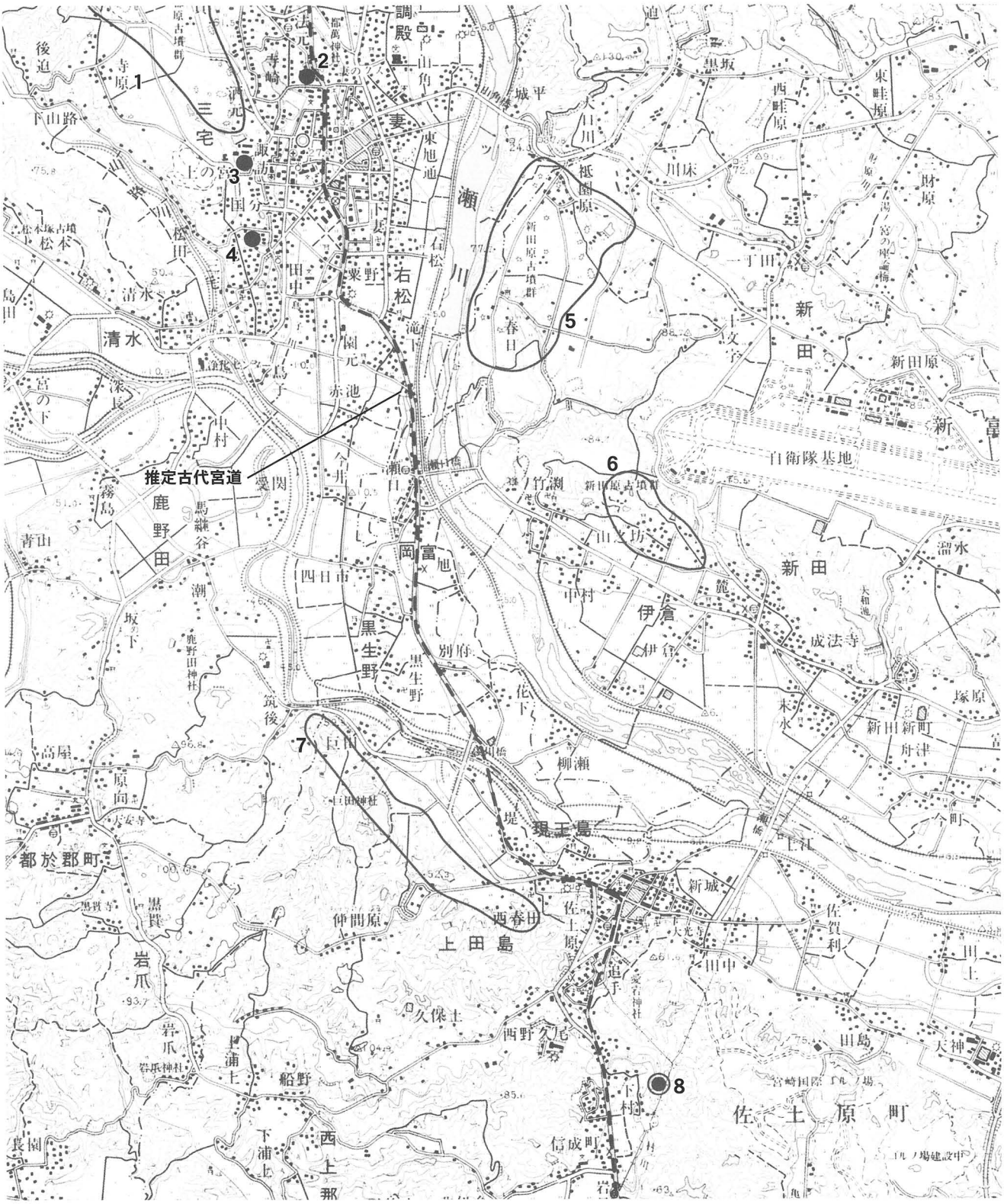
佐土原地域（旧佐土原町域）は、太平洋に面した宮崎平野の海岸部、ほぼ中央に位置し、海岸部から内陸に向かって、低地、丘陵、台地の、大きく３つの地形から成る。海岸部の低地は、南の大淀川左岸まで続く砂堤列と、砂堤と砂堤の間、砂堤と丘陵との間の堤間低地、佐土原地域の北辺を形成する一ツ瀬川沿いの沖積平野から成り、砂堤上には弥生時代以降の遺跡が多数所在している。下村窯跡は一ツ瀬川右岸、佐土原地域の中央を占める佐土原丘陵に所在する。佐土原丘陵は、内陸丘陵地帯から海岸部に向かって、一ツ瀬川河畔の沖積平野に沿うように東西に伸びる、宮崎層群によって形成された標高70m程の丘陵で、丘陵の南側には、海岸部から内陸に大きく入り込んだ、那珂低地が伸び、丘陵の縁に沿って、石崎川の支流、下村川が流れる。下村窯跡は、この下村川を眼下に見下ろす、丘陵南西面の狭小な２つの尾根斜面を中心に形成される。

第２節　歴史的環境

下村窯跡は古代国郡制下の那珂郡に位置する。周辺における同時代の遺跡は現在までのところ多くはないが、北に隣接する西都市に所在する日向国衙、国分寺、国分尼寺とは、直線距離で9km前後の距離になる。下村窯跡付近から西都市の国府域に至る道として、現在、国道219号線が走っているが、このルート上、下村窯跡の南方6kmには、円面硯が出土し、那珂郡衙の比定候補地に挙げられる北ヶ迫遺跡があり、古代官道の有力候補と言える。

下村窯跡以前を見ると、窯跡の所在する佐土原丘陵とは尾根続きで西方に位置する船野台地上には、昭和40年代に別府大学による調査が行われ、主に東九州に分布する船野型細石核の標式遺跡となっている船野遺跡（南学原第１・２遺跡等）をはじめ、旧石器、縄文時代の遺跡が多数所在する。弥生時代においては、佐土原丘陵の南西端に、「飛鳥」線刻土器を出土した弥生時代集落の下那珂遺跡が所在し、下那珂遺跡南方の砂堤上には、県下では珍しい袋状口縁壺形土器を出土した西片瀬原遺跡や、特徴的な口縁部と突帯を有する甕に代表される「中溝式」の標識遺跡となっている中溝遺跡がある。古墳時代においては、下村窯跡の位置する一ツ瀬川下流域には、九州最大の前方後円墳である女狭穂塚古墳、男狭穂塚古墳をはじめとする西都原古墳群（西都市）や、多彩な埴輪祭式で著名な百足塚古墳をはじめとする祇園原古墳群（新田原古墳群：新富町）など、県下でも有数の大型古墳群の集中地帯となっている。下村窯跡以降の時代には、丘陵の鞍部を隔てた北側に位置する佐土原城が、中世山城として築かれた後、近世には佐土原藩の主城となり、一帯は城下町として栄えることとなる。

以上、下村窯跡周辺は、その前代から後の時代に至るまで、権力に近接した地域としてあり続けており、このことはこの地が平野に面した交通の要衝であったことを示すものであろう。



番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	西都原古墳群	4	日向国分寺	7	上田島横穴墓群（佐土原村古墳）
2	日向国衙（寺崎遺跡）	5	祇園原古墳群（新田原古墳群）	8	下村窯跡群
3	日向国分尼寺推定地	6	山之坊古墳群（新田原古墳群）		

第１図　下村窯跡群および周辺主要遺跡位置図（scale：1/50,000　※天が北）

第Ⅱ章　調査経過

第１節　調査に至る経緯

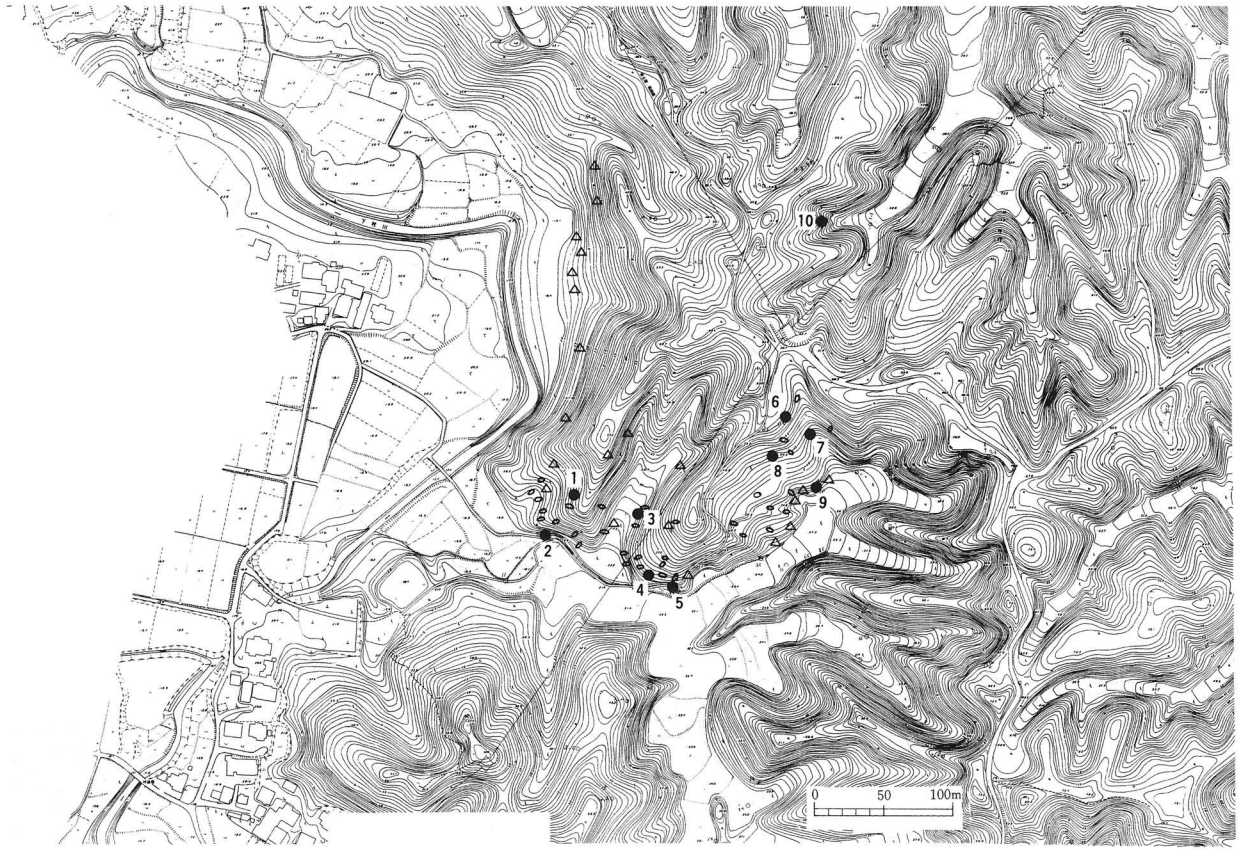
平成元年４月３日、ゴルフ場建設計画に伴い、ハザマ地所株式会社より、佐土原町（現宮崎市）大字東上那珂・上田島一帯における文化財所在の有無について、佐土原町教育委員会教育長あてに照会がなされた。計画地内には周知の埋蔵文化財包蔵地「隠山遺跡」をはじめ、複数の遺跡が所在していたため、同年６月と９月に、ハザマ地所株式会社と佐土原町教育委員会教育長との間で協定書と覚書が取り交わされ、同所における埋蔵文化財の取り扱いについての確認が行われた。翌、平成２年度に実施された町内遺跡分布調査によって、計画地に含まれる周知の埋蔵文化財包蔵地「山田第１遺跡」の域内において、古代の須恵器窯跡「下村窯跡群」が発見された。事業予定地内であることから、平成２年10月、町教育委員会が確認調査を実施し、須恵器、瓦、焼土等が検出され、窯跡であることが確認された。この結果をもとに、平成３年２月、宮崎県文化課（現文化財課）、佐土原町教育委員会、ハザマ地所株式会社の三者で協議が行われ、工事によって消失する約19,900㎡を対象に、本発掘調査が実施されることとなった。

第２節　調査対象範囲と調査経過

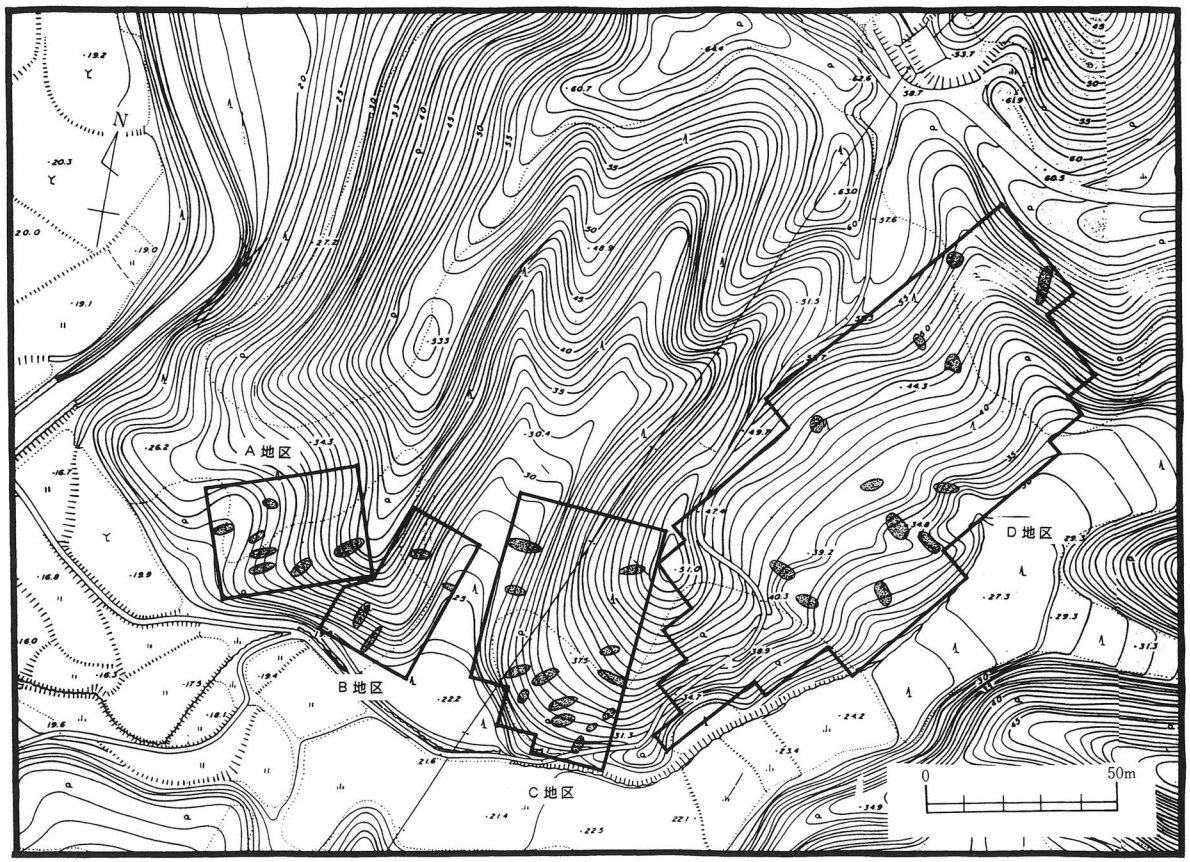
下村窯跡群は２つの狭小な尾根斜面の標高20～50ｍの位置に構築されている。事前の表面調査、および調査掘削に先立って実施された磁気探査からは、３つの尾根斜面において窯の分布が想定された。うち、北西に位置する尾根と南西の尾根の西側斜面は工事掘削範囲外として現状保存の措置となった。南西尾根の東半と南東尾根、及び両尾根に挟まれた迫部分は工事掘削を免れえず、記録保存のための発掘調査が実施された。

調査対象範囲においては、西からＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４つの調査区が設けられ、また調査着手後に、南東尾根の北側に位置する尾根でも窯が確認されたため、Ｅ地区として調査を行った（第３図）。先述のとおり、調査掘削に先立ち、当時、活用が始められていたプロトン全磁力計による磁気探査が実施された。調査対象範囲内において36ヶ所の磁気反応地点が見られ、この結果をひとつの指標として、平成３年７月から発掘調査が開始された。年度が変わると、同事業地内の隠山遺跡の発掘調査と同時並行で調査が続けられ、平成４年９月に現地調査は終了した。結果として、Ａ地区で１基、Ｂ地区で１基、Ｃ地区で３基、Ｄ地区で４基、Ｅ地区で１基、計10基の窯が確認された。

調査終了後、佐土原町教育委員会より、平成４年に『下村窯跡概要報告書Ⅰ』が、平成８年に『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』が刊行されている。本書は〈遺物編〉として、上記報文に未報告であった遺物資料の報告を行う。



第２図　下村窯跡群地形図（△須恵器・瓦等採集地点、● １～10号窯跡及び灰原出土地点、０磁気探査反応地点）
※＜基礎資料編＞（1996年）より転載



第３図　調査区配置図　　※＜基礎資料編＞（1996年）より転載

第Ⅲ章　調査成果

第1節　調査成果の概略

Ａ～Ｅ区、5つの調査区を設定して調査を実施し、8世紀中葉～9世紀後半の須恵器、瓦が出土している。

Ａ区は南西尾根の前面南側斜面で、磁気探査時Ａ地区に相当し、遺構としては1号窯が検出されている。8世紀中葉から9世紀前半の須恵器と瓦が出土している。

Ｂ区は南西尾根の前面南側の現況迫の部分で、遺構としては2号窯が該当する（磁気探査時Ｂ地区とは異なる）。須恵器、瓦が出土しており、須恵器の殆どは8世紀中葉～後葉のものである。

Ｃ区は南西尾根の南東面と南東尾根の西半、及び両尾根の間の迫とを包括し、磁気探査時のＢ地区とＣ地区を包括する。遺構として3号窯、4号窯、5号窯が該当するが、遺物出土の殆どは、3号窯（磁気探査時仮12号）西側の迫部分からの出土である。9世紀中葉～後葉の須恵器、瓦を大量に含有する層10層分を確認している（〈基礎資料編〉：Ｃ地区3号窯灰原出土遺物、本書：Ｃ区出土遺物）。

Ｄ区は南東尾根の基部、南東斜面に位置し、磁気探査時のＤ地区の一部に相当する。遺構として6号窯、7号窯、8号窯、9号窯が該当し、9世紀前葉～中葉の須恵器が出土している。

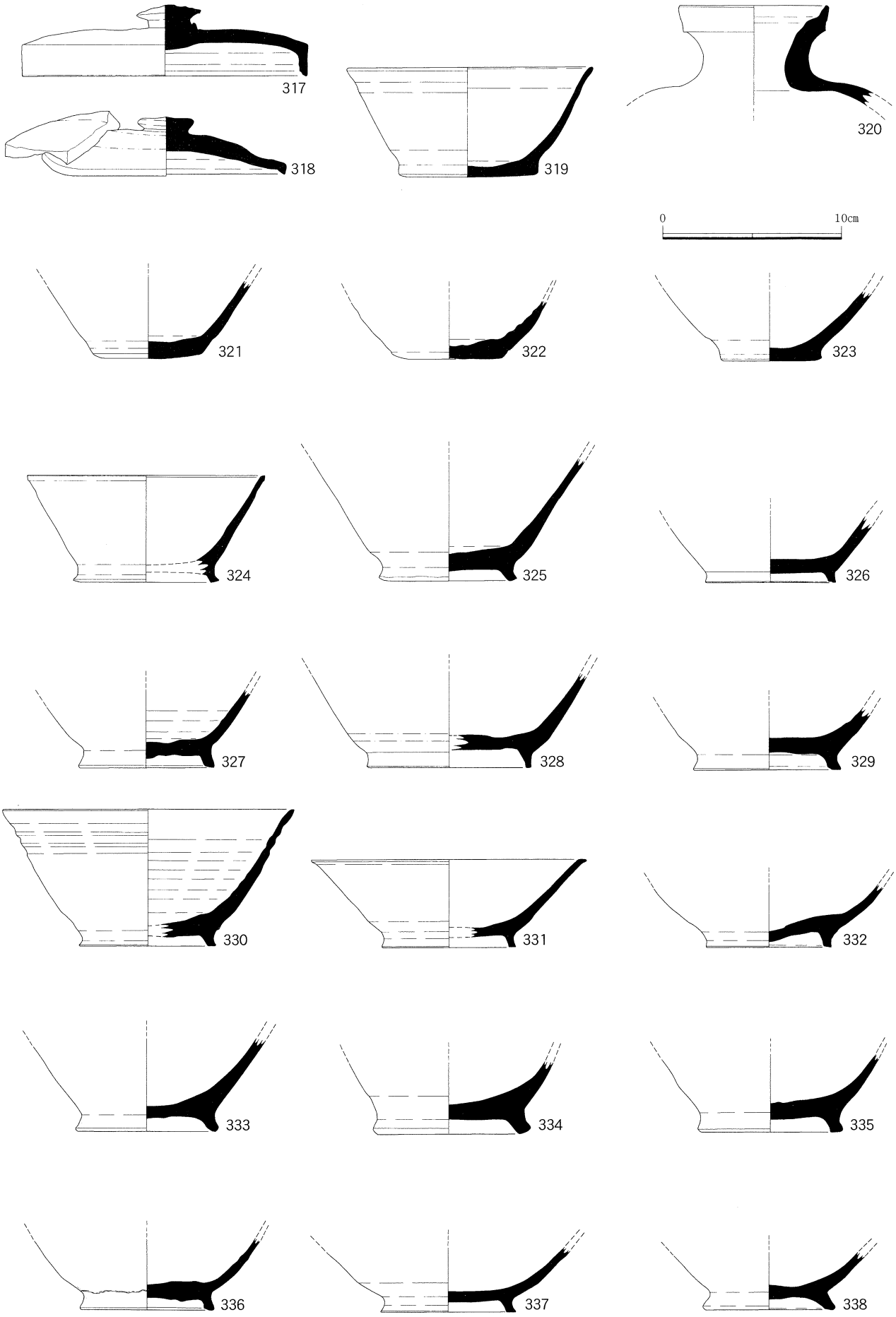
Ｅ区は上記Ｄ区から北に150ｍの地点に位置する10号窯で、1基だけ他の窯と大きく離れて存在する。9世紀中葉～後葉の坏が少量出土している。

第2節　須恵器

椀、坏、蓋、甕、長胴壺、短頸壺、高坏、鉢、皿、水滴が出土している。うち、主要なものの殆どは前報文〈基礎資料編〉において報告しているが、本書では、未報告であった資料のうち、完形ないし完形に近く復原できるものを中心に選別して図示した。遺物番号は、〈基礎資料編〉からの通し番号である。

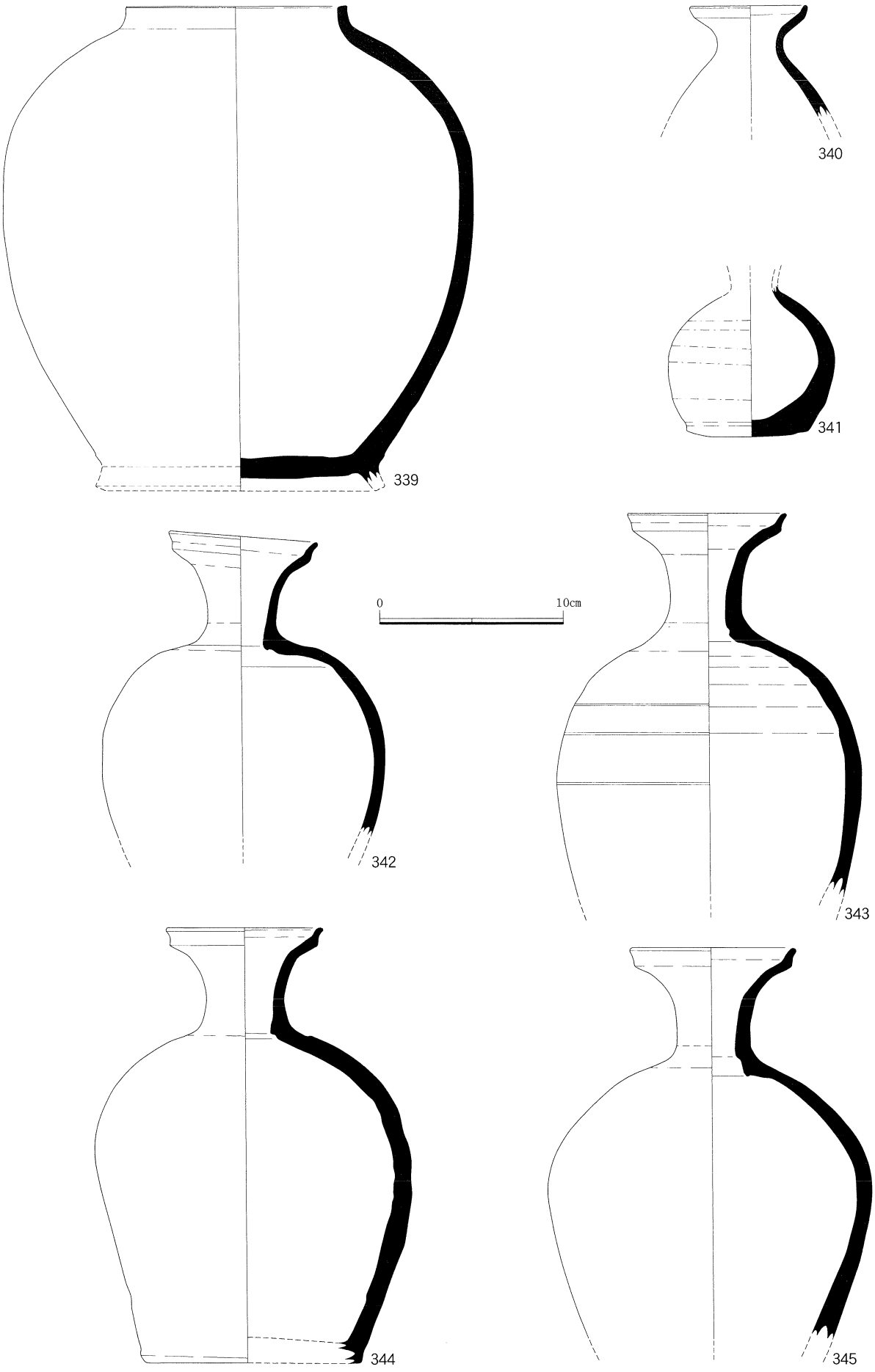
編年、実年代については、「第Ⅳ章 考察」に詳述しているので参照していただきたいが、下村窯出土の須恵器は、8世紀の中葉から9世紀の後半までの概ね150年程度の期間内に収まる。

地区別では、Ａ区では椀、坏、蓋、甕、短頸壺が出土しており、長胴壺はない。時期は8世紀中葉から9世紀の前半までであるが、8世紀中葉～後葉は椀、坏、蓋の小型品がほとんどである。9世紀前半には換わって甕が多く、椀、坏、蓋はわずかとなる。Ｂ区では、Ａ区と同じく椀、坏、蓋、甕、短頸壺が出土し、長胴壺はない。坏に9世紀台の円盤底、円柱状底部のものが散見されるが、殆どは8世紀中葉～後葉である。Ｃ区では椀、坏、蓋、甕、長胴壺、短頸壺が出土し、長胴壺、甕の大型品が顕著である。全て9世紀前半～後半のものであり、8世紀台のものはない。Ｄ区では甕、長胴壺の大型品のみが出土し、Ｃ区と同じく9世紀前半～後半である。Ｅ区では9世紀中葉～後葉の坏のみが出土している。



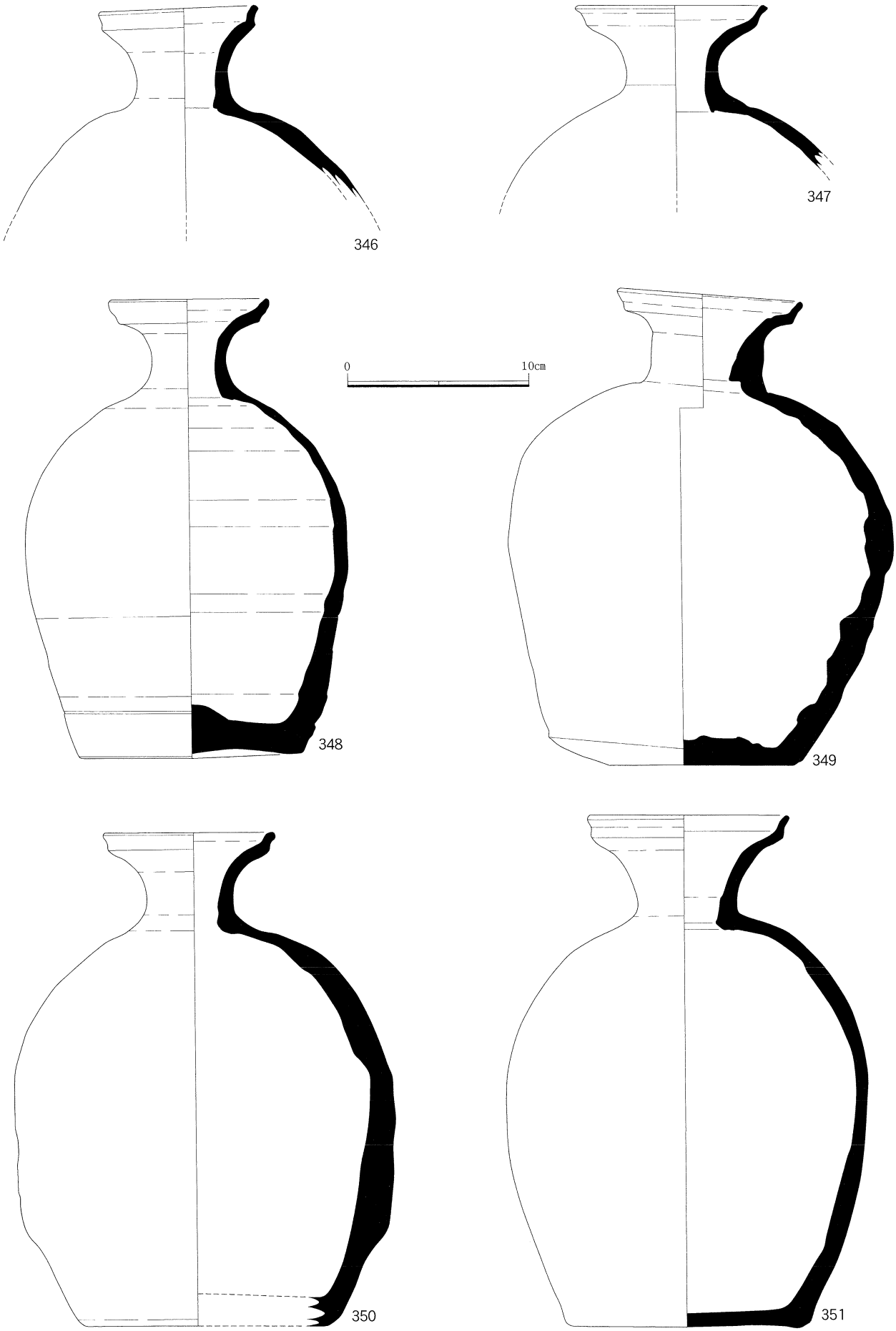
第４図　出土須恵器①（scale：1/3）

※317・318：Ａ区　　319・320：Ｂ区　　321～338：Ｃ区



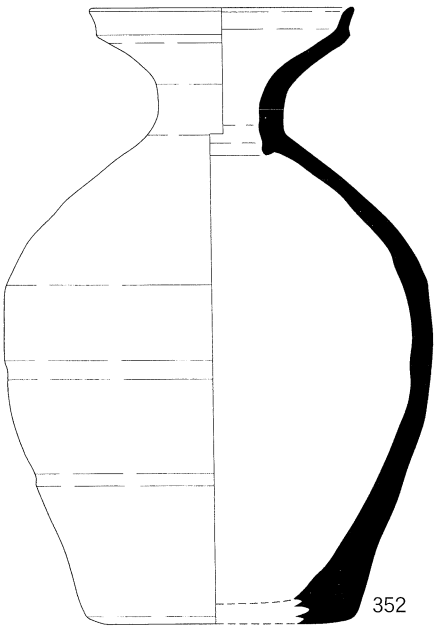
第 5 図　出土須恵器②（scale：1/3）

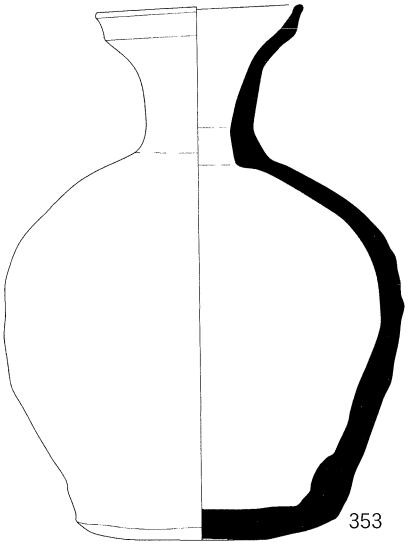
※339～345：C区

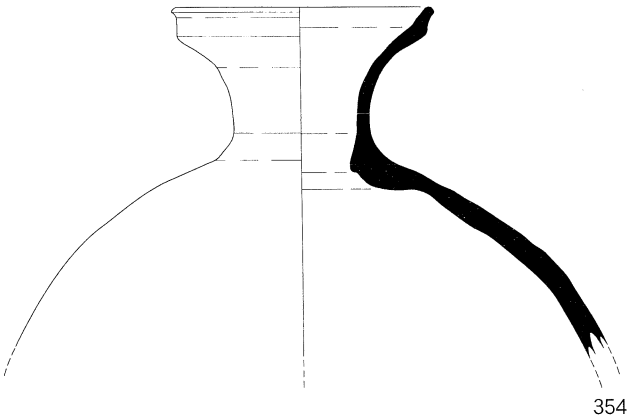


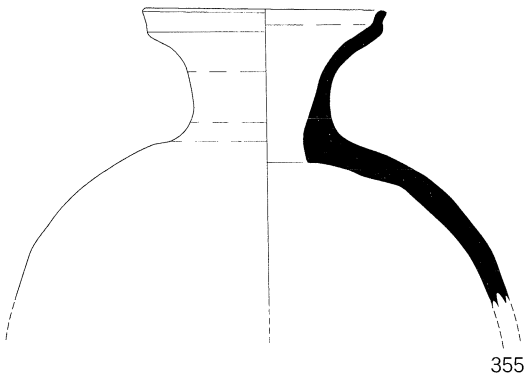
第6図　出土須恵器③（scale：1/3）

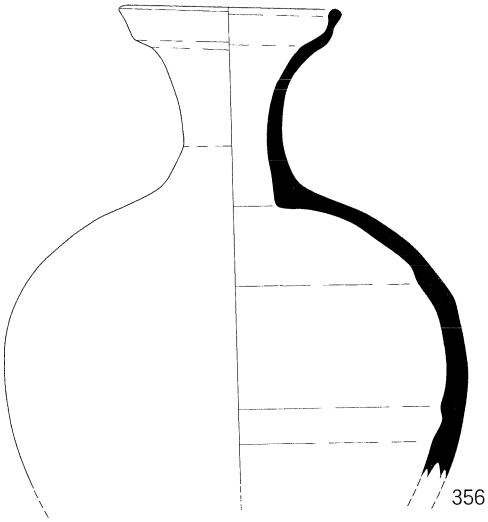
※346～351：C区

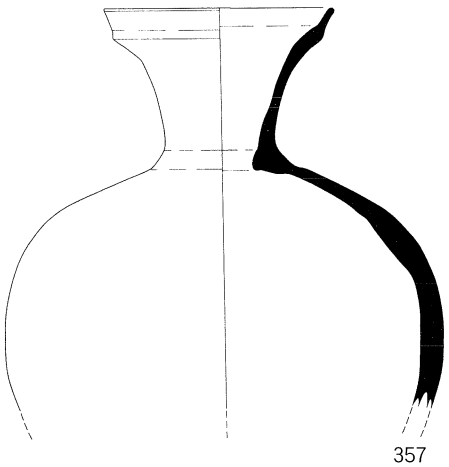






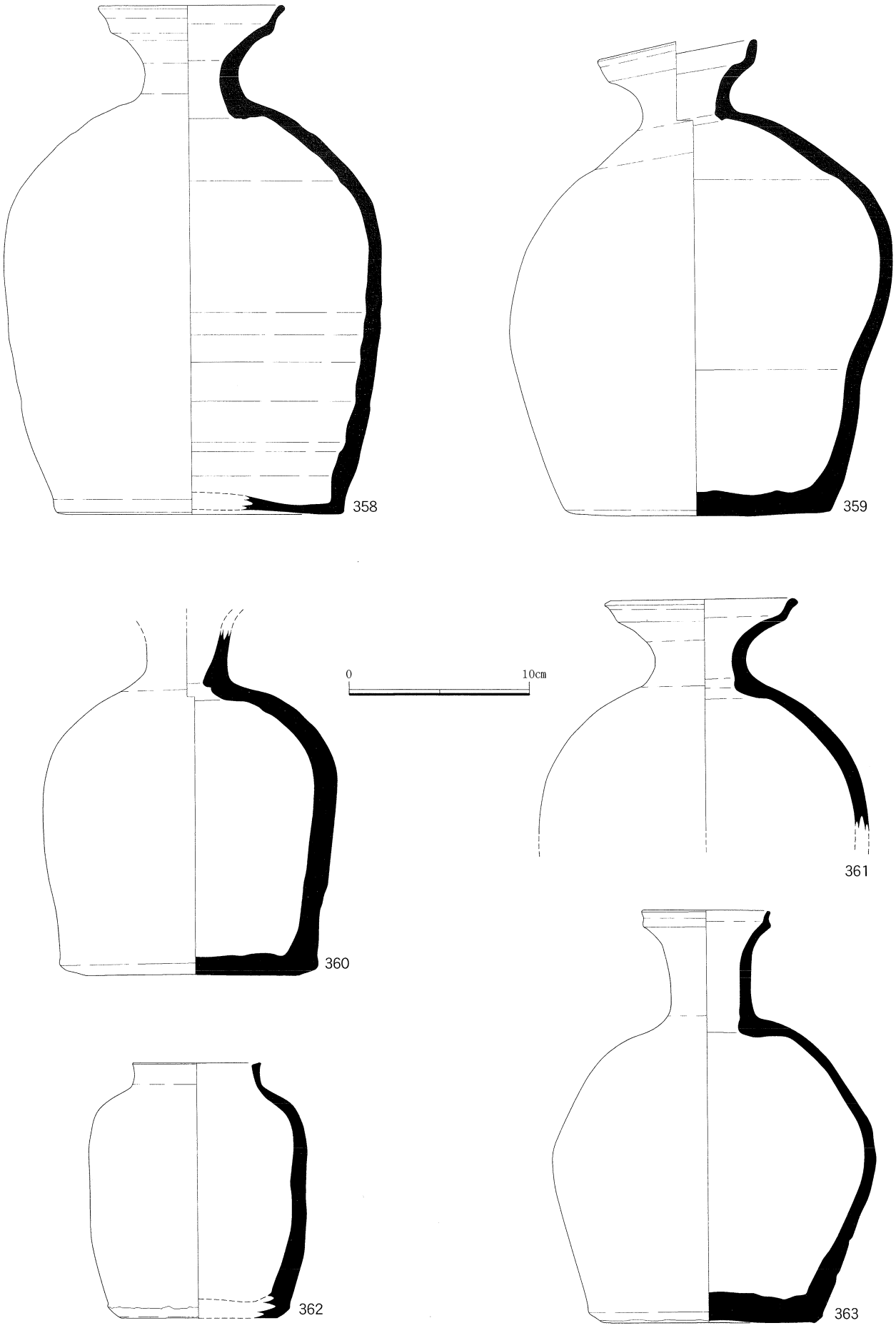






第７図　出土須恵器④（scale：1/3）

※352～357：Ｃ区

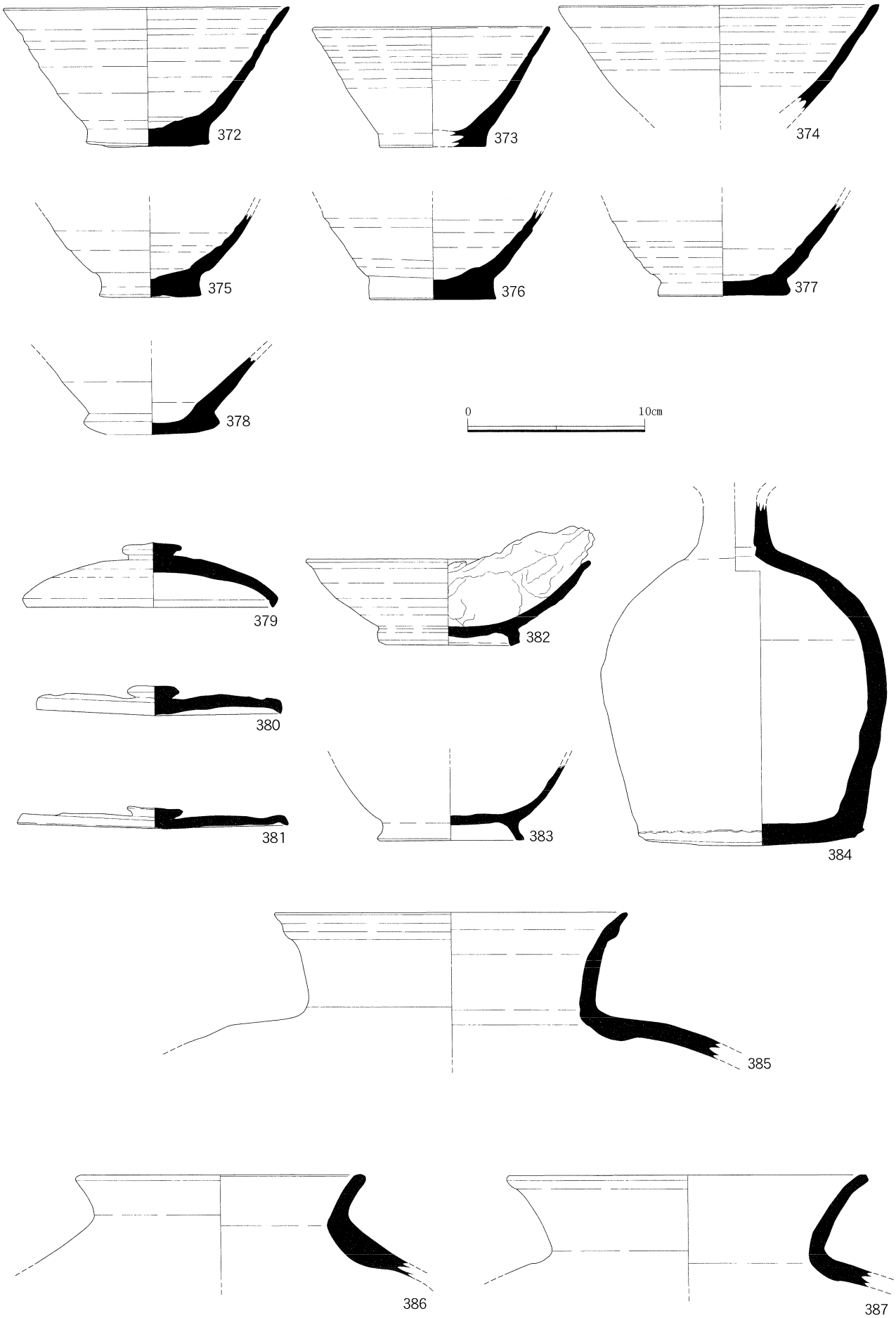


第８図　出土須恵器⑤（scale：1/3）

※358～361：Ｃ区　　362・363：Ｄ区

第９図　出土須恵器⑥（scale：1/3）

※364～372：Ｄ区



第10図　出土須恵器⑦（scale：1/3）

※372～378：E区　　379～387：一括

第3節　瓦

※ 佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書』〈基礎資料編〉（1996年）より再録

※ 遺物番号は新規振り直し

（1）　瓦の分類

当遺跡では平瓦・丸瓦・熨斗瓦は出土しているが、軒丸瓦・軒平瓦は全然出土していない。瓦はＡＢＣ地区の順で、出土した順に図示した。

1　平瓦

当遺跡出土の平瓦は凸面の叩きと凹面の調整によって次のようにわけることができる。

第Ⅰ類の格子目叩きは全然出土していない。

第Ⅱ類　縄目叩き

縄目叩きは5㎝あたりの縄目の条数を計測し、13条以下を粗縄目、14条以上を精縄目とする。縄目の叩きの方向は横方向が主体であるが、斜方向・縦方向も一部見られる。

a　横精縄目叩き（427・440・455・468・481・500）

凹面の調整はすべて布目の1類である。500が16条、440が15条に対して残りはすべて14条である。500の凸面の叩きは16条と8条であり、側面の凸面がわずかに段状になる。468・481も側面の凸面がわずかに段状になる。3点とも布目痕の上を一部ナデている。427・440は段状にならない。455は端面の凸面側を面取りを施している。

b　横粗縄目

凸面の縄目叩きは8条と11条のものが多く、次いで10条と12条である。

凹面は布目の1類（394・396・398・408・410・412・414・416・427・432・434・438・439～443・445・447・451・453・454・457・458・460・465・466・467・469～471・473～479・481・483・486・493～495・498～500・504・506・507・509～512・519）、粗縄目叩きとナデの2類（419・478・484）、ナデの3類（395・444・459・464・491・492・505・508・514）、粗縄目叩きと布目の4類（409）に分かれる。

1類には側面の断面によって414・416のように凹面側を面取りするものと、427・453のようにしないものがある。398・439・442のように側面の凸面がわずかに段状になる。2類の419の凹面は縦方向の縄目叩きで、側面は面取りをしない。478の凹面は横方向の11条の縄目叩きで、側面の凸面が一部段状になる。484の凹面は横方向の8条の縄目叩きで、端面はナデている。3類は459・464・491・505・508のように側面の凸面が段状になるものと、444・492・514のようにならないものがある。4類の409の凹面は横方向の12条の縄目叩きを、端面にはナデを施し、側面の凸面が段状になる。

c　縦粗縄目

凹面は布目の1類（407・435・450・452・497）、粗縄目叩きとナデの2類（515）、ナデの3類（413）、粗縄目叩きと布目の4類に分かれるが、4類は出土していない。

1類の縄目の条数は396～400で、布目は6×6が多い。側面の断面によって435のように凹面側を

面取りするものと、407・450・497のようにしないものがある。407は側面の凸面が段状になるが、435・450・497はならない。435の端面はナデを施しているが、一部に布目痕を残しており、一枚作りの可能性がある。2類の515は凸面を縦方向の10条の縄目叩き、凹面は横方向の10条の縄目叩きを施した後、かなりナデ消している。

3類の413は凸面を縦方向の9条の縄目叩き、凹面は不定方向のナデを施している。

d　斜粗縄目

凹面は布目の1類（389・417・422・440・448・463・472・513）、粗縄目叩きとナデの2類、ナデの3類（397・425）、粗縄目叩きと布目の4類（393）に分かれるが、2類は出土していない。

1類の縄目の条数は6～12で、布目は6×6が多い。側面の断面によって422・472のように凹面側を面取りするものと、389・448・463・513のようにしないものがある。422・448・463は側面の凸面が段状になるが、389・472・513はならない。513は凹面に離れ砂が残っている。3類の397は側面の凹凸面とも段状になるが、425はならない。425は凹面側を面取りしている。397は凸面が6条縄目叩きであるのに対して425は8条縄目叩きである。4類の393は凸面が6条縄目叩きであるのに対して凹面は横方向の8条縄目叩きであり、側面の凸面は段状にならない。

e　複数粗縄目

凹面は布目の1類（428・430・436・437・449・462・467・480・482・489・490・502・517）、粗縄目叩きとナデの2類、ナデの3類（496）、粗縄目叩きと布目の4類（516）に分かれるが、2類は出土していない。

1類の縄目叩きの組合わせは横・斜方向が430・436で、それ以外は横・縦方向の組み合わせである。縄目の条数は7～11で、布目は6×6が多い。側面の断面によって449・462・467・490のように凹面側を面取りするものと、それ以外のしないものがある。480・490・517は側面の凸面が段状になるが、それ以外はならない。513は凹面に離れ砂が残っている。3類の496の凸面は横方向の8条の縄目叩きの上から縦方向の縄目叩きを、凹面には縦方向のナデを施している。側面の凸面は段上にならないし、端面の凹面側の面取りもない。凹面に離れ砂が残っている。4類の516は凸面を横方向の12条の縄目叩きの上から縦方向の縄目叩きを、凹面は布面痕の上から縦・横方向の12条縄目叩きを施し、側面の凸面は段状にならない。

Ⅲ類　叩きの痕をきれいにナデ消す

a　叩き板によるナデ（399・429）

11は凸面には叩き板による縦方向のナデを、凹面には6×6の布目痕の上から叩き板によるナデを斜方向に施している。側面の凹面に面取りを施している。429は両面とも風化している。

b　ナデ

凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す1類、叩き板によるナデを施す2類、きれいにナデ消す3類、縄目叩きの4類（521）に分かれるが、1～3類は出土していない。

4類の521の凹面は縦方向の10条の縄目叩きを施し、側面の両面の面取りを施していない。

Ⅳ類　平行叩き（446・503）

凹面は布目の1類（503）、ナデの2類（446）がある。503の側面には途中までヘラ切りして、手で割った痕跡を残している。446は側面が少し段状を呈し、端面の凹面側に面取りを施している。

2　　丸瓦

丸瓦はすべて行基式のもので、凸面の叩きによって格子目・縄目・平行叩きを残すものに分かれるが、出土しているのは縄目叩きとナデのみである。

Ⅱ類　縄目叩き

b　横粗縄目

凸面の縄目叩きはすべて横方向であり、凹面の調整によって布目の1類（524・527～529・531・533・535・536・539～541）、横方向の縄目叩きの上の布目の2類、横方向の縄目叩きの3類（525）に分かれるが、2類は出土していない。

1類の縄目の条数は8～13で、布目は5×6が多い。側面の断面によって524・528のように凹面側を面取りするものと、527・531・539のようにしないものがある。524・528・533・541は側面の凸面が段状になるが、その他はならない。536は凹面の布目は14×15で非常に細かい。539は両面に自然釉が付着しており置き台として使用された可能性がある。3類の525は凹凸面とも横方向の縄目叩きの上から縦方向のナデを施している。

e　複数粗縄目

凹面は布目の1類（537・542）、粗縄目叩きとナデの2類、ナデの3類（532）、粗縄目叩きと布目の4類に分かれるが、2類と4類は出土していない。

1類の537は横方向と斜方向の8条の縄目叩きを施し、側面の凹面は段状になり、凹面側に面取りを施している。542は横方向と縦方向の10条の縄目叩きを施している。3類の532は横方向と斜方向の10条の縄目叩きを施し、側面の凸面は段状になり、凹面側に面取りを施している。

Ⅲ類　叩きの跡をきれいにナデ消す

a　叩き板によるナデ（526）

526は凸面には叩き板による縦方向のナデを、凹面には5×5の布目痕がわずかに残る。側面の凹凸面に面取りを施している。

b　ナデ

凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す1類（534・538・543）、叩き板によるナデを施す2類、きれいにナデ消す3類、縄目叩きの4類（544）に分かれるが、2類・3類は出土していない。

1類の534は側面の凹凸面とも面取りを施している。543は側面の凹面の面取りを施している。4類の544の凸面は縦方向のナデを、凹面には布目痕の上に縦方向の縄目叩きを施す。

3　熨斗瓦

当遺跡出土の熨斗瓦は凸面の叩きと凹面の調整によって次のように分けることができる。

第Ⅰ類　格子目叩き

格子目叩きには斜格子・長方形格子はなく正斜格子のみである。

a　正格子目叩き（570）

570は正格子の一辺長が3㎜×3㎜の規格であり、横方向の10条の縄目叩きも施している。格子目叩きはこれ1点のみで注目されるが、須恵器の叩き板によるものである。

第Ⅱ類　縄目叩き

縄目叩きには5㎝あたりの縄目の条数を計測し、13条以下を粗縄目、14条以上を精縄目とする。縄目の叩きの方向は横方向のみである。

b　横粗縄目

凸面の縄目叩きは8条と11条のものが多く、次いで10条と12条である。

凹面は布目の1類（400・403・405・406・545・548・552・556・557・561・565・571・581・590・592・593・596・598・601・603）、粗縄目叩きとナデの2類（572・605）、ナデの3類（404）、粗縄目叩きと布目の4類（558・563・567・574・607）、平行叩きと布目の5類（547）に分かれる。

1類には側面の断面によって･4のように凸面側を面取りするものと､6のようにしないものがある。423は側面の凸面がわずかに段状になる。2類の572の凹面は横方向の9条縄目叩きで、側面の凸面が段状になり、凹面は面取りをしている。605は凹面は横方向の8条の縄目叩きで、側面は面取りしていない。3類の404は凹面を縦方向にナデている。4類の563は側面の凹面が段状になるが、その他はならない。凹面は574が布目の上に縄目叩きに対して、563・567・607は逆である。558・567・574は片側の側面内側からヘラ切りされ、途中からは手で破断されていることから、1枚の平瓦を2つに切断して熨斗瓦を2枚作っている。567は側面の凹面側に縄目叩きを残している。5類の547は平行叩きの上に布目を残しており、4類と同様に内側から破断されている。

c　縦粗縄目

凹面は布目の1類（564）、粗縄目叩きとナデの2類、ナデの3類、粗縄目叩きと布目の4類に分かれるが、2～4類は出土していない。

1類の564は凸面を縦方向の10条の縄目叩き、凹面の布目痕がほとんどナデ消している。

d　斜粗縄目

凹面は布目の1類（402・546・554・560・568・578・588・591・595・608）、粗縄目叩きとナデの2類（580）、ナデの3類（577）、粗縄目叩きと布目の4類（582・594）に分かれる。

1類の縄目の条数は4～10である。側面の断面によって591のように凹面側を面取りするものと、それ以外のしないものがある。554・568・588・591は側面の凸面が段状になるが、それ以外はならない。546はヘラによる破断が外側からである。2類の580は側面の凸面が段状になり、凹面を面取りしている。3類の577は凸面が8条の縄目叩きである。4類の594の凹面は布目痕の上に横方向の7条縄目叩きを施している。582には離れ砂が付着している。577・594とも側面の凸面は段状にならない。

e　複数粗縄目

凹面は布目の1類（555・573）、粗縄目叩きとナデの2類（587）、ナデの3類、粗縄目叩きと布目の4類（566・575・583）に分かれるが、3類は出土していない。

1類の555は側面の凸面が段状になり、内側から破断している。2類の587も555と同様である。4類の566・575・583の凹面は横方向縄目叩きの上から布目痕である。

Ⅲ類　叩きの跡をきれいにナデ消す

a　叩き板によるナデ（586）

586は凸面には叩き板による縦方向のナデを、凹面には布目痕の上から叩き板によるナデを縦方向に施している。

b　ナデ

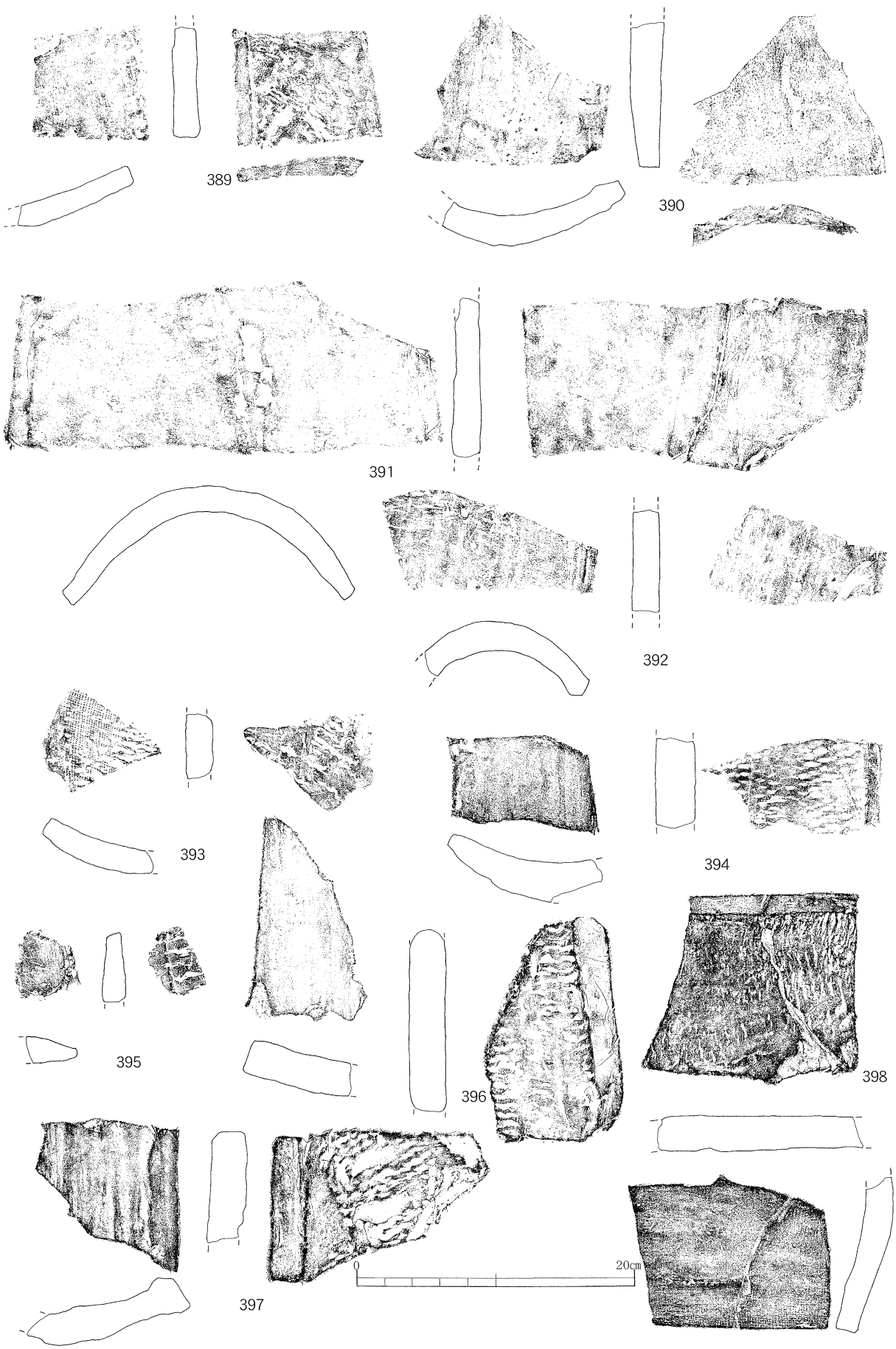
凸面は叩きの上からきれいにナデ消し、凹面の調整によって布目の上から部分的にナデを施す1類、叩き板によるナデを施す2類、きれいにナデ消す3類、縄目叩きの4類（549）に分かれるが、1～3類は出土していない。

4類の549の凹面は横方向の9条の縄目叩きを施し、側面の凸面側が段状になる。

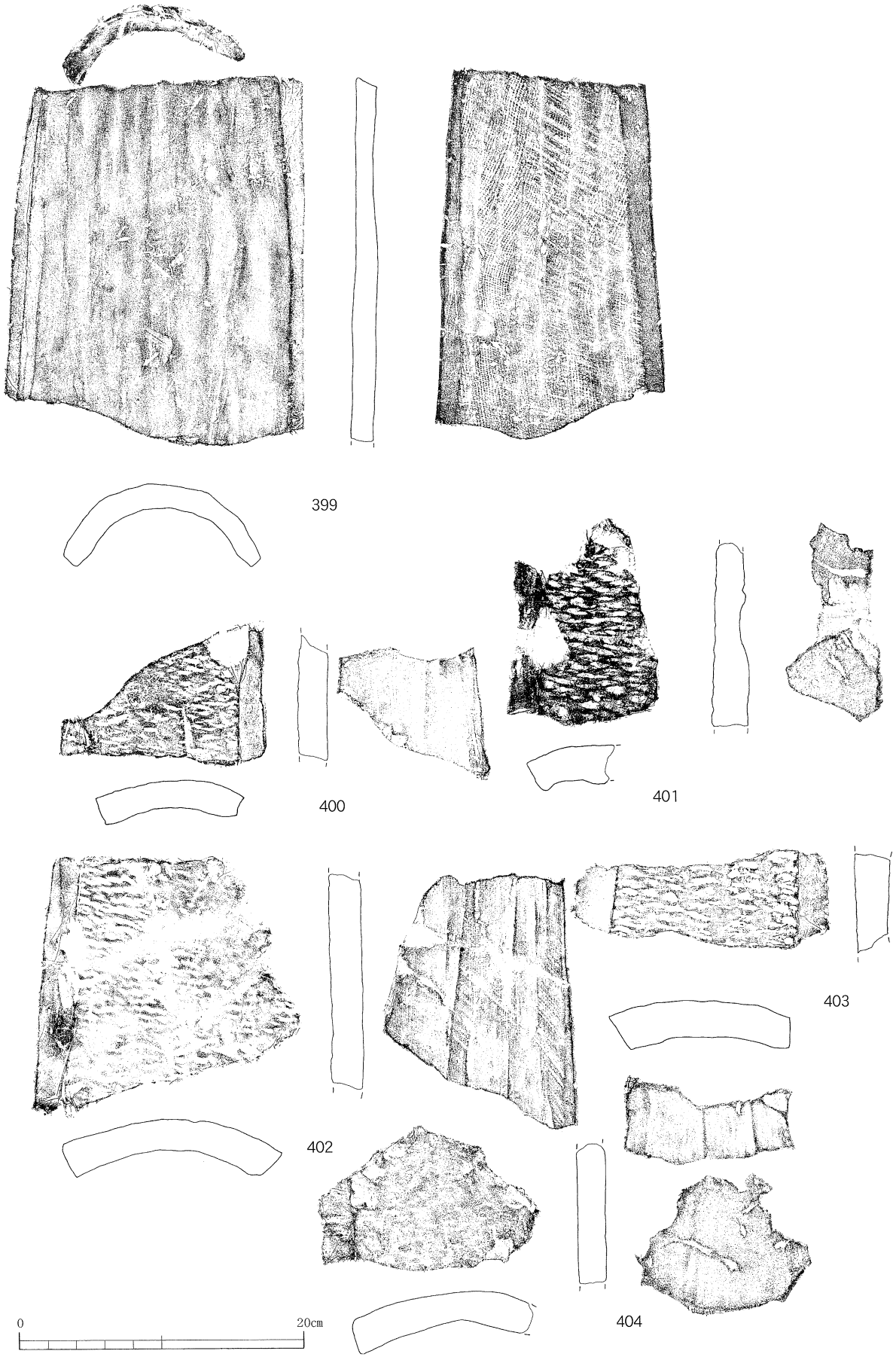
Ⅳ類　平行叩き

凹面は布目の1類（550・551・563・576）、ナデの2類（584）、縄目叩きと布目の3類（589）がある。平行叩きの方向はすべて横方向である。

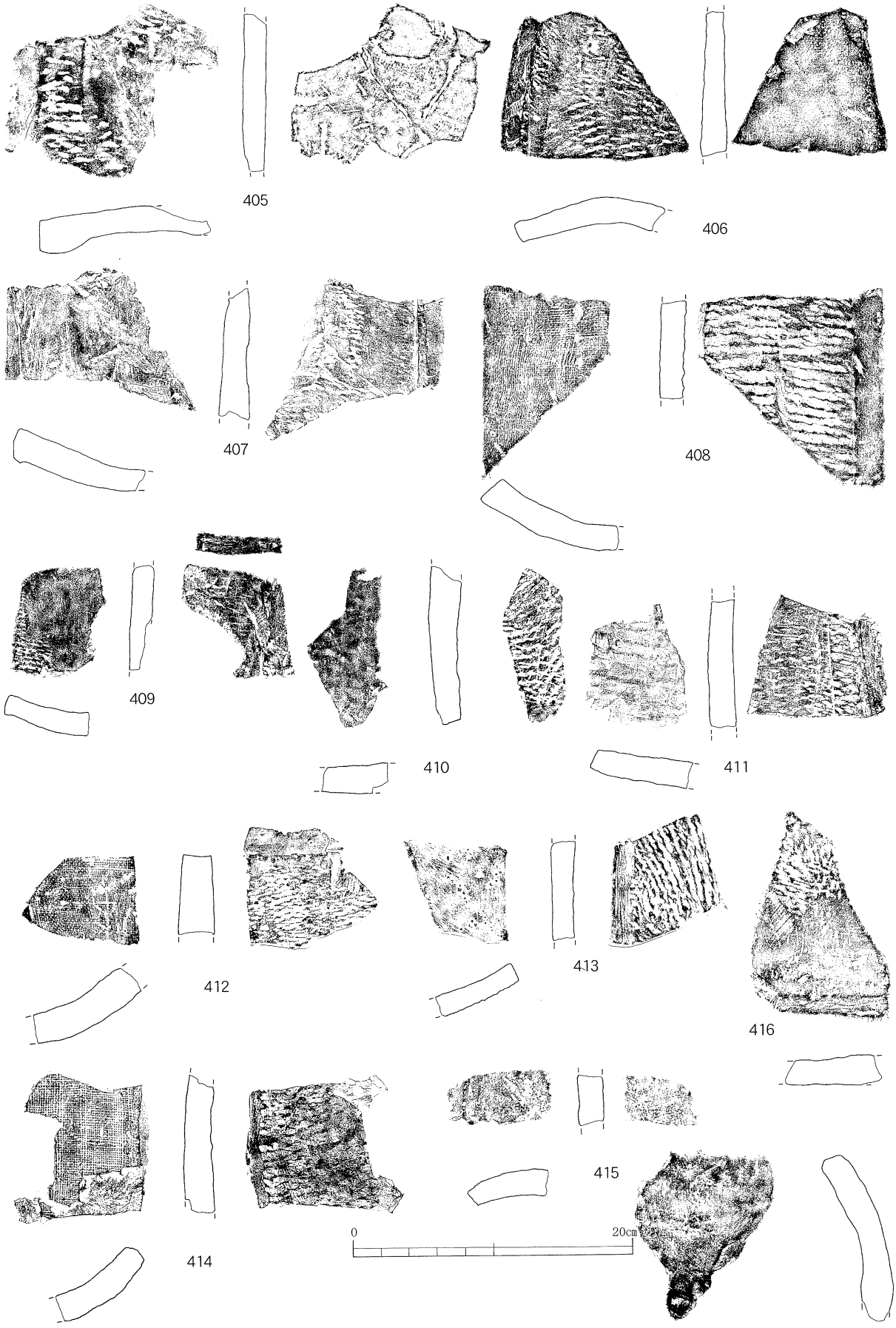
1類のうち576のみが側面は段状になる。2類の584の凹面は布目の上から斜方向に叩き板でナデている。3類の589の凹面は布目痕の上から横方向の11条縄目叩きを施している。



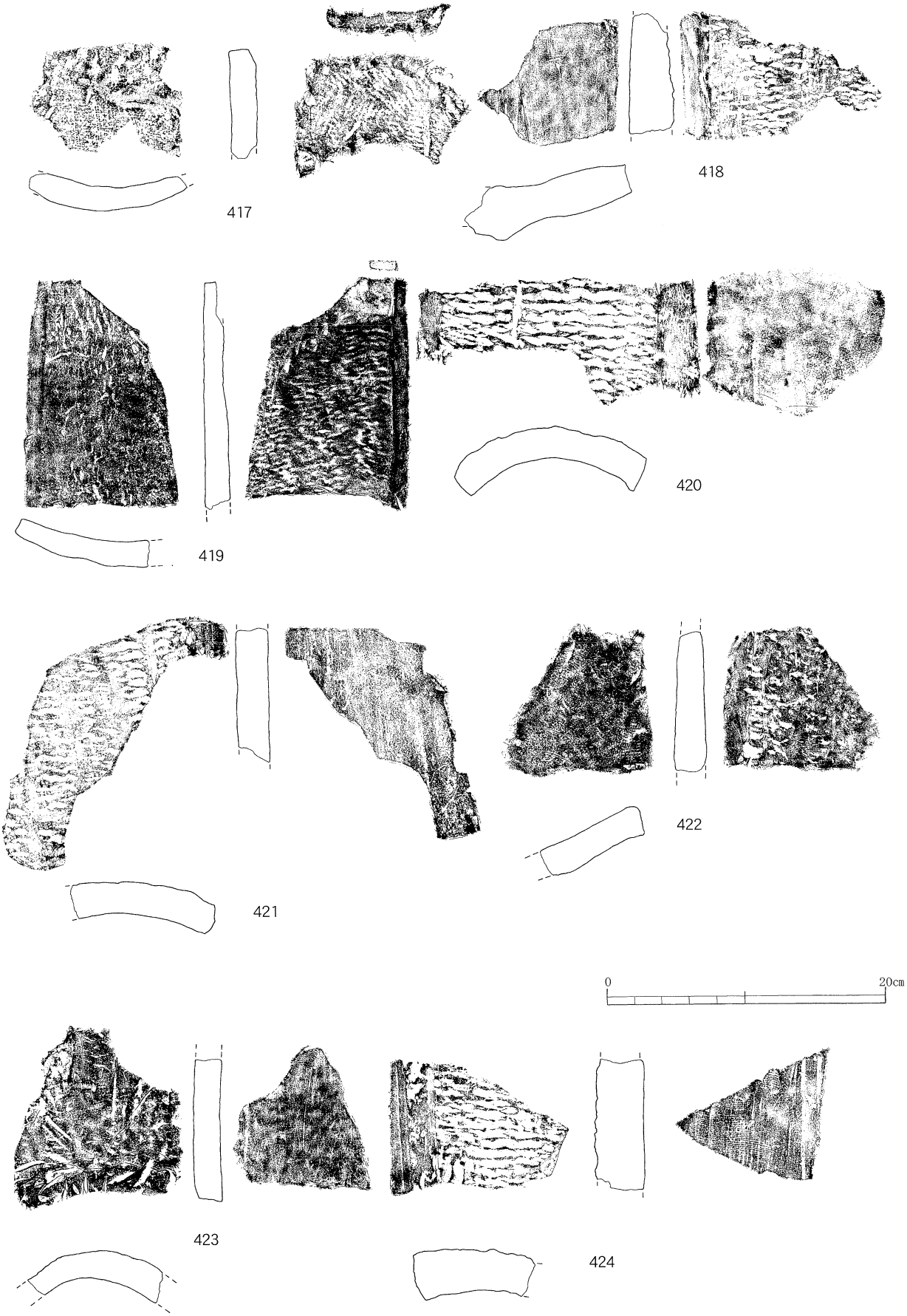
第11図　出土瓦①（scale：1/4）



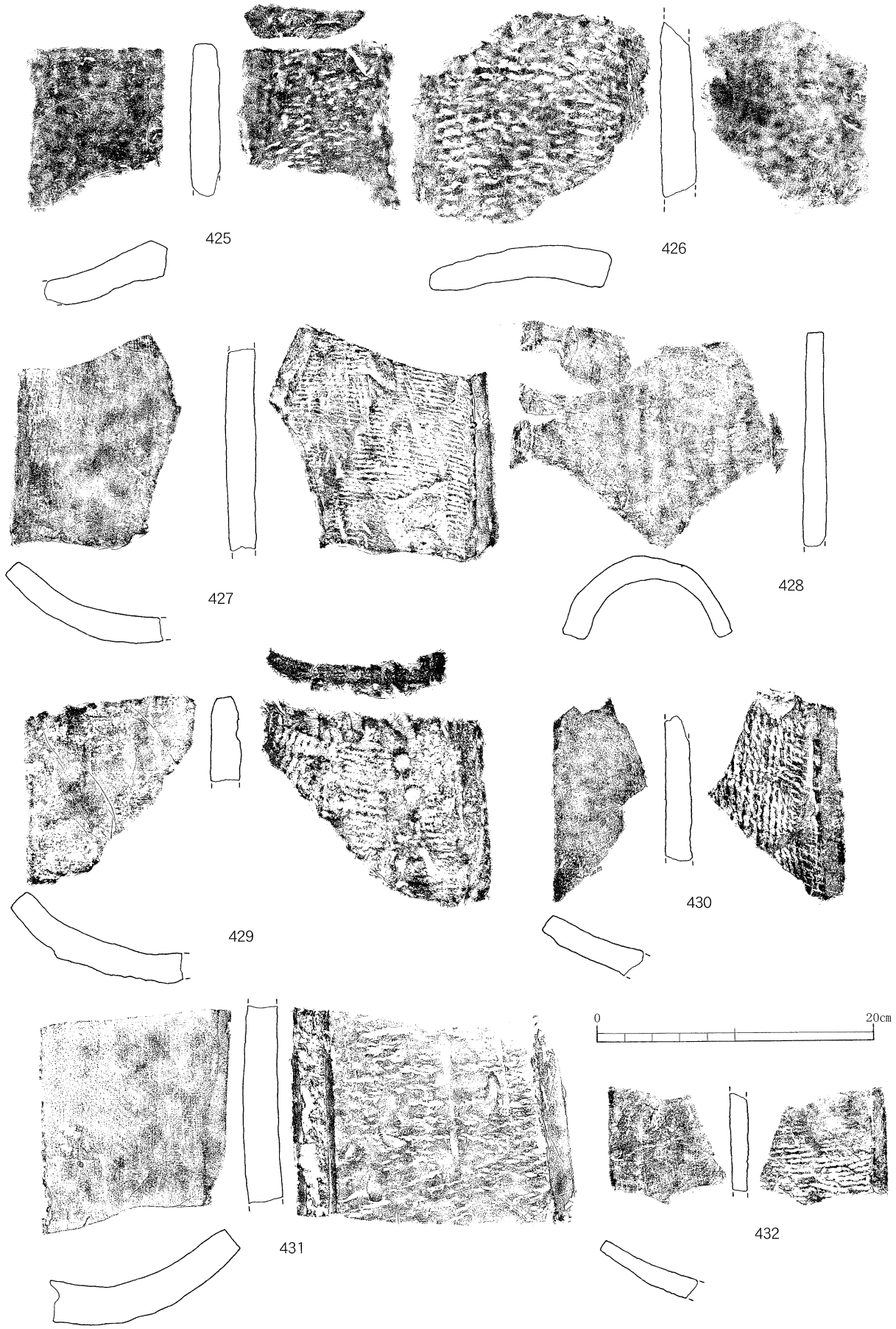
第12図　出土瓦②（scale：1/4）



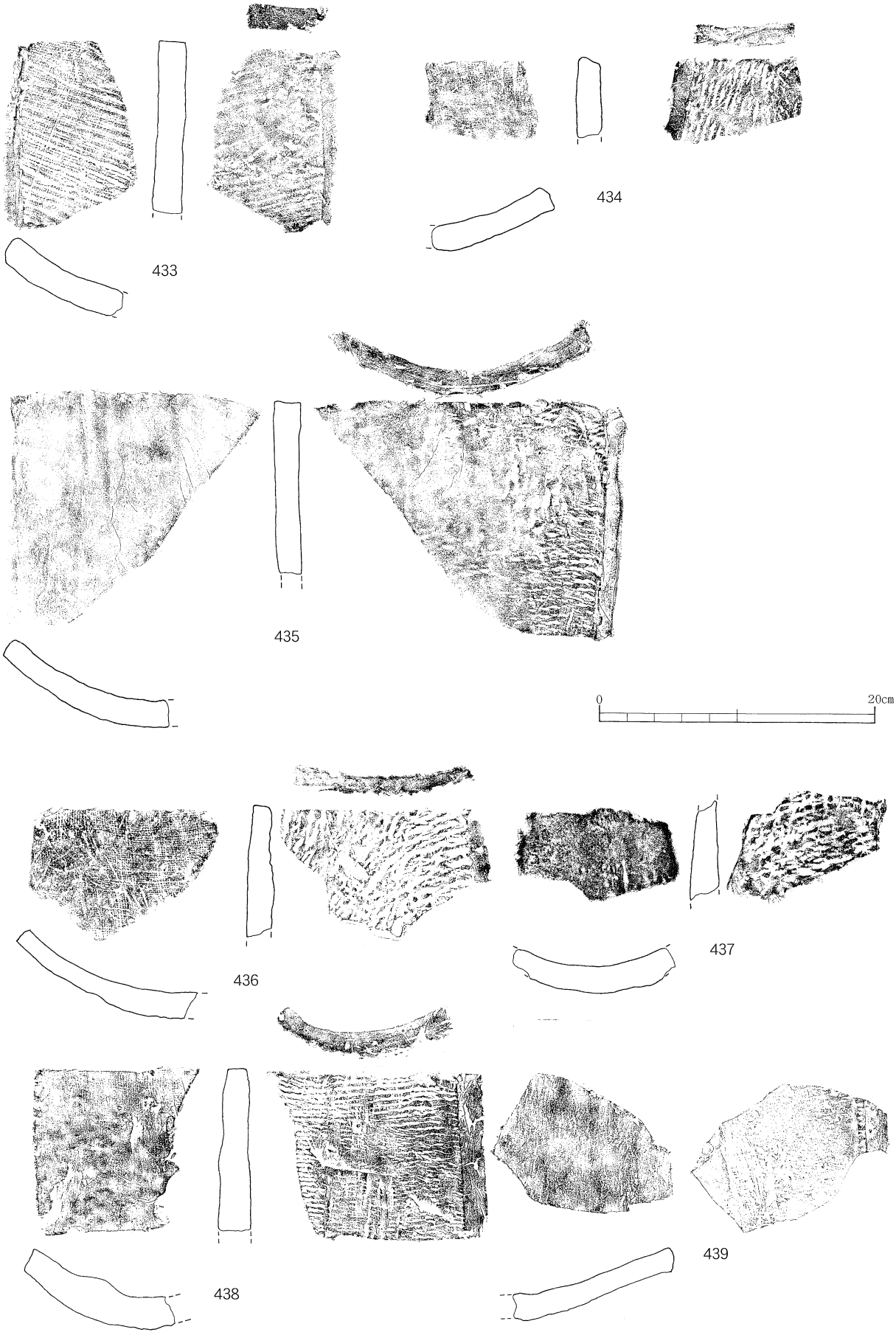
第13図　出土瓦③（scale：1/4）



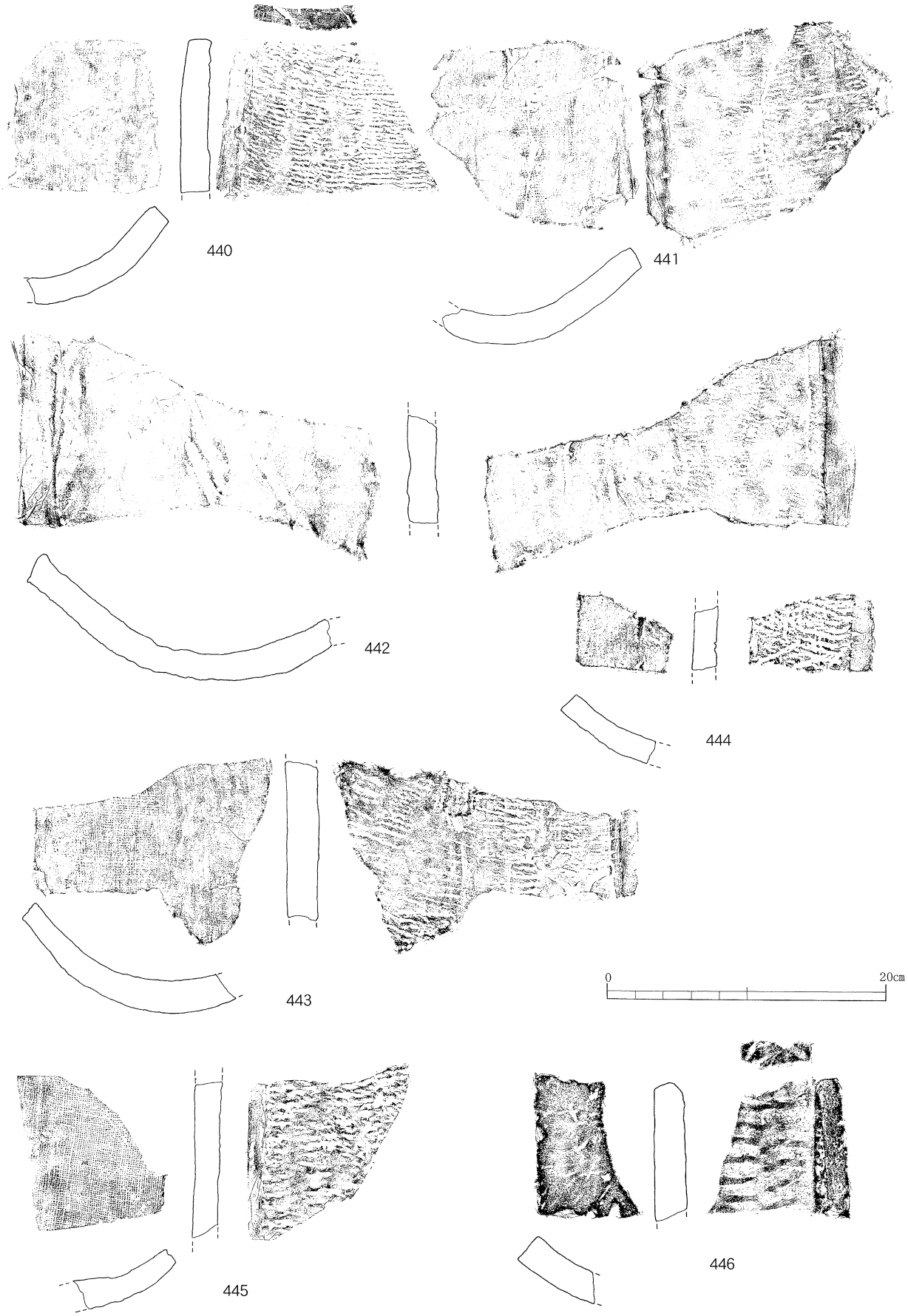
第14図　出土瓦④（scale：1/4）



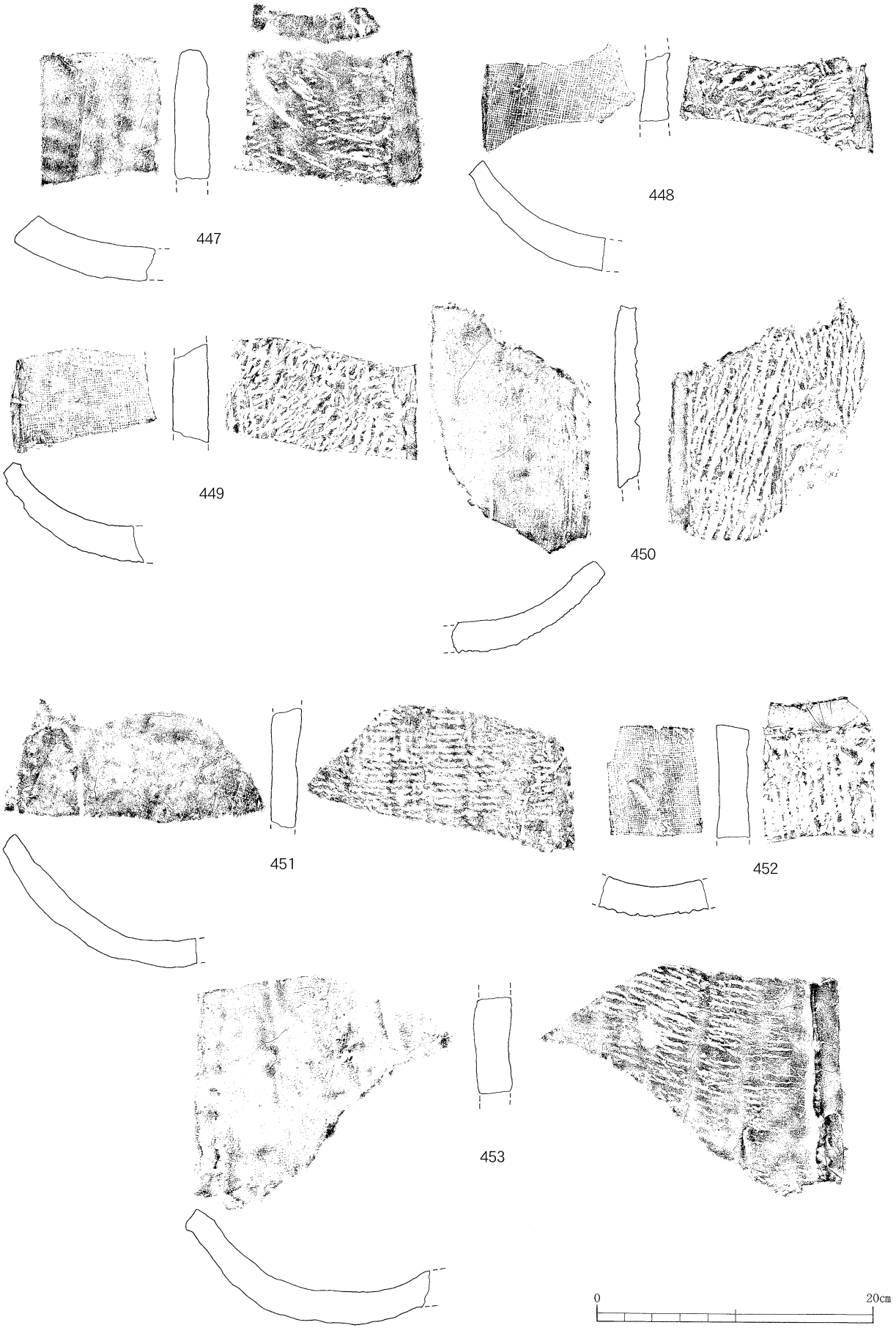
第15図　出土瓦⑤（scale：1/4）



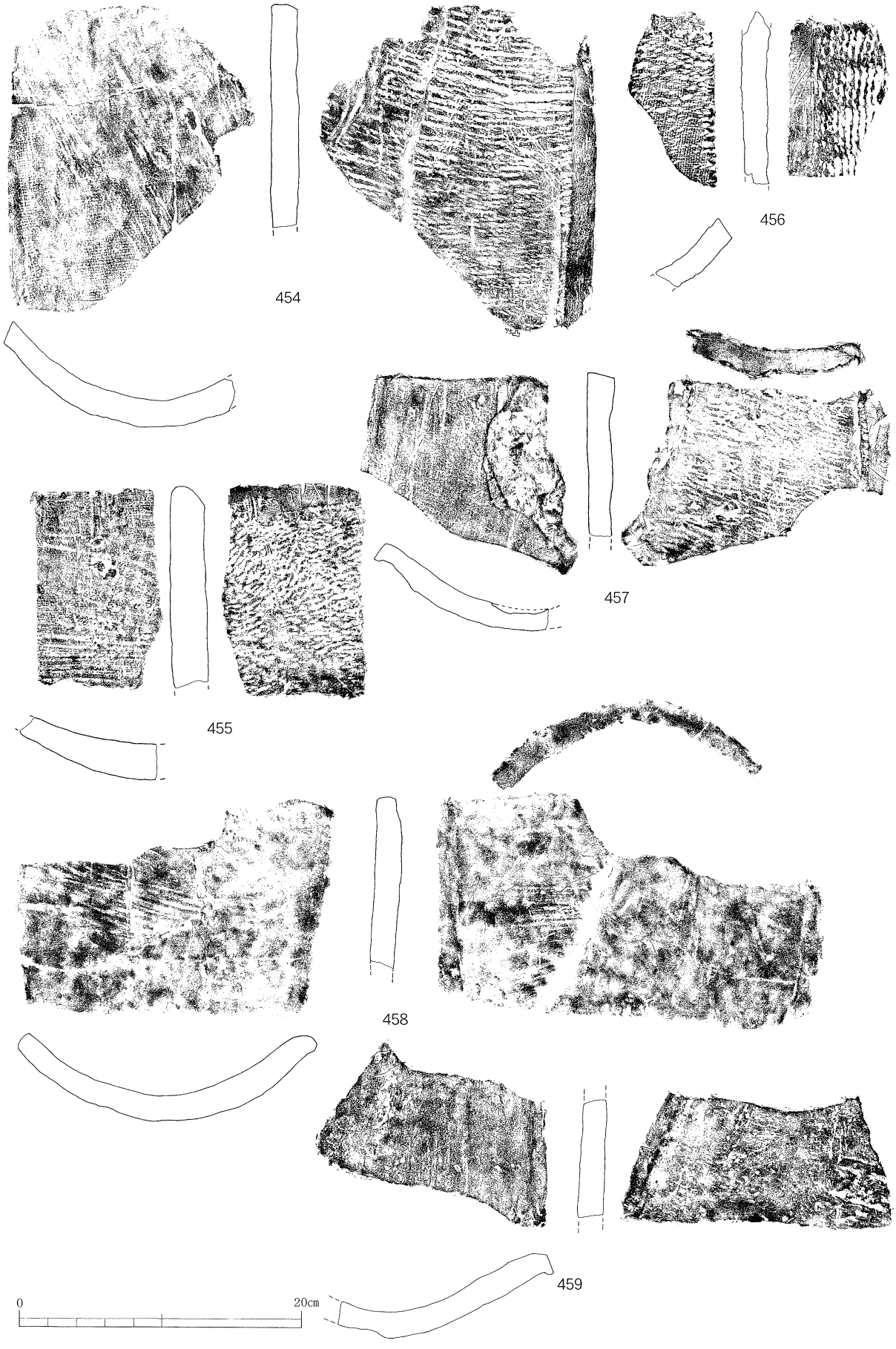
第16図　出土瓦⑥（scale：1/4）



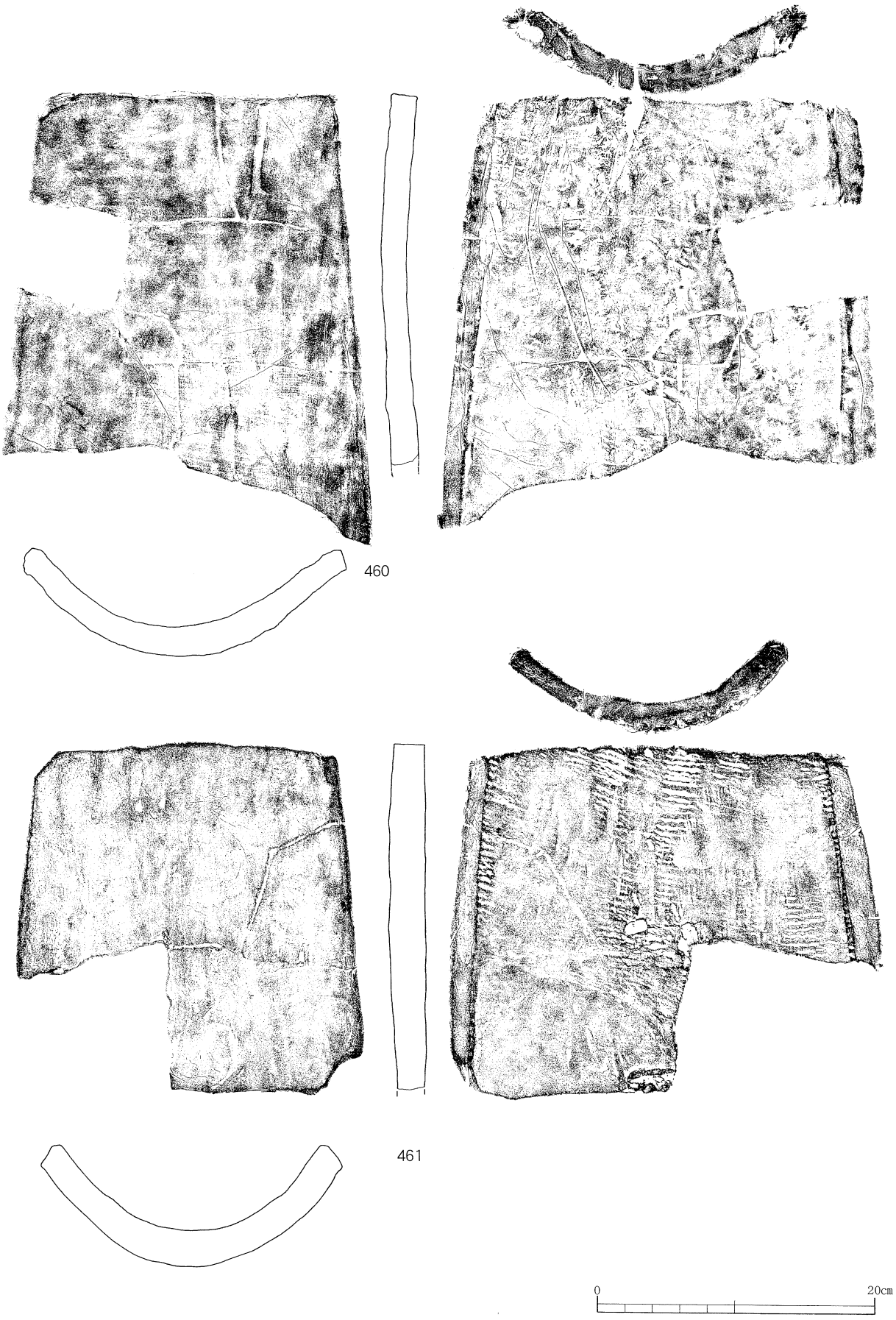
第17図　出土瓦⑦（scale：1/4）



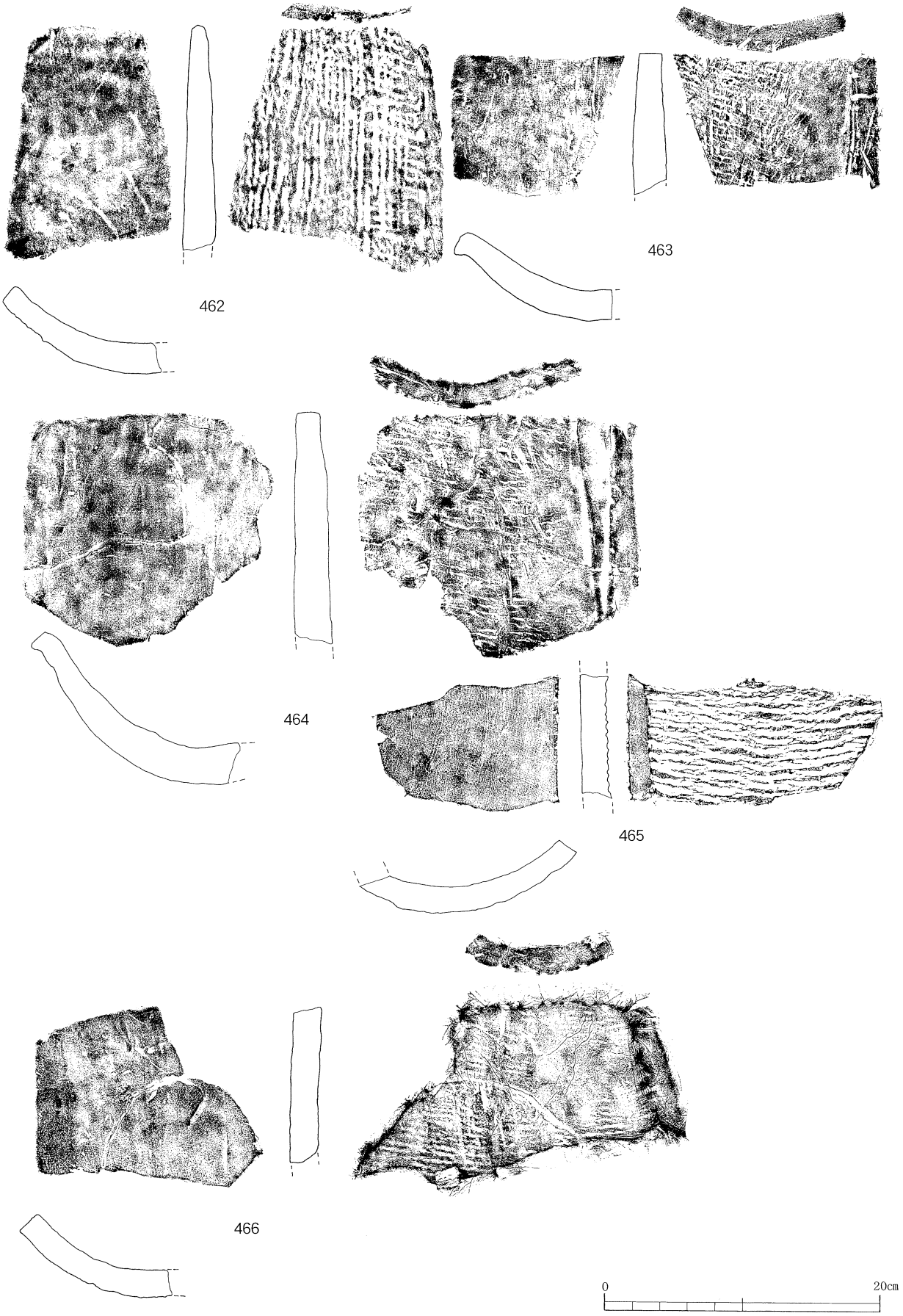
第18図　出土瓦⑧（scale：1/4）



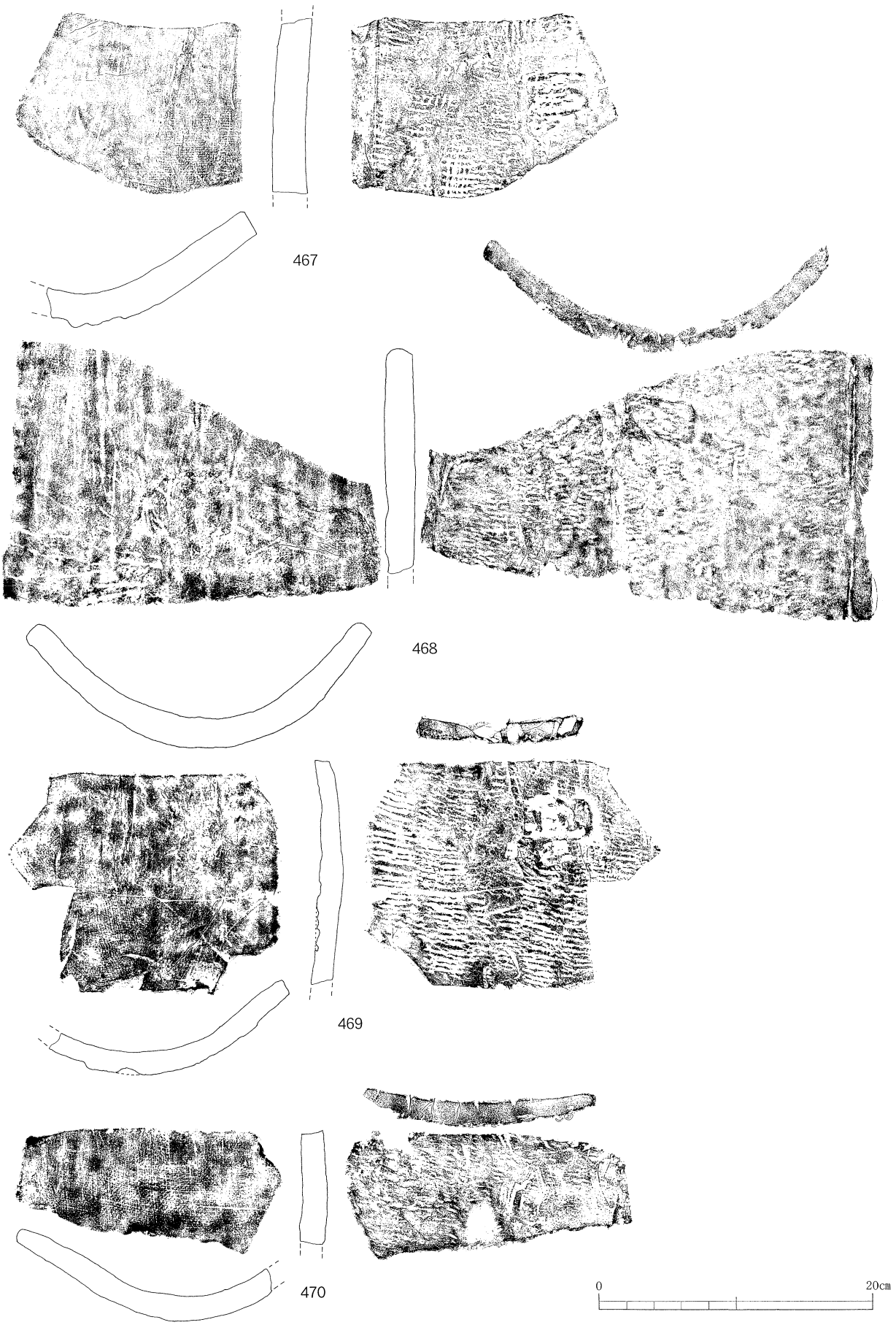
第19図　出土瓦⑨（scale：1/4）



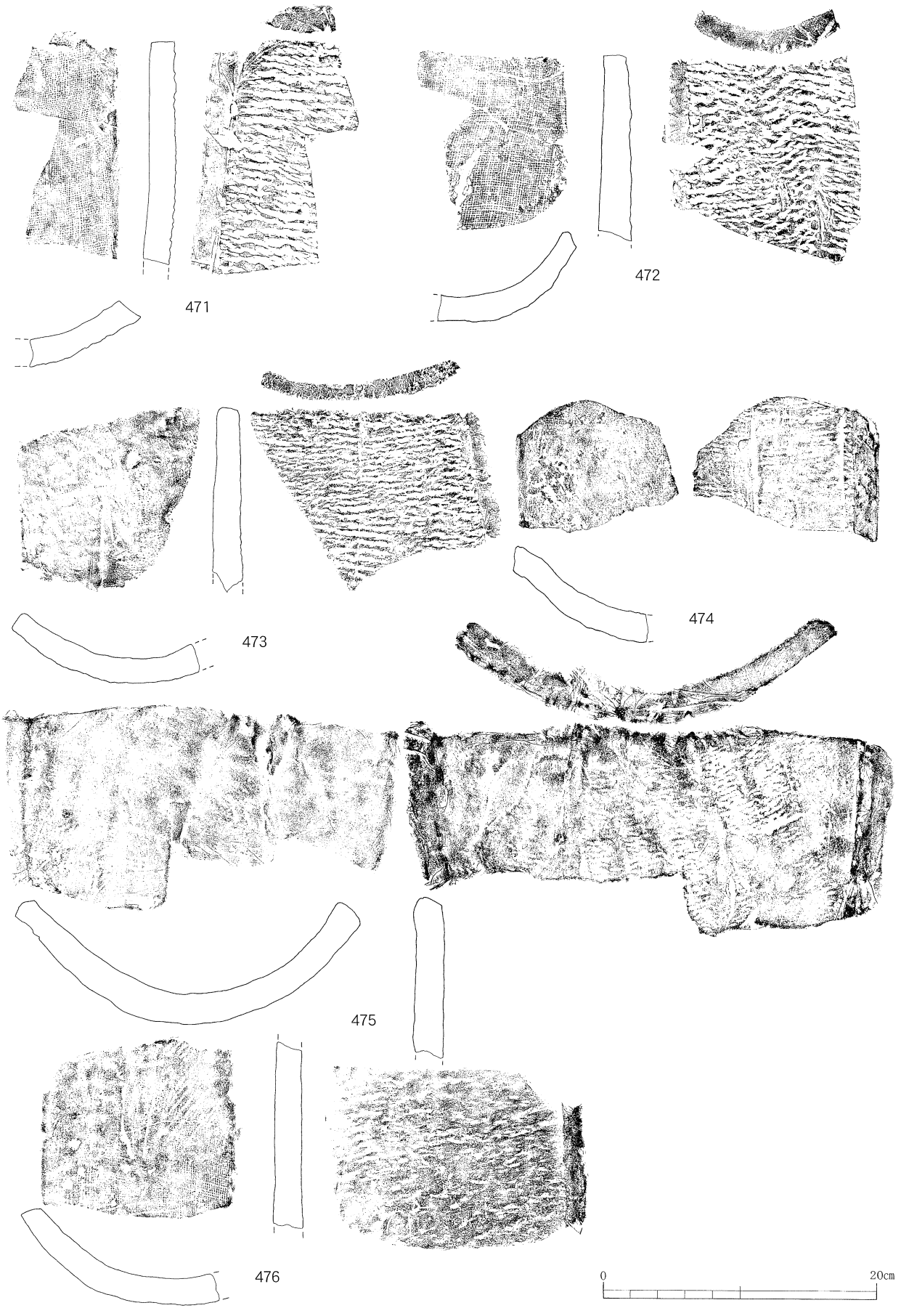
第20図　出土瓦⑩（scale：1/4）



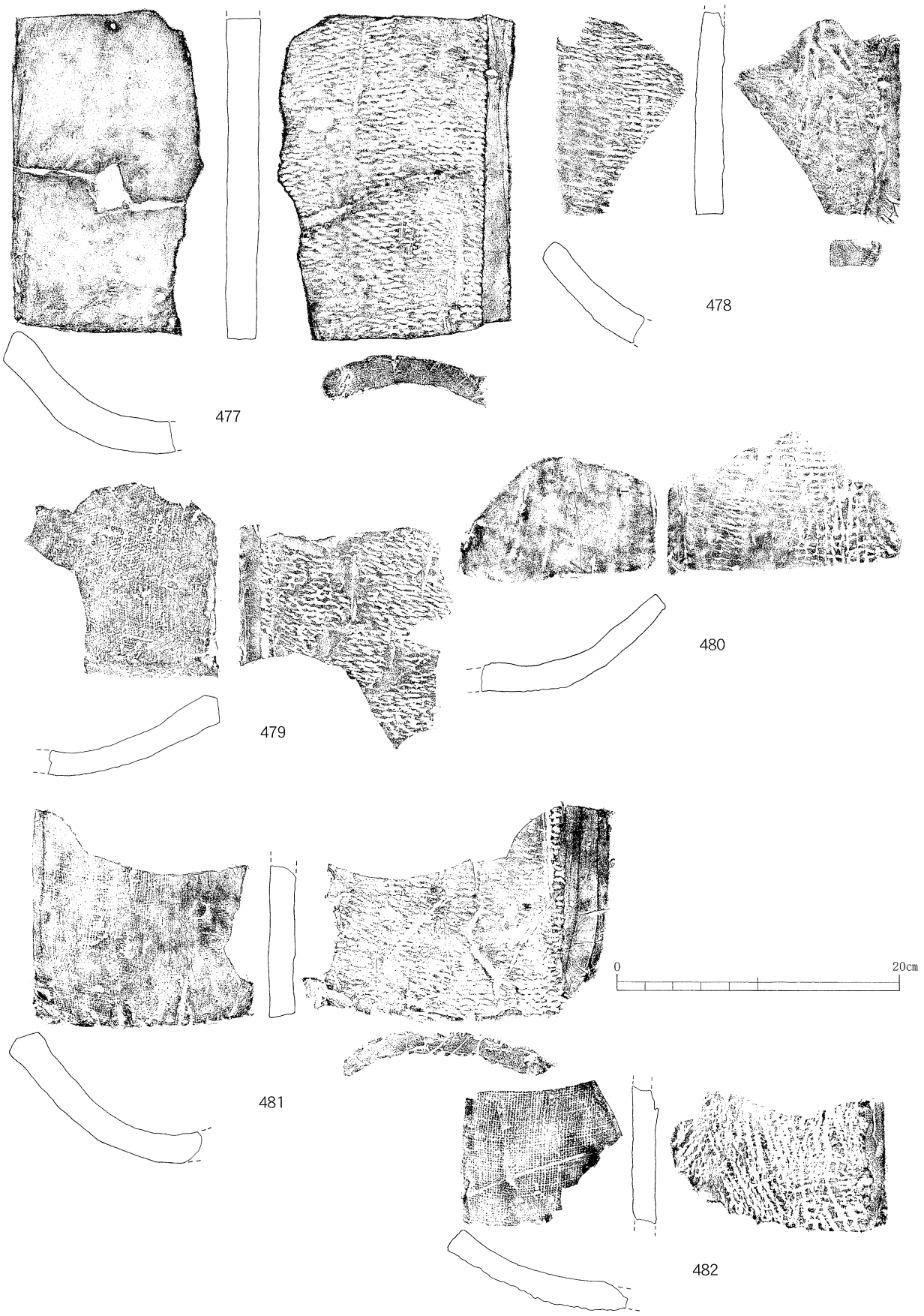
第21図　出土瓦⑪（scale：1/4）



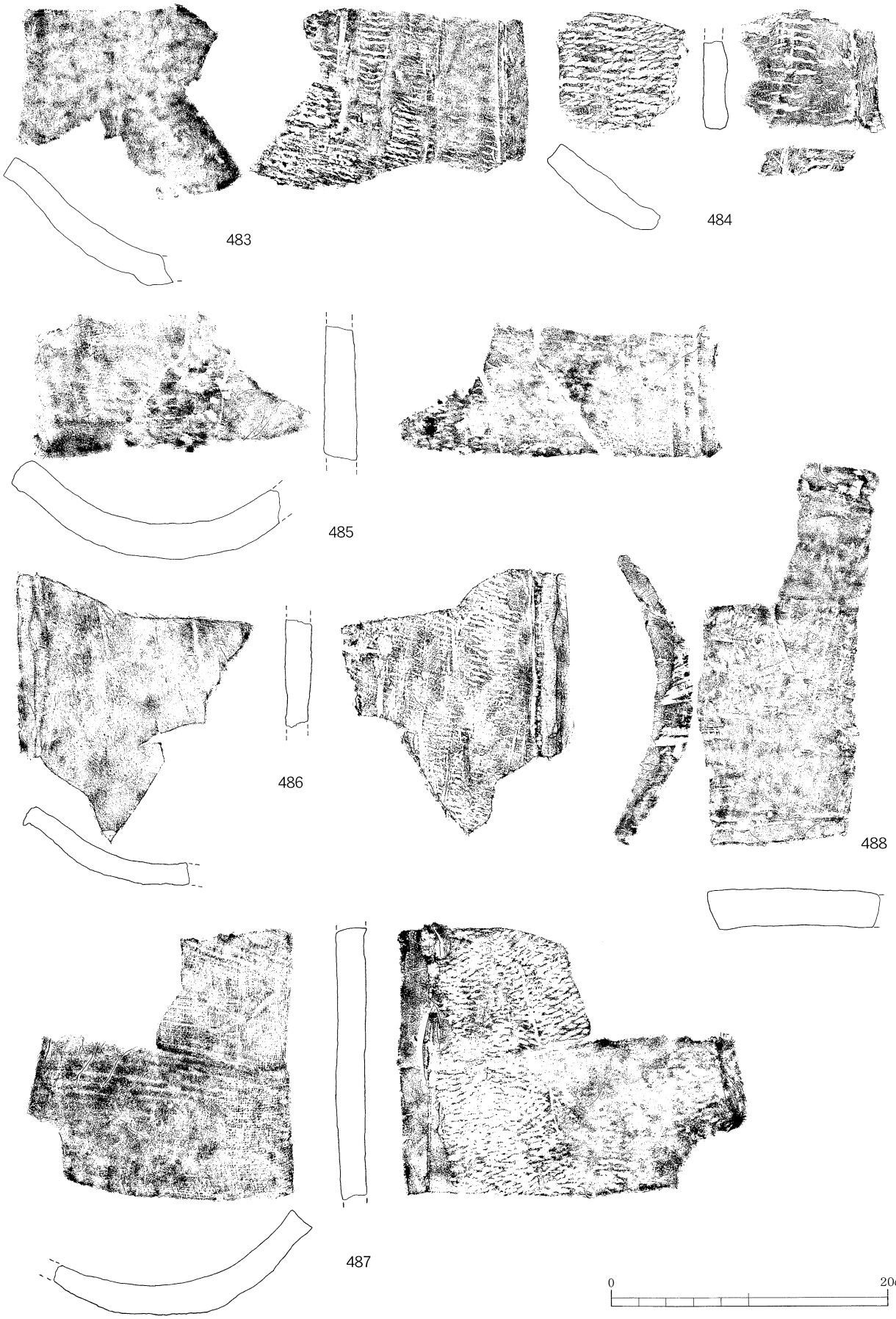
第22図　出土瓦⑫（scale：1/4）



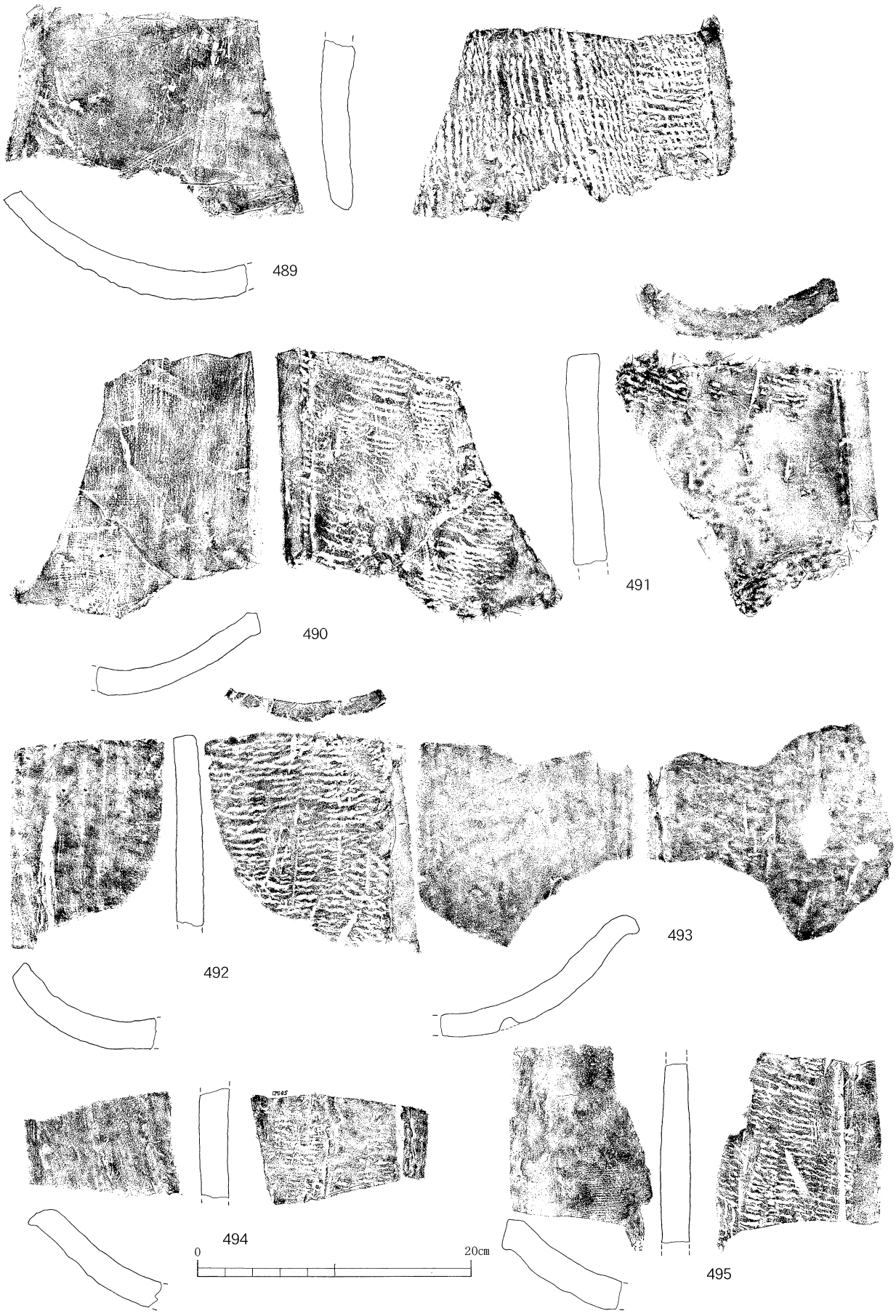
第23図　出土瓦⑬（scale：1/4）



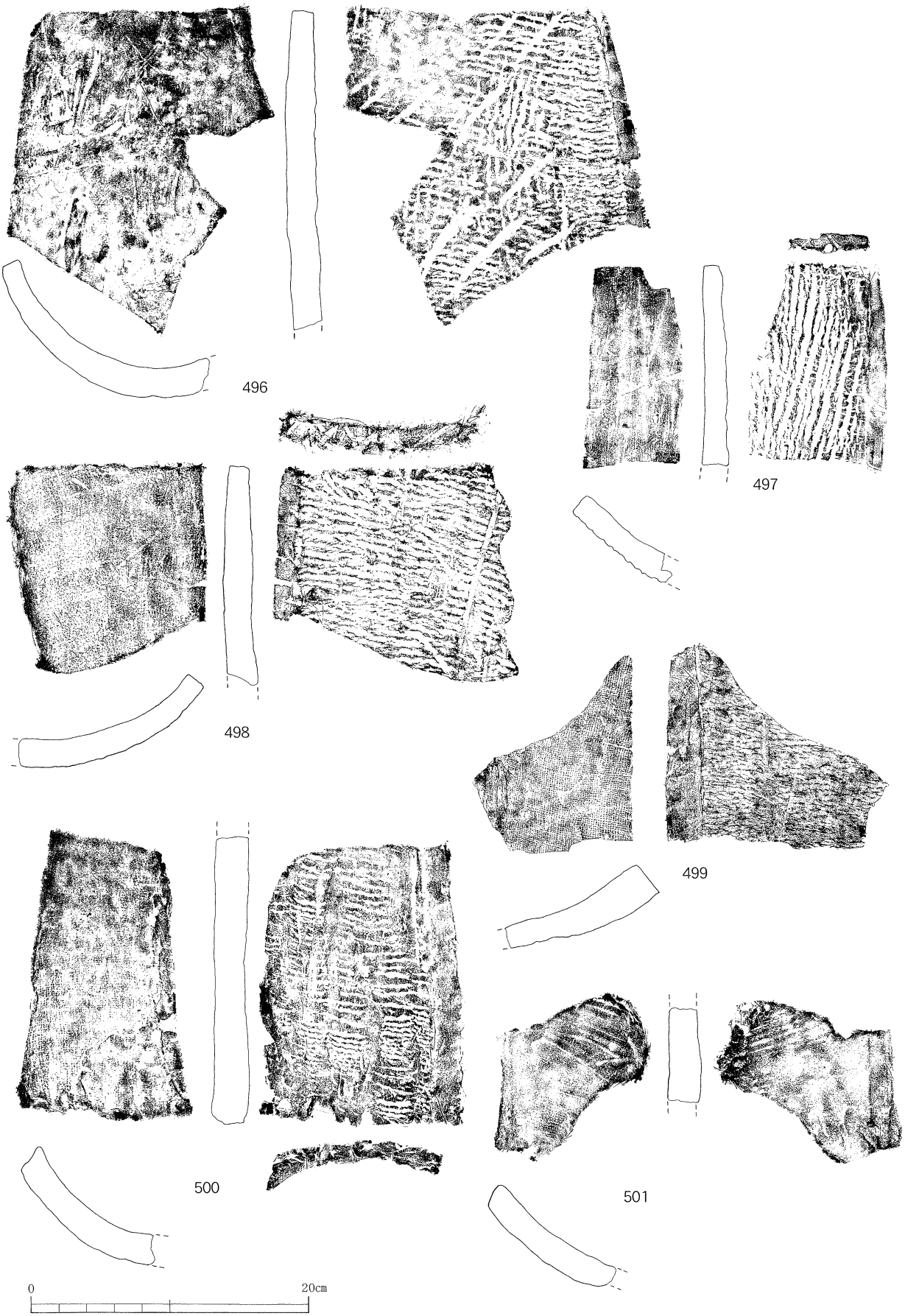
第24図　出土瓦⑭（scale：1/4）



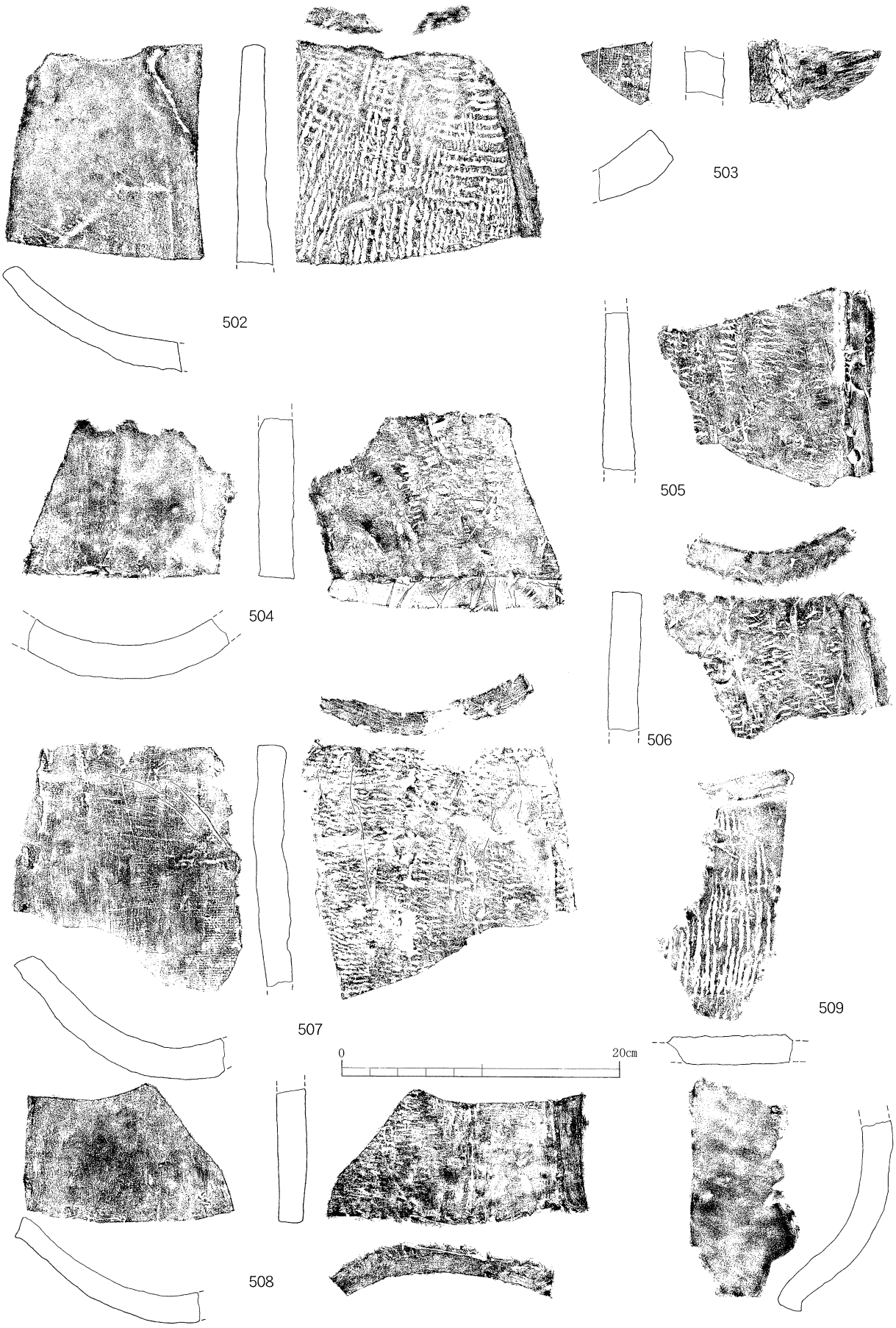
第25図　出土瓦⑮（scale：1/4）



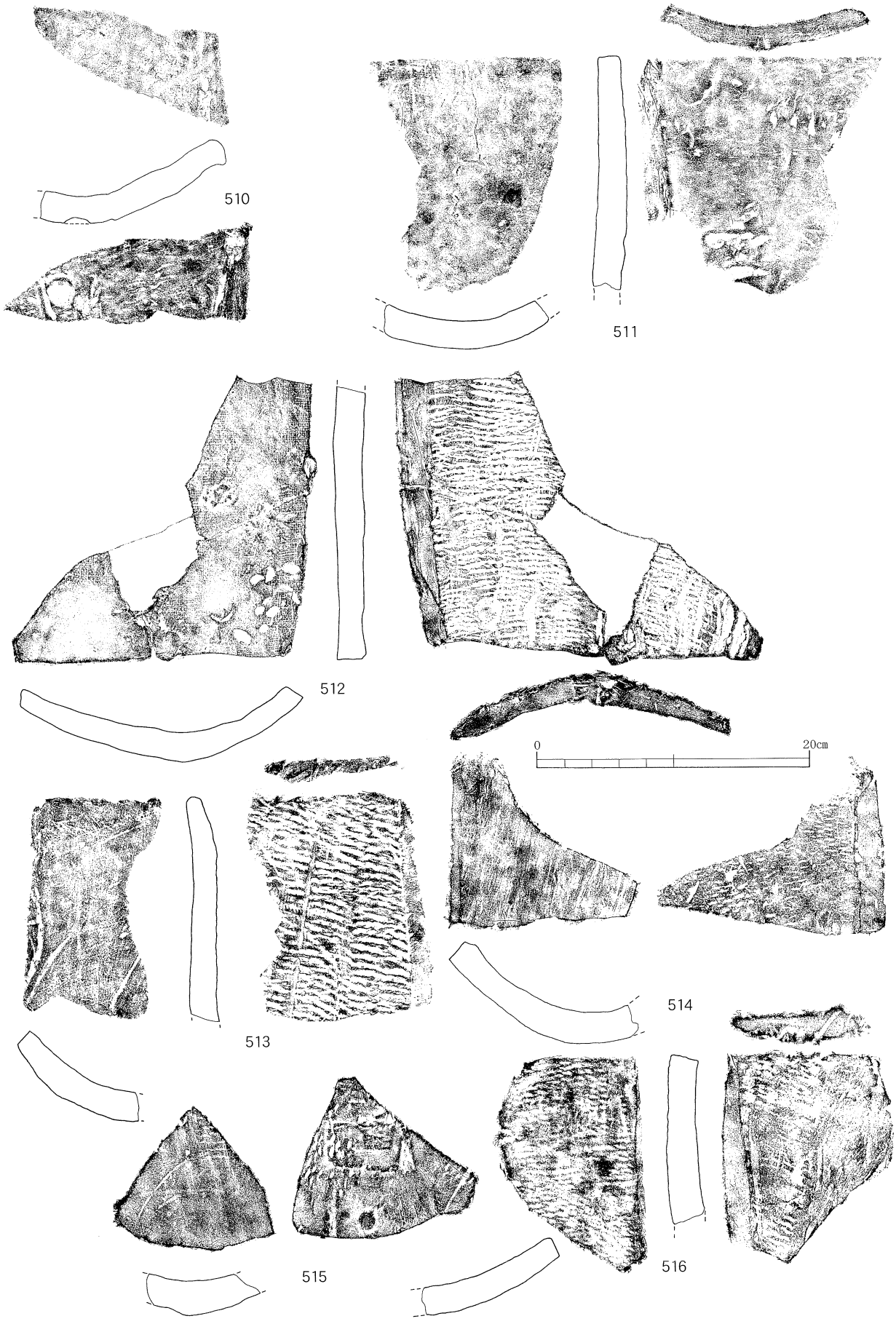
第26図　出土瓦⑯（scale：1/4）



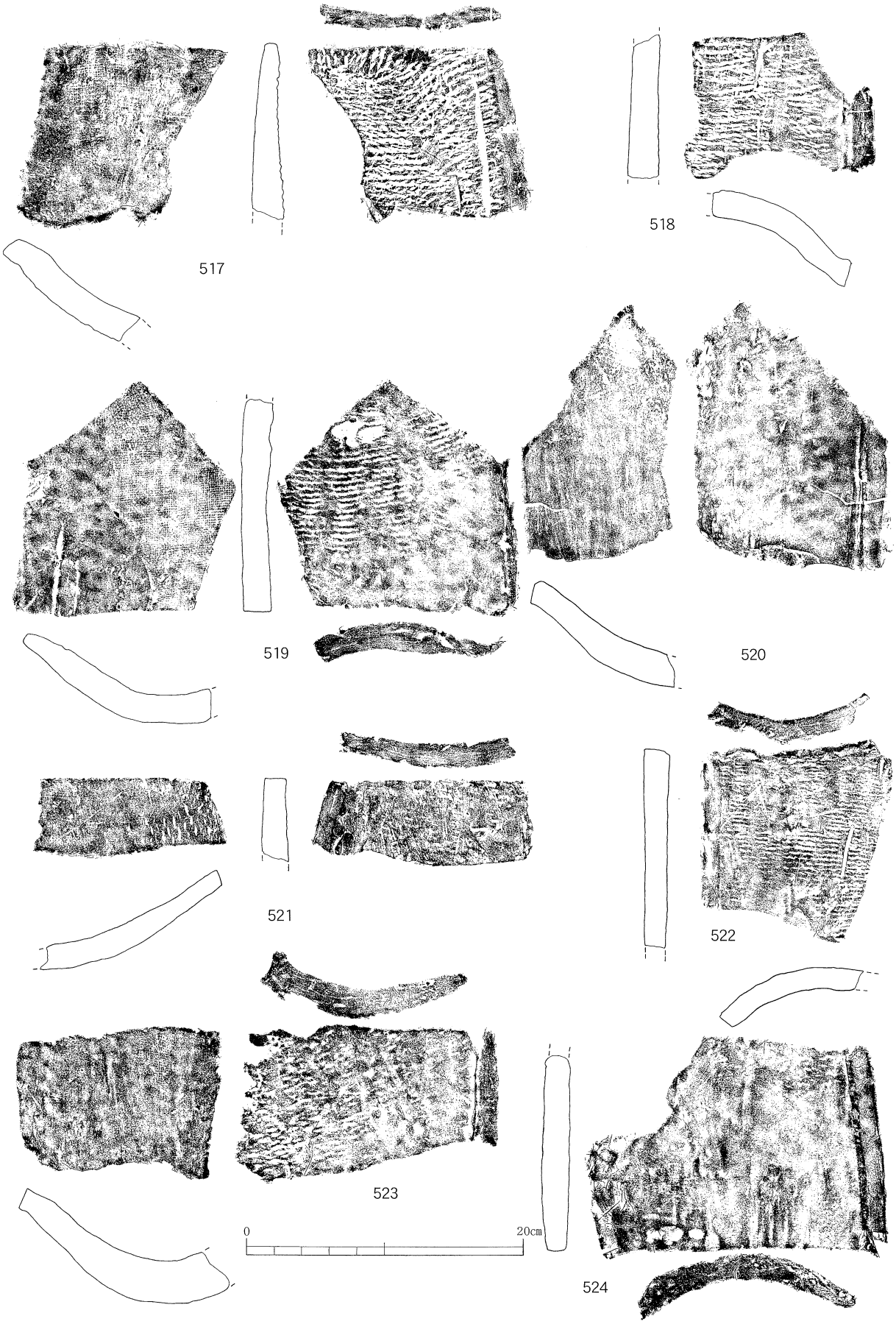
第27図　出土瓦⑰（scale：1/4）



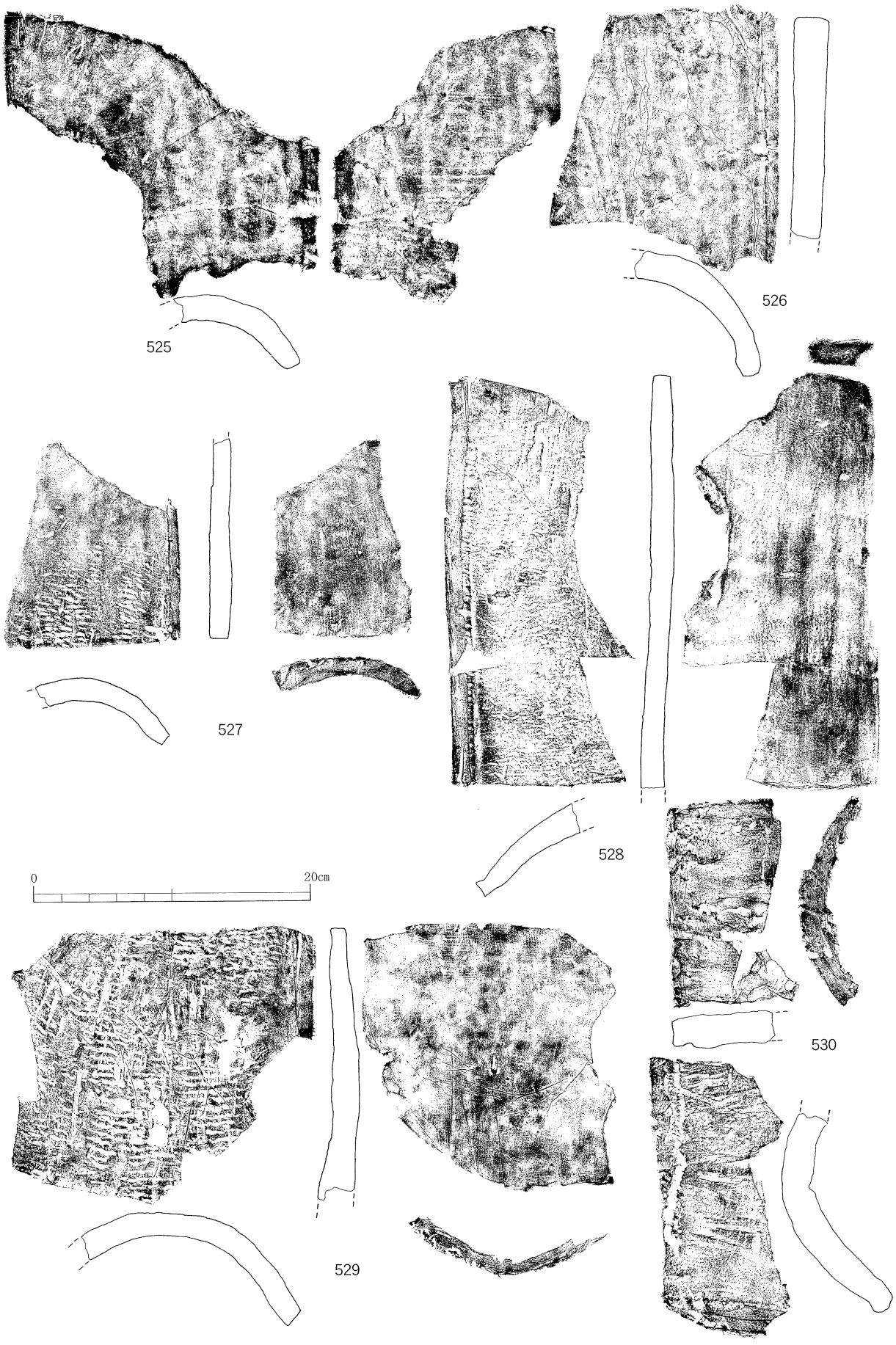
第28図　出土瓦⑱（scale：1/4）



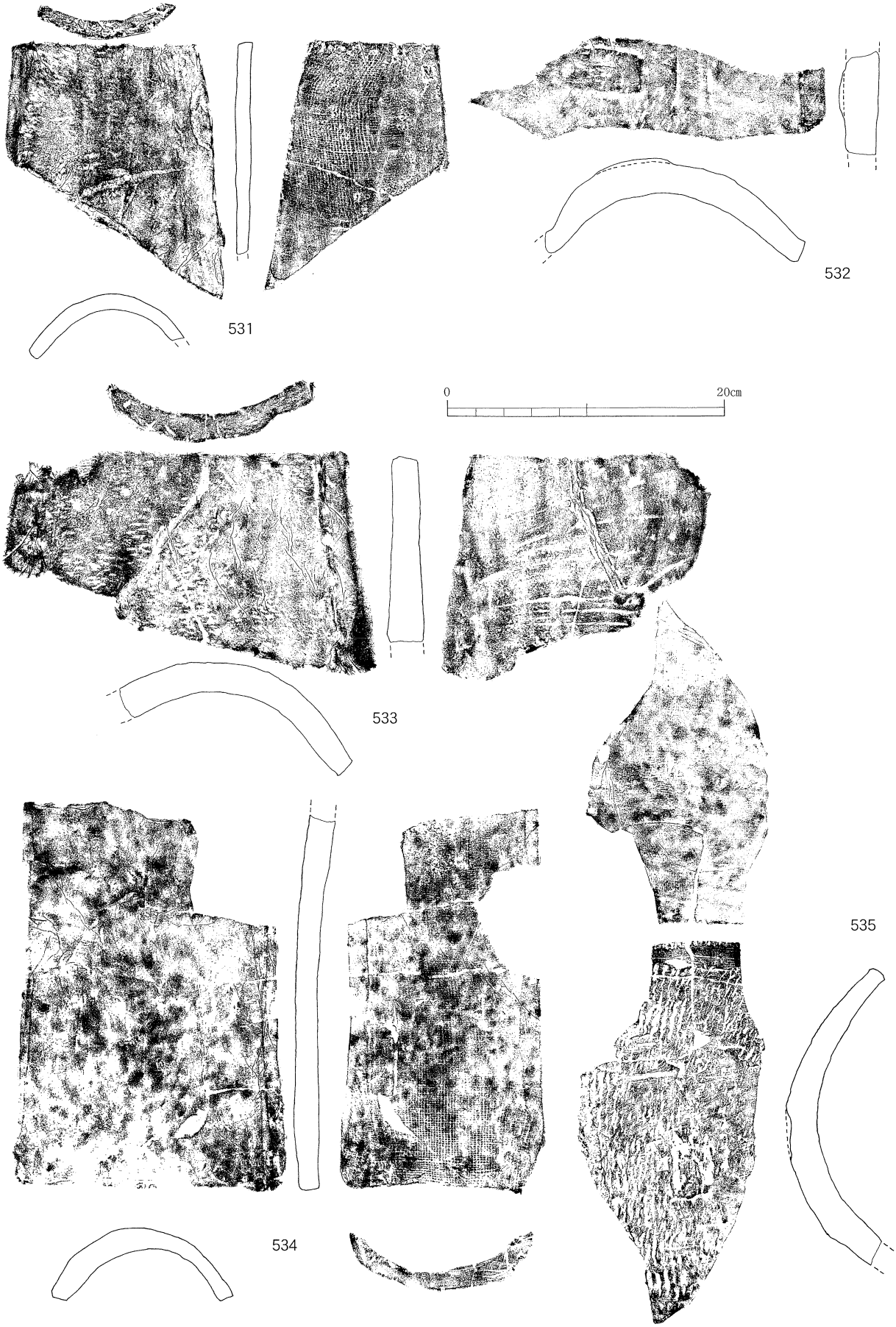
第29図　出土瓦⑲（scale：1/4）



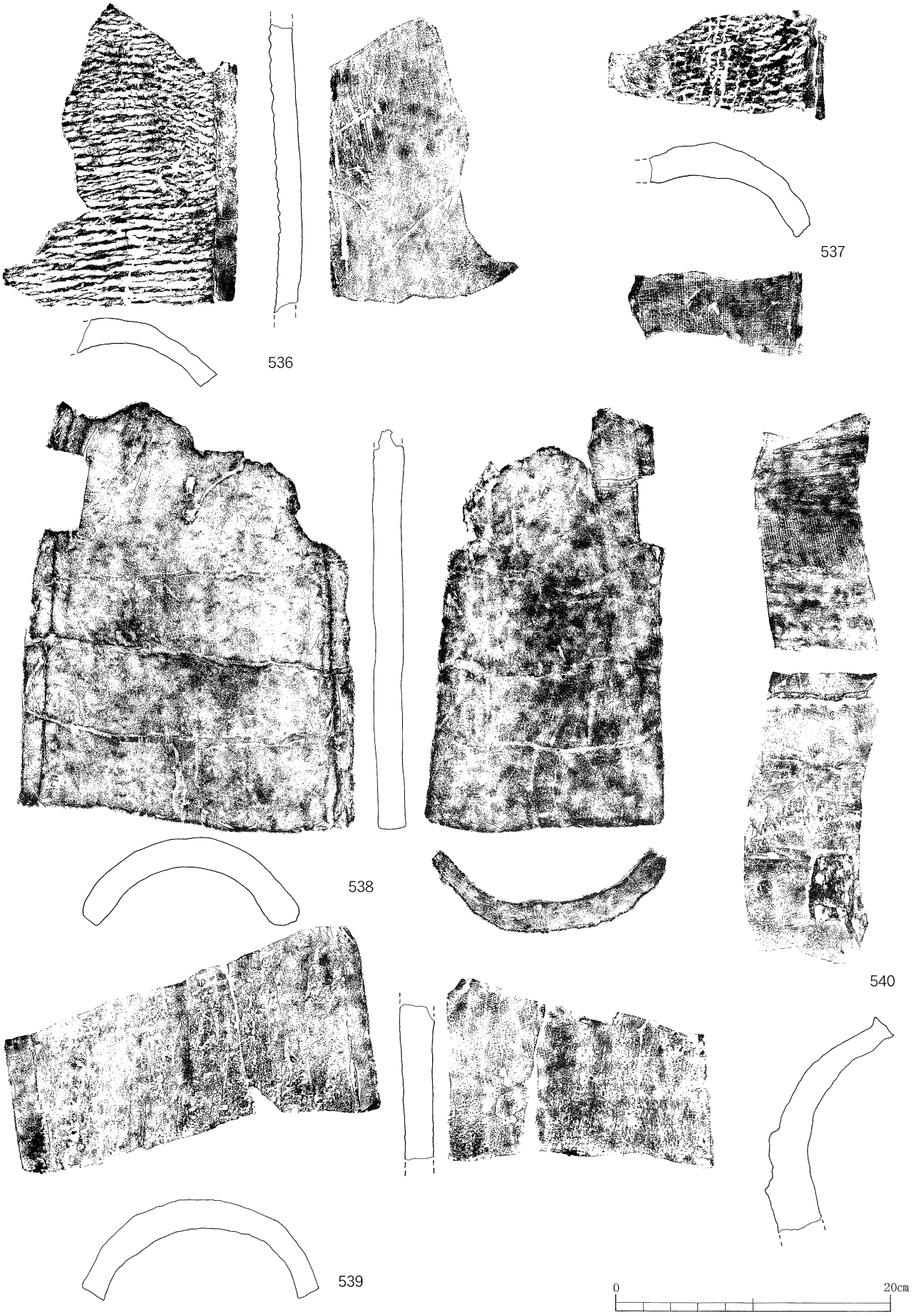
第30図　出土瓦⑳（scale：1/4）



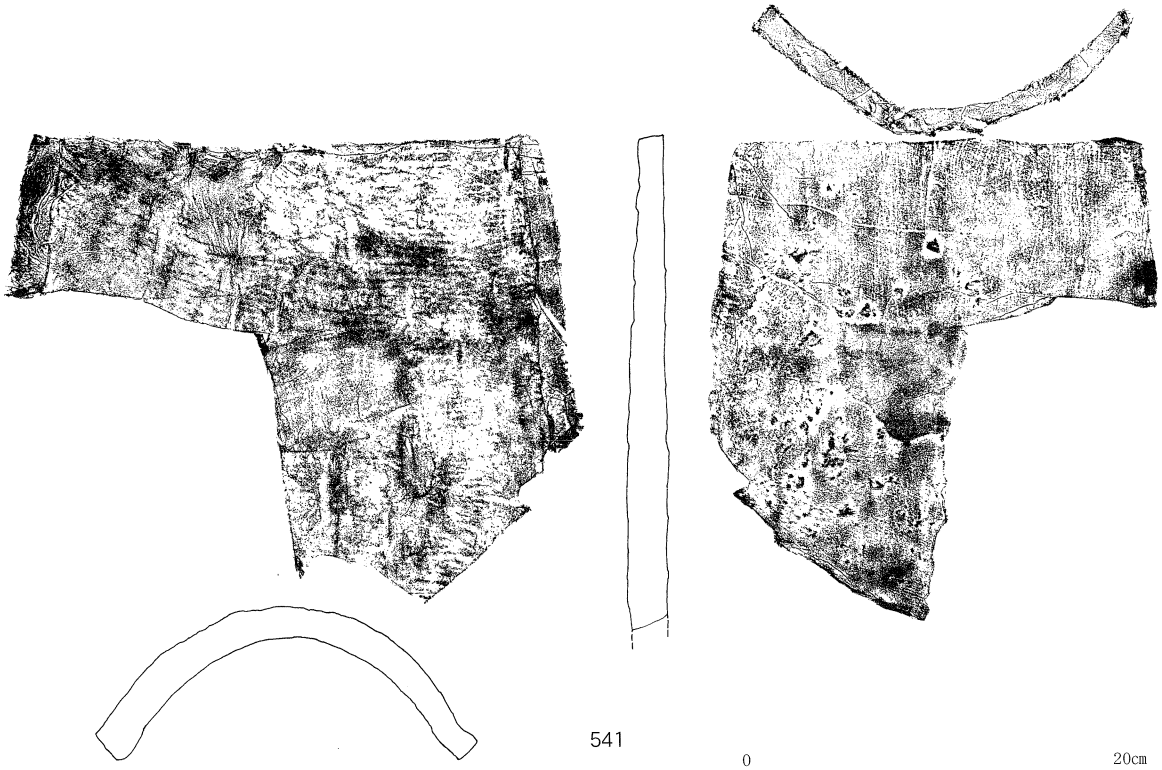
第31図　出土瓦㉑（scale：1/4）

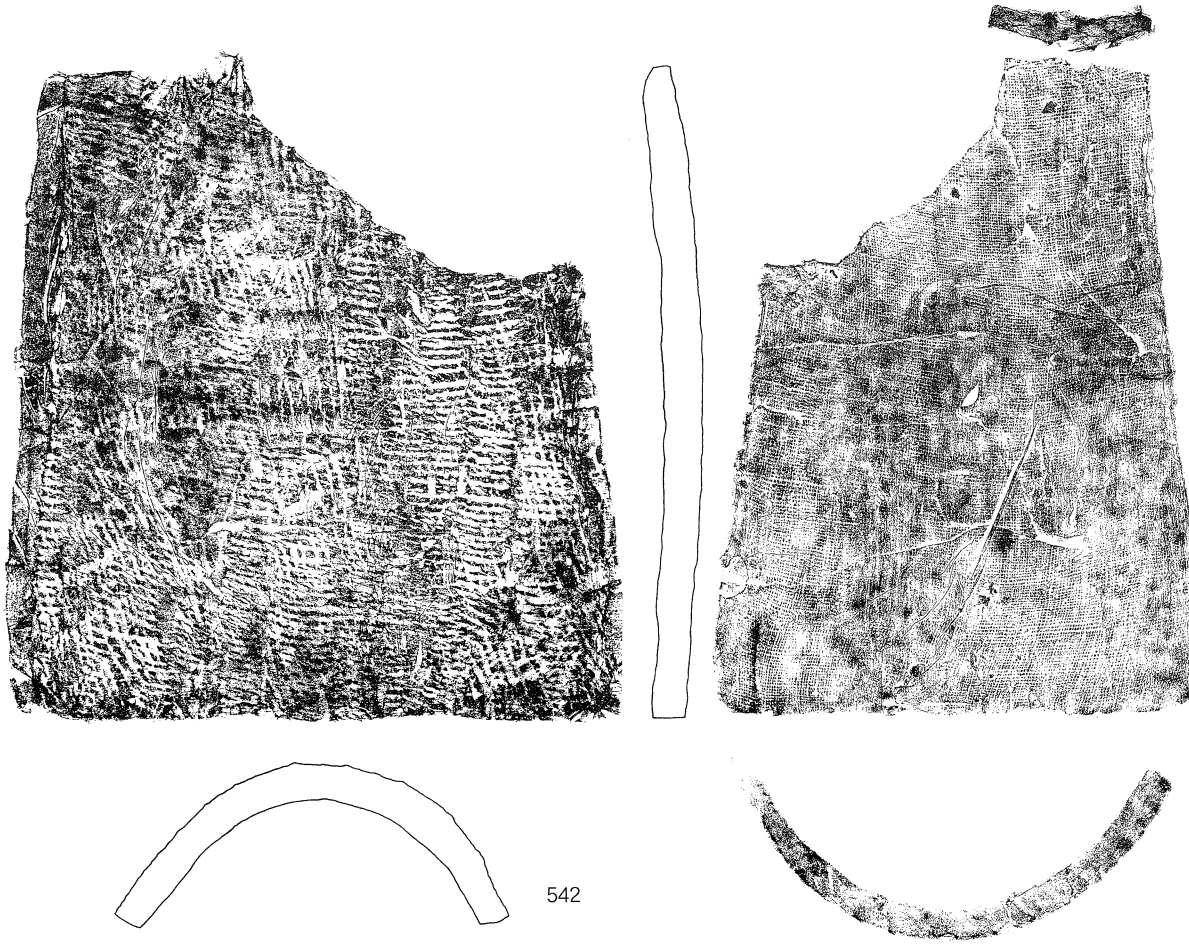


第32図　出土瓦㉒（scale：1/4）

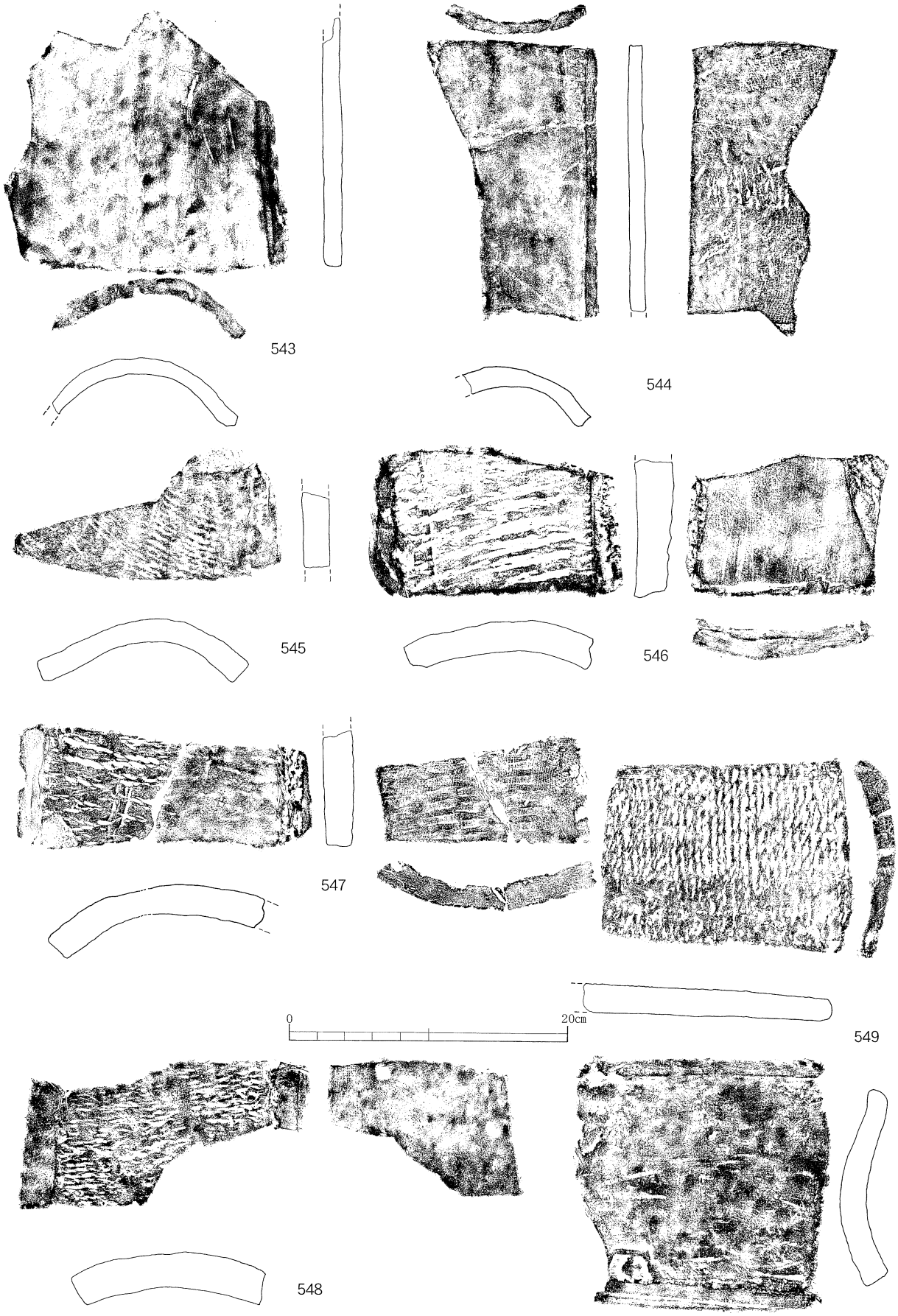


第33図　出土瓦㉓（scale：1/4）

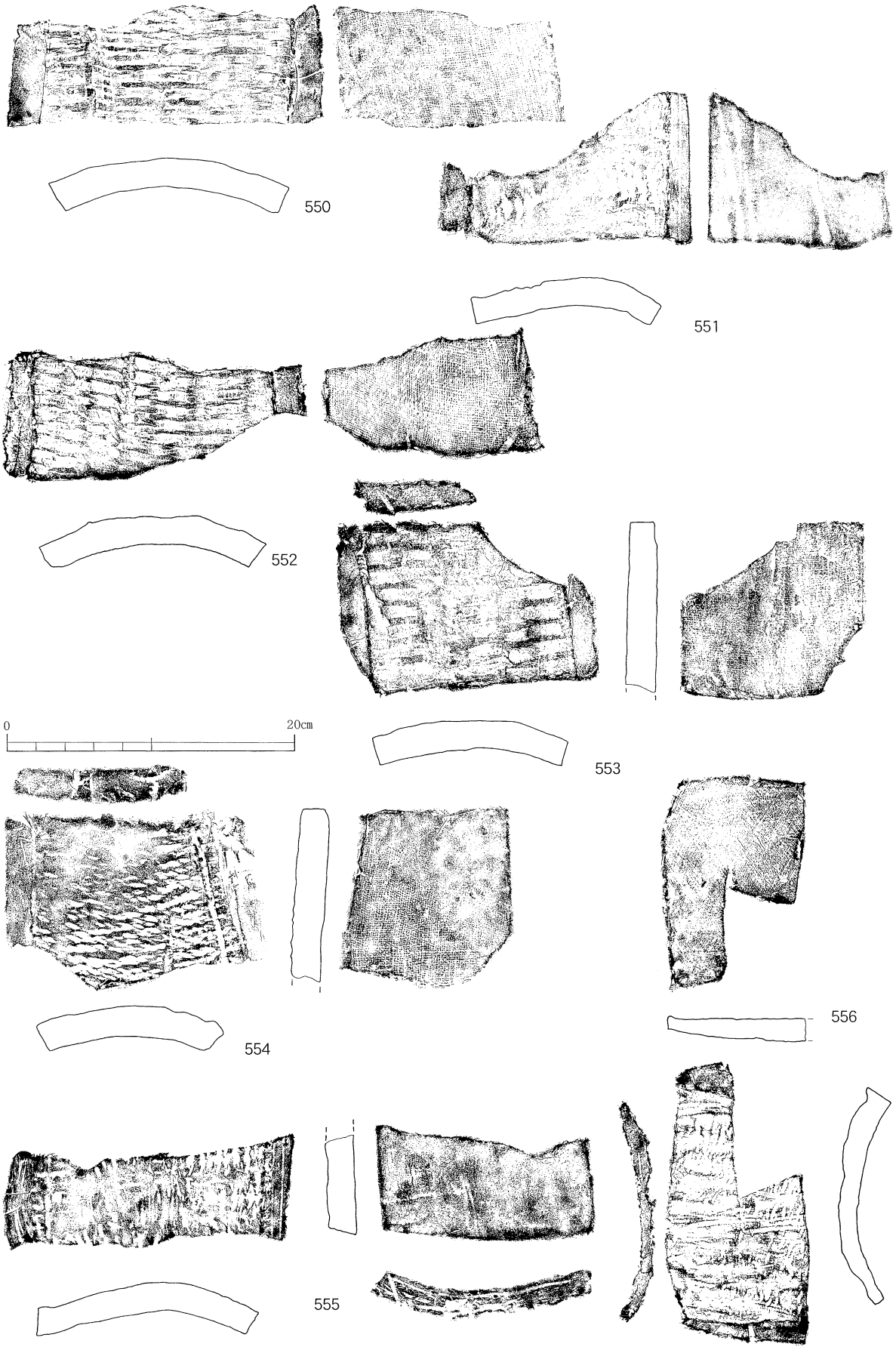




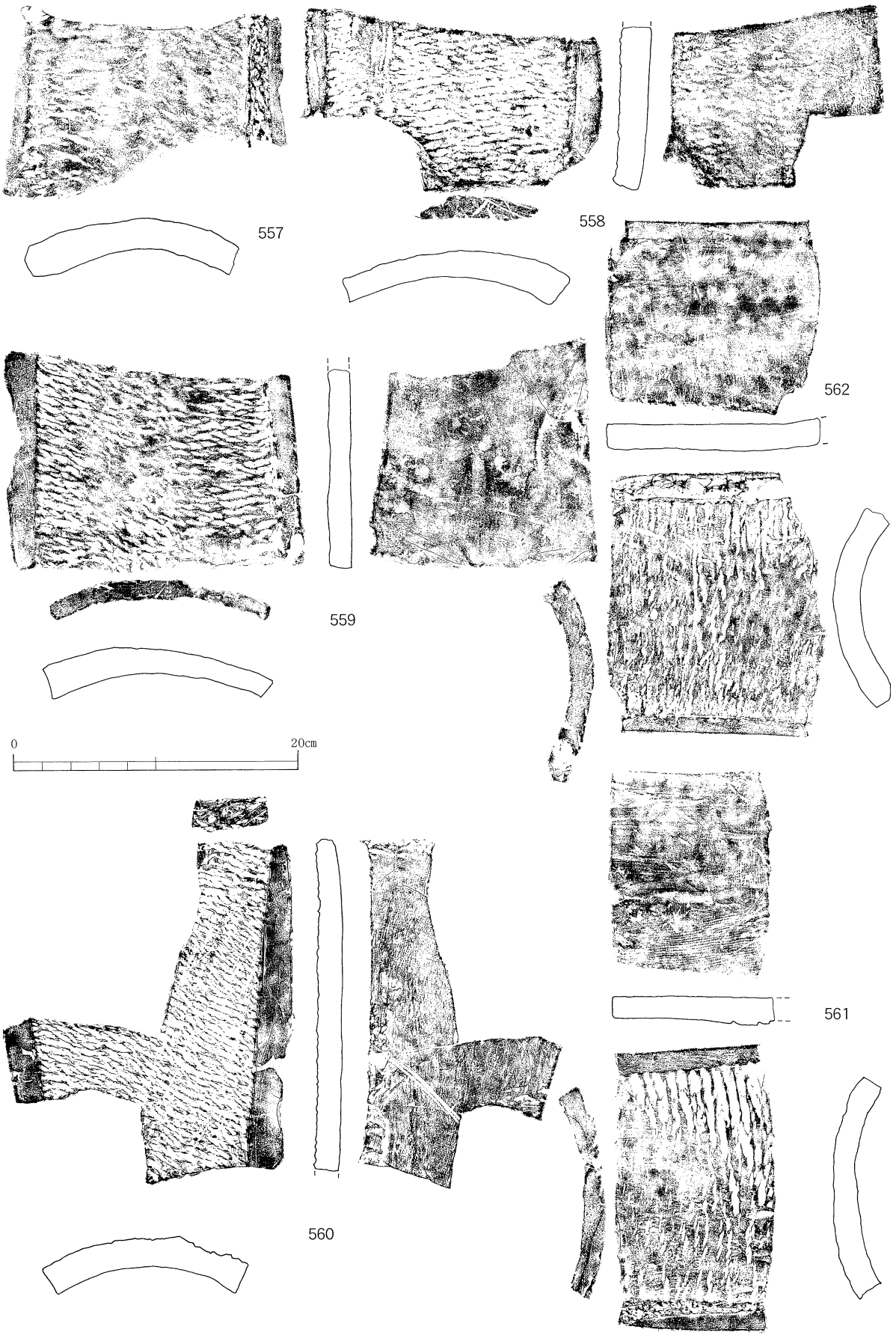
第34図　出土瓦㉔（scale：1/4）



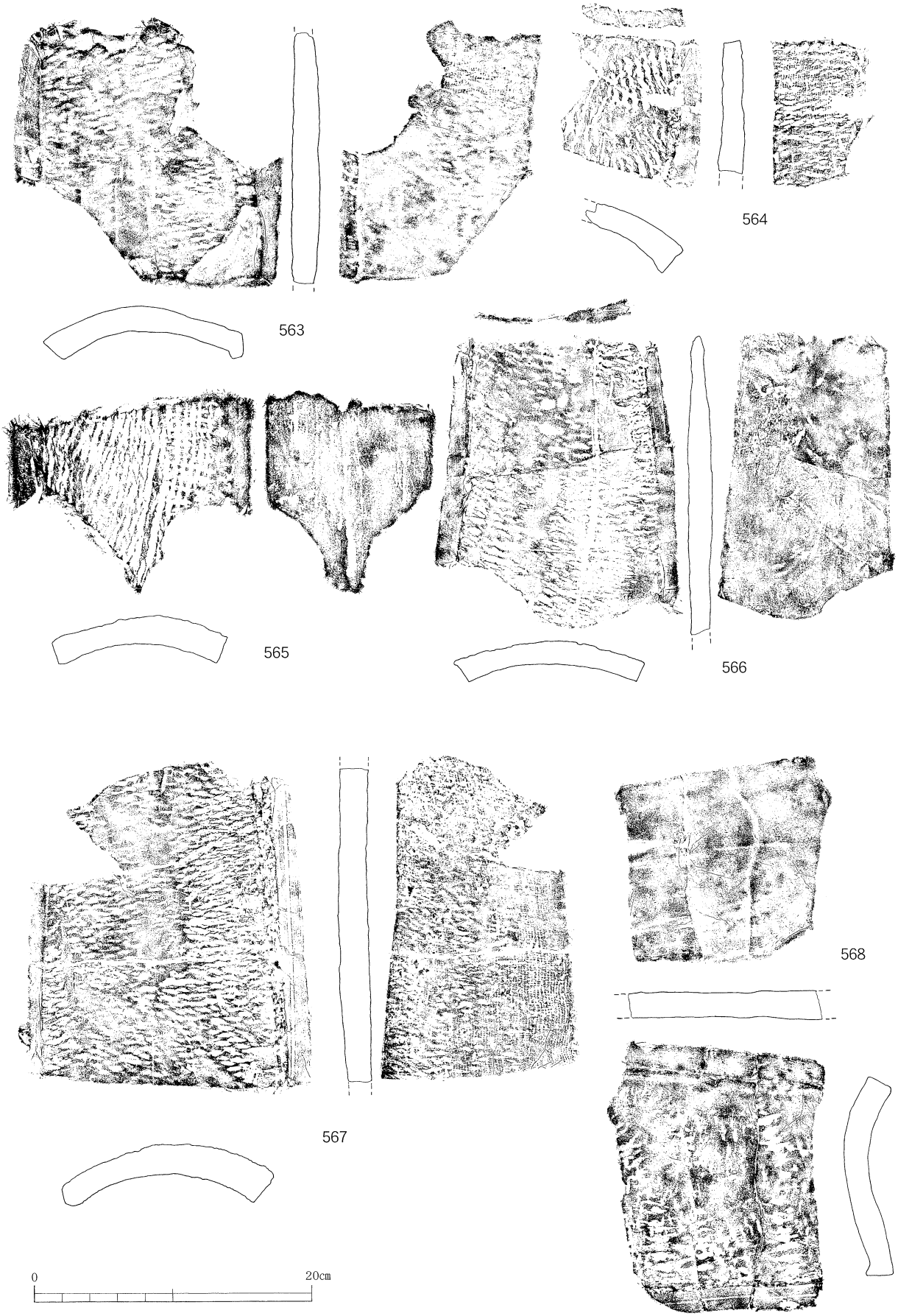
第35図　出土瓦㉕（scale：1/4）



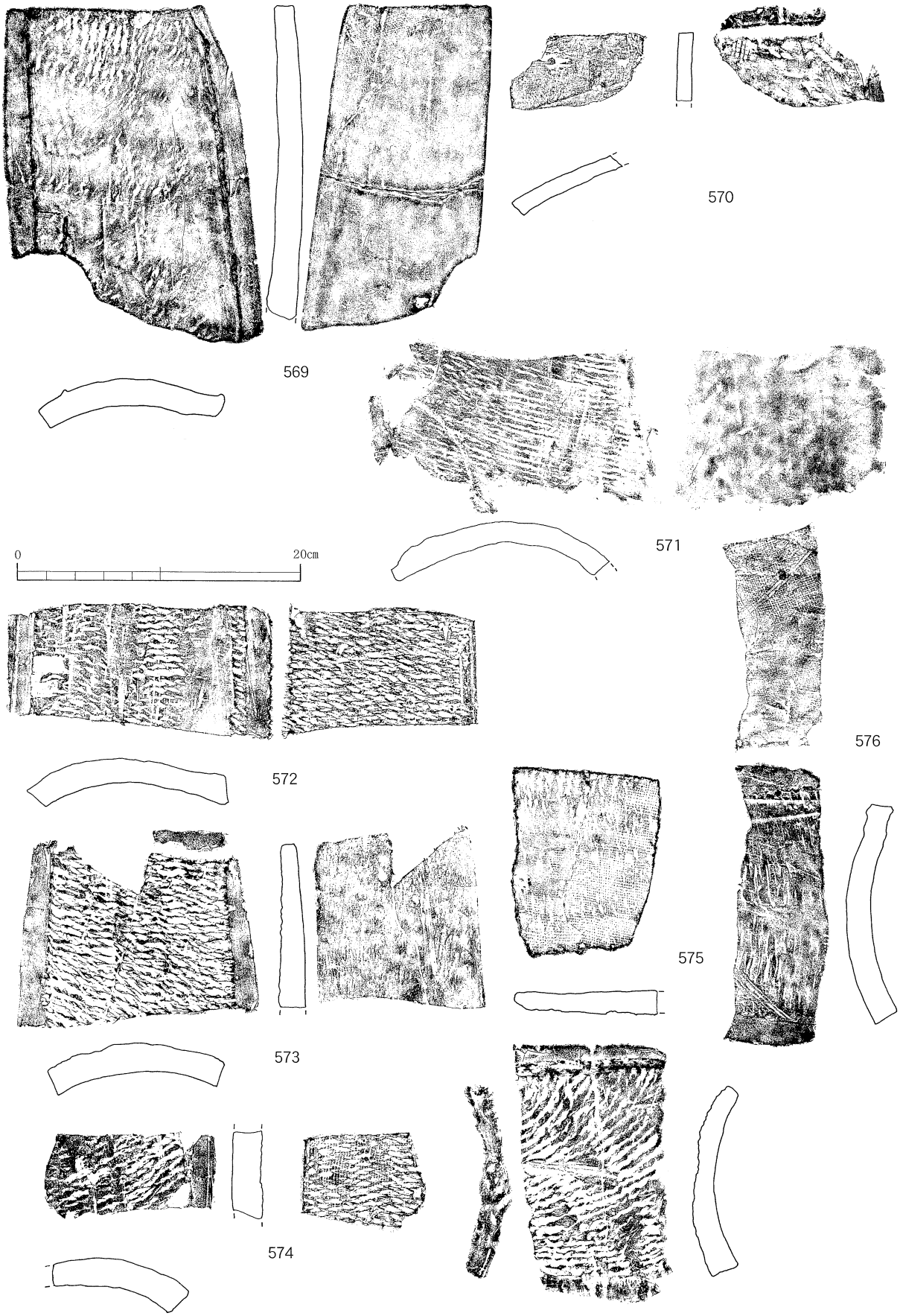
第36図　出土瓦㉖（scale：1/4）



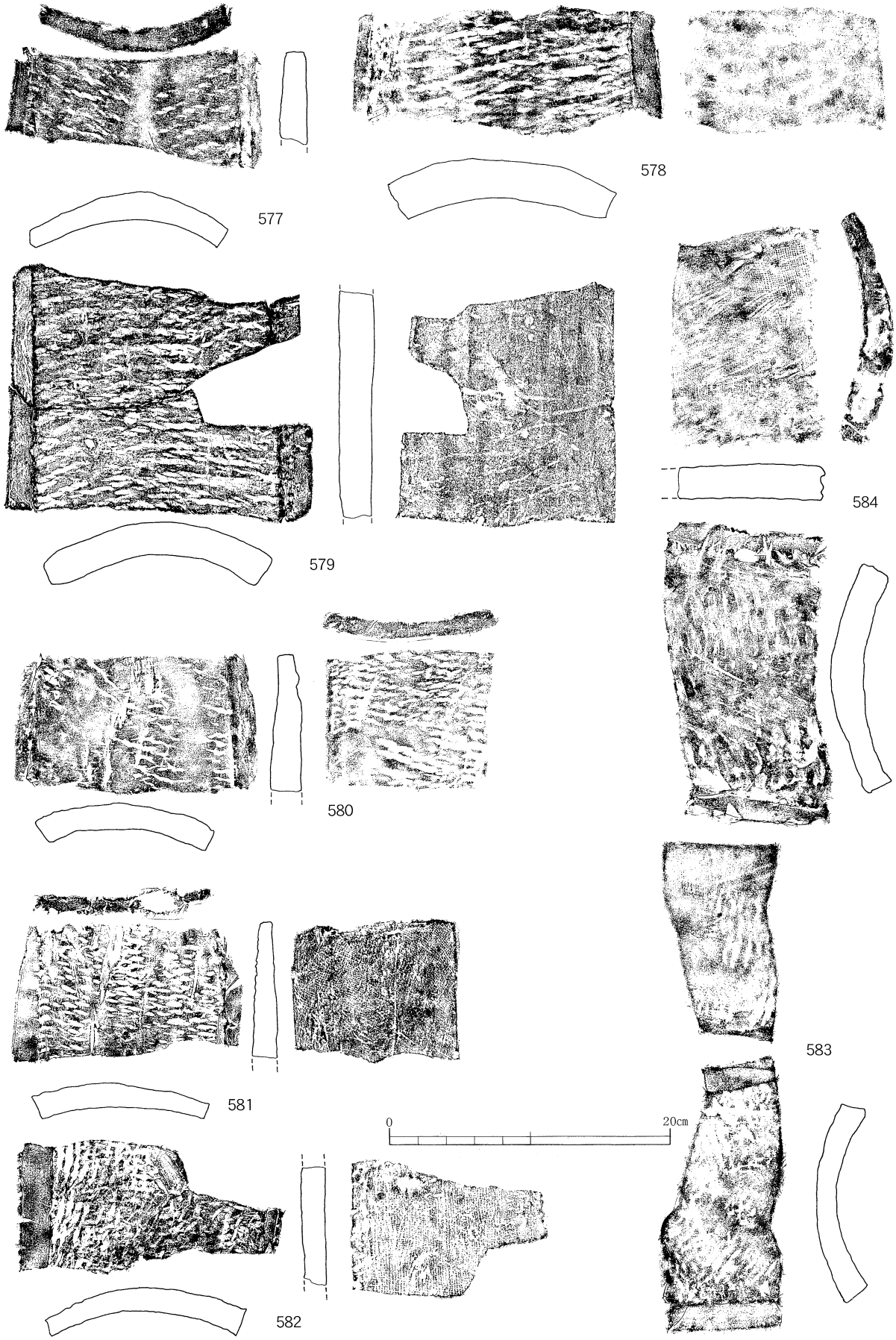
第37図　出土瓦㉗（scale：1/4）



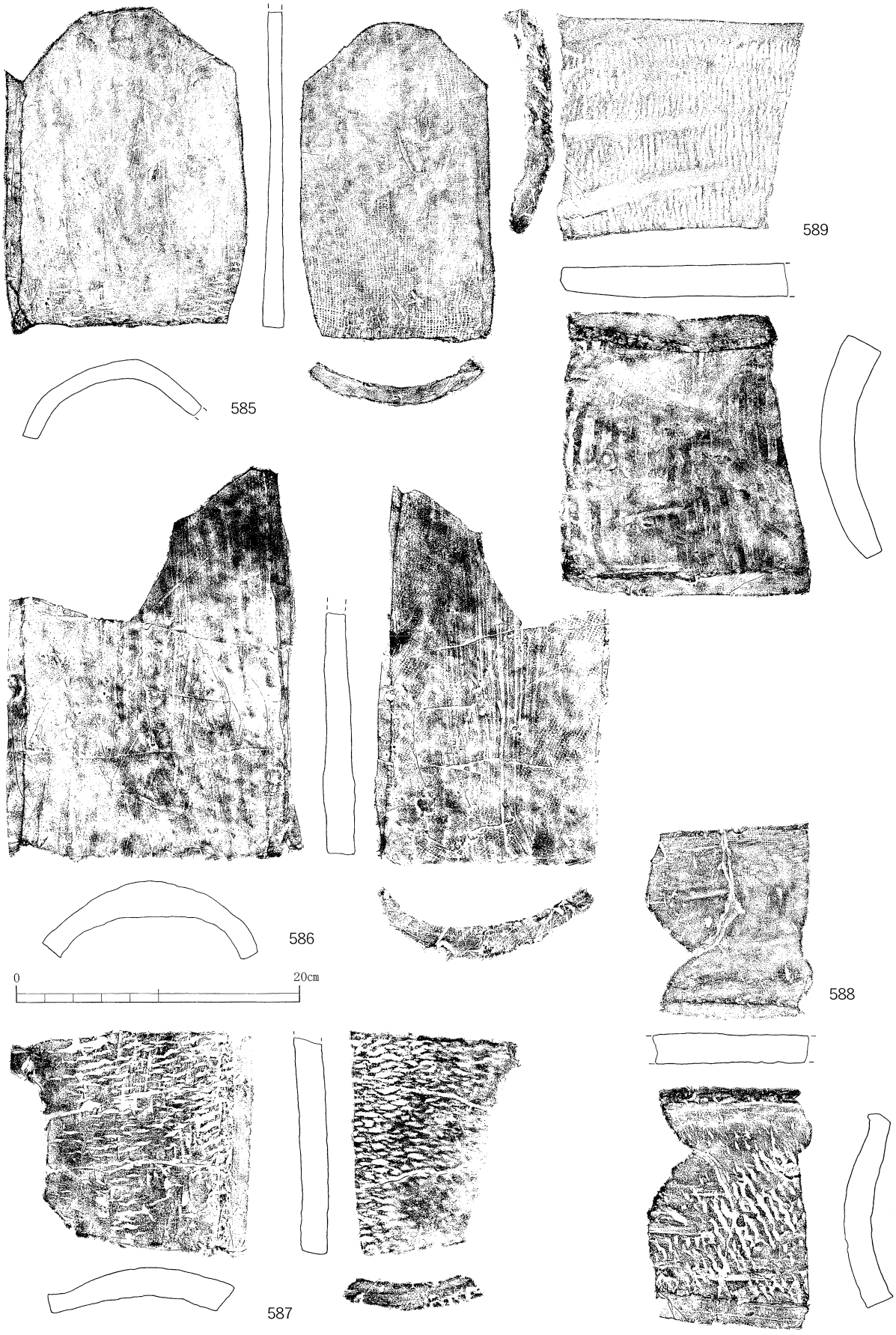
第38図　出土瓦㉘（scale：1/4）



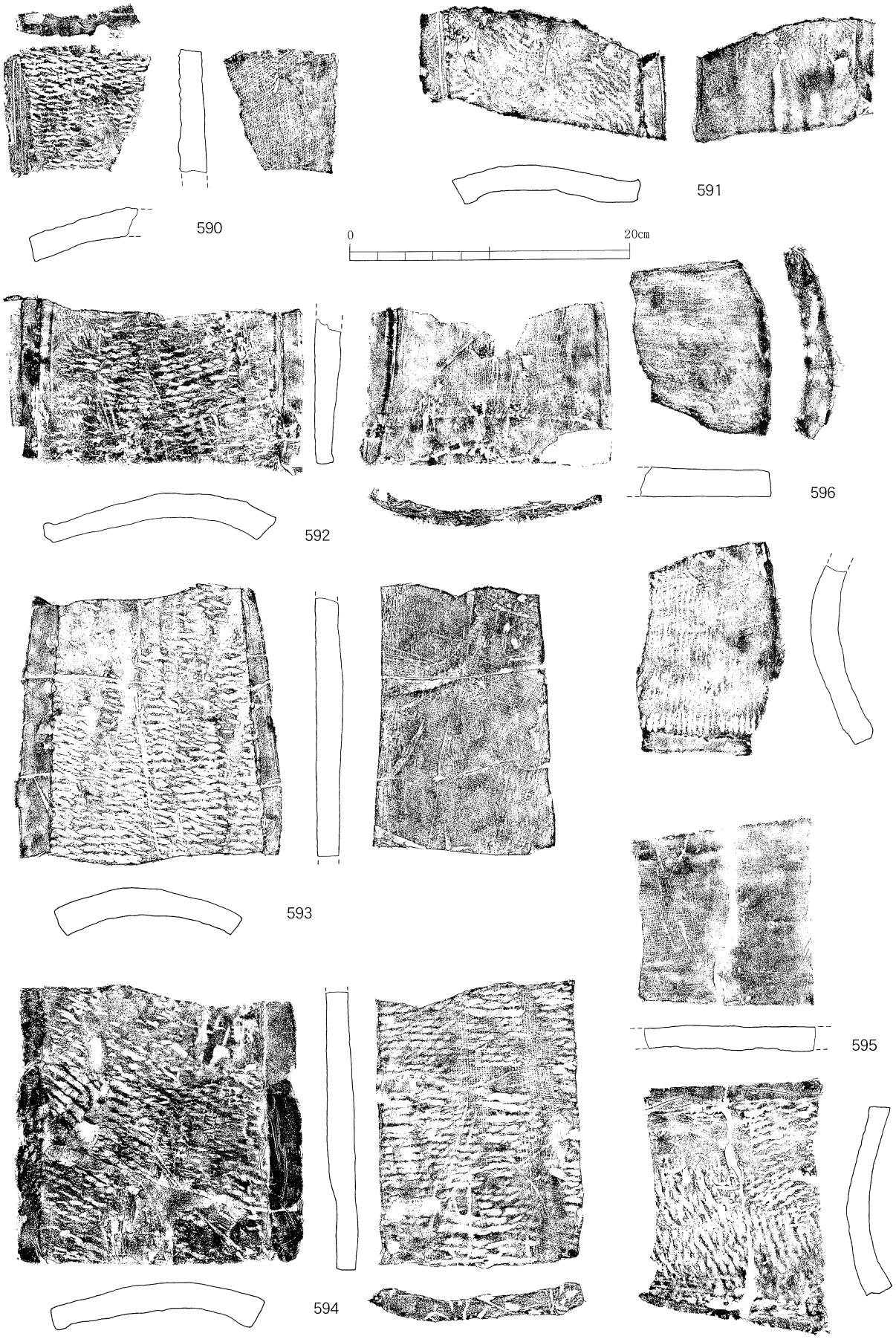
第39図　出土瓦㉙（scale：1/4）



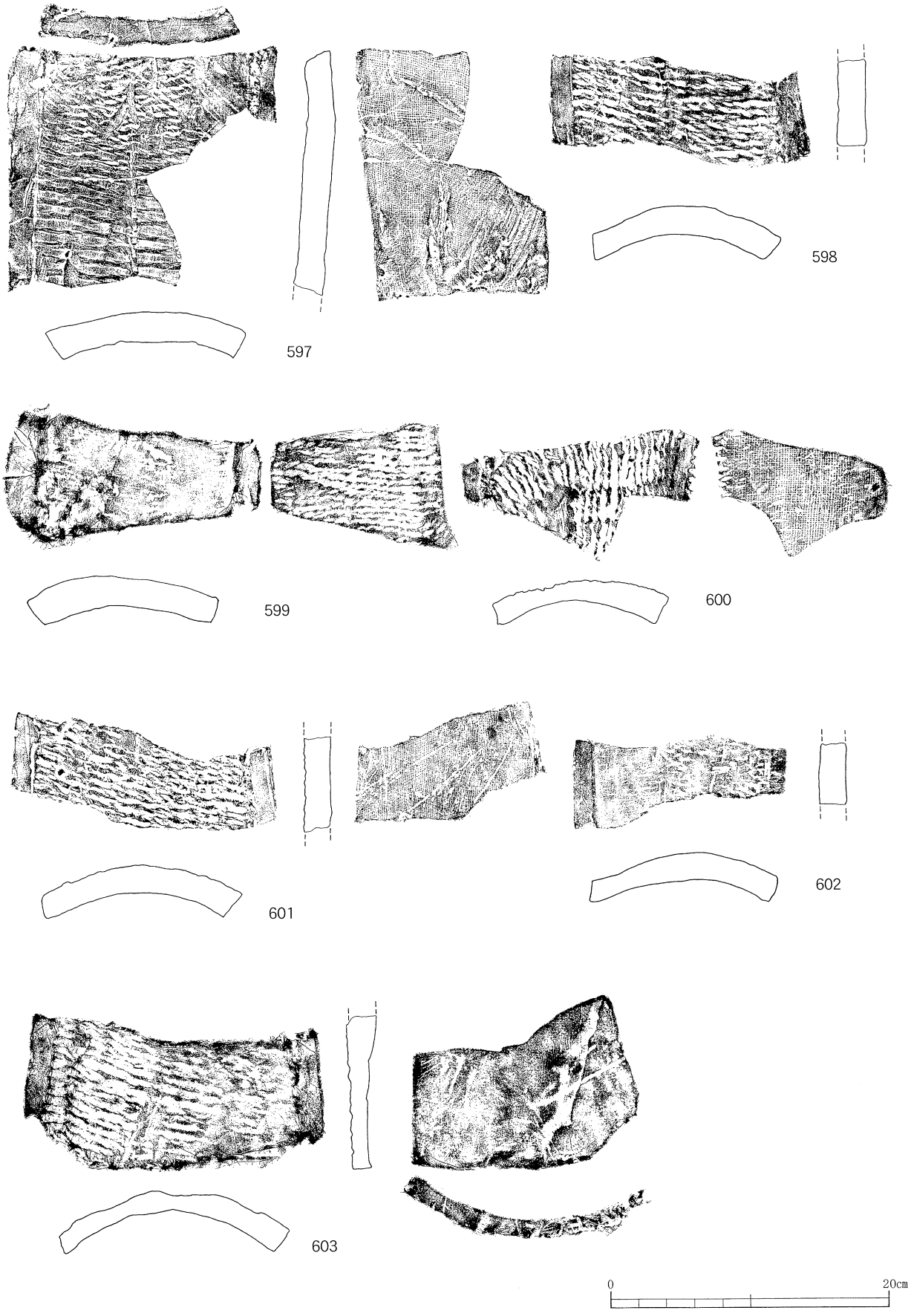
第40図　出土瓦㉚（scale：1/4）



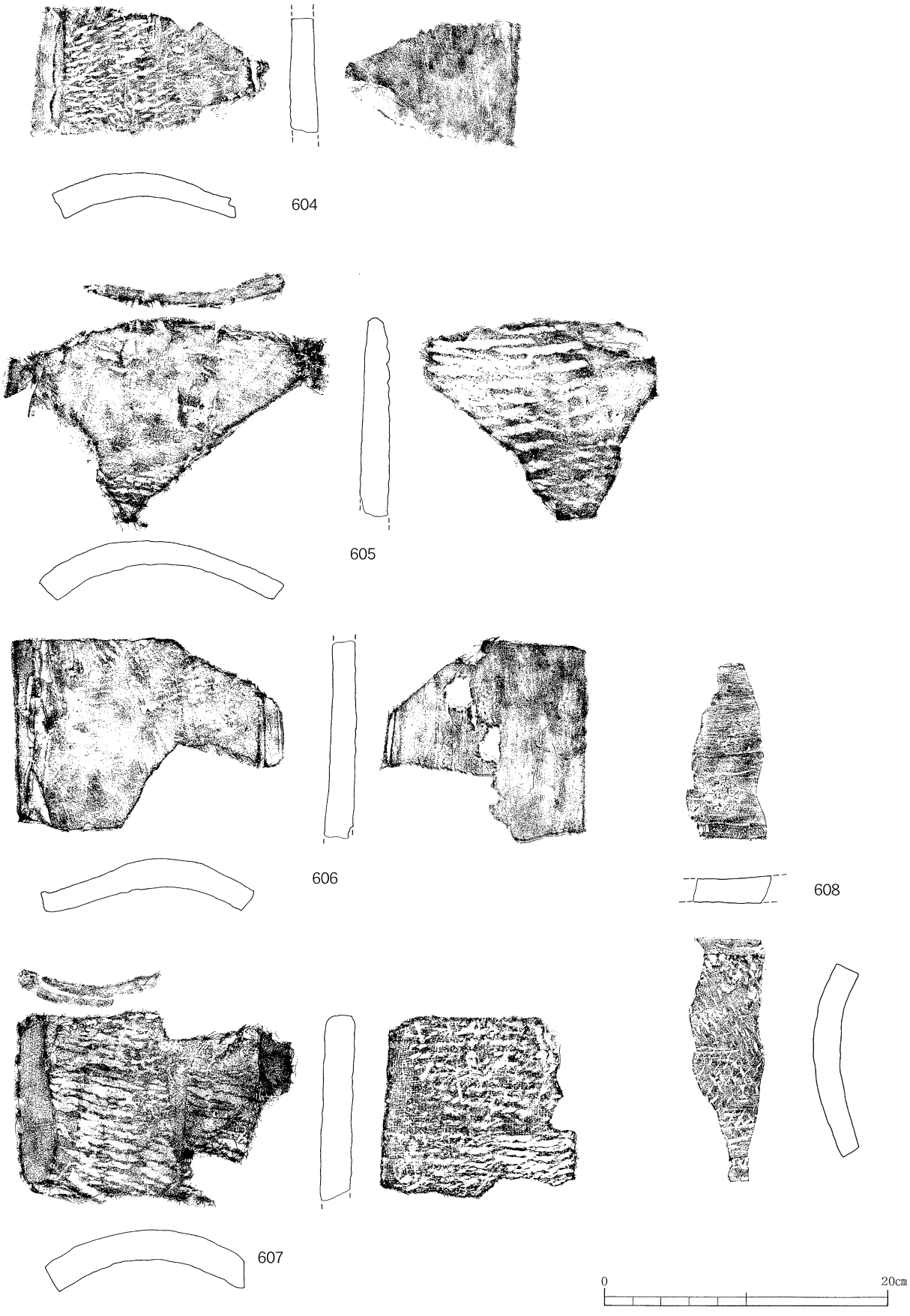
第41図　出土瓦㉛（scale：1/4）



第42図　出土瓦㉜（scale：1/4）



第43図　出土瓦㉝（scale：1/4）



第44図　出土瓦㉞（scale：1/4）

表１　遺物観察表〈須恵器〉①　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
1	坏	A	12.6		8.6	3.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	外面自然釉	STA－1－B
2	坏	A	12.2		8.3	4.2	回転ナデ	回転ナデ		黄灰	黄灰	密	ヘラ記号(＋)・窯壁付着	STA仮3号D一括
3	坏	A	12.9		8.3	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・指頭痕(底)		褐灰	にぶい橙	密		STA－7－1K灰原
4	坏	A	12.6		7.6	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		浅黄	灰白	密	自然釉	STA－7－1K灰原
5	坏	A	13.7		8.8	4.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		オリーブ黒	灰	密	自然釉・窯壁付着	STA－下1a－2
6	坏	A	13.2		6.5	5.0	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STA仮2－a
7	坏	A	13.5		9.2	4.1	回転ナデ	回転ナデ		黒	黒褐	密	自然釉	STA1a3
8	坏	A	14.9		8.8	4.2	回転ナデ	回転ナデ・不定ナデ		オリーブ灰	灰オリーブ	密	窯壁付着	STA1a－3
9	椀	A	17.2		10.3	4.7	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		青灰	灰	密		STA1a－3
10	壺	A	12.2		8.1	4.0	回転ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰	明オリーブ灰	密		STA1a－3
11	坏	A					回転ナデ	不定ナデ		灰	黄灰	密		STA
12	坏	A	12.9		9.2	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ハケ		灰	灰	密	自然釉・窯壁付着	STA
13	坏	A	13.7		9.2	4.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ハケ		黄灰	黄灰	密		STA－C－1一括7－1K
14	皿	A	18.0		12.7	3.3	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰白	密	自然釉	STA－7－K灰原
15	椀	A	14.4		7.5	5.9	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STA一仮2－a
16	椀	A	13.6		6.5	6.0	回転ナデ	回転ナデ		暗灰黄	暗灰黄	密		STA一仮2－a
17	椀	A			9.1		回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STA一下1a－2
18	椀	A	15.8		8.8	6.2	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	自然釉・窯壁付着	STA一下1a－2
19	坏	A	13.4		6.4	6.5	回転ナデ	回転ナデ		橙	浅黄橙	密		STA仮3号D一括
20	坏	A	12.6		7.1	4.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰黄	灰黄	密		STA仮2－a
21	坏	A	10.9		6.3	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STA－7－1K灰原
22	坏	A	12.4		6.2	4.5	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STA仮1号C一括
23	坏	A			7.3		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		浅黄	浅黄	密		STA下1a－2
24	蓋	A	13.8			3.7	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		黄褐	黄灰	密		STA下村1b
25	蓋	A	14.5			5.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密		STA－7－1灰原
26	蓋	A	18.6			4.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	黄灰	密		STA－7－1K灰原
27	蓋	A	14.1			4.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密		STA－7－1K灰原
28	蓋	A	13.2		5.4	3.7	回転ナデ	回転ナデ		黄灰	黄灰	密	内面に砂粒かたまり	STA仮1号D一括
29	甕	A	12.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STA1a(2－3)
30	甕	A	13.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		褐灰	灰白	密		STA一仮2－a
31	甕	A	14.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STA一仮2－a
32	甕	A	15.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		にぶい黄	灰	密		STA一仮2－a
33	甕	A	15.8				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密	自然釉・水溶性の鉄分付着	STA一1－a
34	甕	A	18.9				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STA一下1a－3
35	甕	A	19.1				回転ナデ・格子目タタキ	車輪状タタキ・ヘラ削り		灰	灰	密		STA一仮2－a
36	甕	A	22.7				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		浅黄	灰	密	内外ともに自然釉	STA一B－1
37	甕	A	22.0				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		オリーブ灰	暗オリーブ灰	密		STA一下村4
38	壺	A	12.7				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STA一A－2下1a
39	坏	B	9.6		6.2	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	外面自然釉	STB一A－3
40	坏	B	12.6		8.5	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		にぶい赤褐	灰赤	密		STB一A－2
41	坏	B	12.9		8.0	3.8	回転ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STB一
42	坏	B	13.1		8.7	4.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰白	密		STB一B一2ベa
43	坏	B	13.1		6.2	4.4	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	外面自然釉・内面窯壁付着	STB－C一括

表２　遺物観察表〈須恵器〉②　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
44	坏	B	13.7		8.0	4.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密	外面自然釉	STB一
45	坏	B	14.0		9.9	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密		STB一
46	坏	B	14.8		8.9	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	外面自然釉	STB－C－1
47	坏	B	13.3		9.7	5.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰	密	外面自然釉	STB－C－3
48	壺	B	11.7		7.4	5.3	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰白	密	自然釉・窯壁付着	STB一B一2aベ
49	椀	B	15.8		7.3	5.1	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STB一
50	椀	B			6.5		回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STB一
51	坏	B			7.3		回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	粗		STB一C－3
52	坏	B			7.2		回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密	内外ともに鉄分付着	STB一C－1
53	坏	B			7.7		回転ナデ・不定ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	底面近くに指頭痕	STB一B－2
54	坏	B			8.5		回転ナデ	回転ナデ		暗灰	灰白	密		STB一A－3
55	坏	B	12.8		6.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ		浅黄橙	浅黄橙	密		STB一A－2
56	坏	B	14.8		7.9	5.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰白	密	外面自然釉	STB一B－2
57	坏	B	13.2		7.1	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密		STB一C一2ベa
58	坏	B	13.2		6.1	4.8	回転ナデ	回転ナデ		浅黄橙	浅黄橙	密		STB一C－2
59	坏	B	18.4		11.9	5.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定		灰オリーブ	灰白	密		STB一A－2
60	坏	B			11.1		回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		褐灰	にぶい橙	密	焼成不良	STB一B－2
61	坏	B	18.4		11.9	5.9	回転ナデ	回転ナデ・ハケ		灰オリーブ	灰白	密		STB一C－1
62	甕	B	17.3				回転ナデ	回転ナデ		灰	灰白	密	水溶性の鉄分が付着	STB一A－2
63	甕	B	18.6				回転ナデ	回転ナデ・同心円タタキ		にぶい黄褐	褐	密	内外面とも自然釉付着	STB一B－1一括
64	甕	B	20.1				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		灰	灰	密	外面自然釉・水溶性鉄分付着	STB一B一C－1一括
65	甕	B	20.2				回転ナデ	回転ナデ		灰黄	灰白	密		STB一B一B－2
66	甕	B	21.5				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		灰	灰	密		STB一B－2
67	甕	B					回転ナデ	回転ナデ		灰オリーブ	灰	粗		STB一B－1
68	高坏	B					回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STB一A－2
69	甕	B	20.6				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		灰白	灰	密	自然釉・水溶性鉄分付着	STB一C－1
70	甕	B	21.8				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		黄灰	灰	密	自然釉	STB一C－2ベ
71	甕	B	23.3				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円タタキ		灰	灰	粗		STB一B－2
72	壺	B	11.1		8.7	16.8	回転ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密	自然釉・水溶性鉄分・内面一部気泡・外面一部窯壁	STB一A－2
73	壺	B	8.4				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰白	密		STB一B－2
74	横瓶	B	9.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		浅黄	黄灰	粗		STB一B－1一括
75	蓋	B	15.5			2.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STB一B－2
76	蓋	B	14.3			3.2	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	自然釉	STB一B－2
77	蓋	B	13.7			2.7	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STB一BC－2bベ
78	蓋	B	14.1			3.1	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密		STB一C－2aベ
79	蓋	B	14.7			3.1	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰オリーブ	灰	密		STB一B－2
80	蓋	B	13.9			3.2	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STB一A－3
81	蓋	B	13.9			3.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		黄灰	灰オリーブ	密	自然釉・窯壁付着	STB一B－1
82	蓋	B	13.5			3.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密	水溶性の鉄分・自然釉・窯壁付着	STB一B－2
83	蓋	B	13.8			3.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密	天井部ヘラ記号	STB一A－2
84	蓋	B	18.5			4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		褐灰	灰	密		STB一A－2
85	壺蓋	B	15.3			3.5	回転ナデ・ヘラ削り	不定ナデ		赤	褐灰	密	自然釉付着	
86	坏	C	11.7		6.1	3.4	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3

表３　遺物観察表〈須恵器〉③　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
87	坏	C	10.4		4.9	3.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	底部重ね焼き痕跡	STC－3
88	坏	C	10.1		5.0	3.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
89	坏	C	11.9		4.9	3.7	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
90	坏	C	11.8		5.5	4.9	回転ナデ・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	外面底部重ね焼き痕跡	STC－3
91	坏	C	11.5		5.3	4.1	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
92	坏	C	11.9		5.6	4.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
93	坏	C	12.1		5.9	4.7	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
94	坏	C	12.2		5.3	5.5	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
95	坏	C	13.4		6.0	5.0	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
96	椀	C	11.5		7.1	6.5	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
97	椀	C	12.5		6.2	6.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
98	椀	C	13.1		7.1	5.1	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰	密	一部亀裂	STC－3
99	椀	C	13.9		6.5	5.8	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
100	椀	C	13.4		7.4	5.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
101	椀	C	14.0		7.3	5.5	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
102	椀	C	16.1		7.6	7.9	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	重ね焼き痕	STC－3
103	椀	C	16.4		7.2	8.2	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	内面重ね焼き痕	STC－3
104	椀	C	17.3		7.5	7.3	ヘラ削り	回転ナデ		褐灰	褐灰	密		STC－3
105	椀	C	13.4		7.3	6.0	回転ナデ	回転ナデ		灰白	浅黄	密		STC－3
106	椀	C	14.4		6.5	6.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	底外面にヘラ記号	STC－3
107	椀	C	15.4		5.2	6.6	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
108	硯	C			3.9	2.2	不定ナデ	不定ナデ		灰	黄灰	密		STC－3
109	椀	C	16.8		7.3	7.7	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
110	椀	C	16.5		7.9	7.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		暗灰黄	灰オリーブ	密		STC－3
111	椀	C					回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
112	椀	C	13.4		6.5	5.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
113	椀	C	14.2		7.6	6.2	回転ナデ・ハケ	回転ナデ・ハケ		灰	灰	密		STC－3
114	椀	C	16.0		7.8	7.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
115	椀	C	16.0		7.3	7.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
116	椀	C	16.7		8.2	7.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	鉄分付着	STC－3
117	椀	C	16.7		8.2	7.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	高台貼り付け部焼成時の割れ目	STC－3
118	椀	C	13.4		6.5	5.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・指ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
119	椀	C	17.5		9.6	7.7	ヘラ削り・ハケ	回転ナデ・ハケ		灰	灰白	密	自然釉	STC－3
120	椀	C	17.9		7.4	7.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密	内面重ね焼き痕	STC－3
121	椀	C	18.3		8.6	6.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
122	坏	C	11.7		5.8	5.6	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
123	坏	C	12.4		5.4	4.6	ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰白	密		STC－3
124	坏	C	12.8		6.5	4.7	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰オリーブ	灰オリーブ	密		STC－3
125	坏	C	12.6		6.2	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰オリーブ	灰オリーブ	密		STC－3
126	坏	C	13.0		5.8	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	内面重ね焼き痕	STC－3
127	坏	C	14.0				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3

表４　遺物観察表〈須恵器〉④　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
128	坏	C	11.7		5.4	4.6	ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰	密		STC－3
129	坏	C	13.6		6.2	4.8	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
130	蓋	C	15.9		5.9	4.7	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰白	密	窯体付着	STC－3
131	蓋	C	14.0		5.1	2.6	回転ナデ・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰白	密		STC－3
132	椀	C	17.3		8.6	7.8	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密	自然釉、鉄分付着	STC－3
133	椀	C	16.1		7.6	7.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		オリーブ灰	オリーブ灰	密		STC－3
134	椀	C			6.6	6.6	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	重ね焼き痕	STC－3
135	椀	C	15.8		8.2	8.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
136	椀	C	17.9		7.6	7.6	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
137	椀	C	17.4		8.3	8.3	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰黄褐	灰黄褐	密		STC－3
138	坏	C	13.1		6.5	4.6	回転ナデ	回転ナデ		にぶい黄褐	浅黄橙	密	土師質	STC－3
139	坏	C	13.2		6.8	4.4	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰白	密		STC－3
140	坏	C	13.5		6.1	4.9	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
141	椀	C	13.7		6.5	5.8	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	粗		STC－3
142	椀	C	14.1		7.5	6.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・ハケ		灰白	灰白	密		STC－3
143	椀	C	15.3		7.5	5.1	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
144	坏	C	12.4		7.2	4.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
145	坏	C	12.6		7.5	3.8	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
146	坏	C	13.0		6.4	4.2	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
147	坏	C	13.3		7.1	3.5	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
148	坏	C	13.3		7.1	6.2	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
149	坏	C	13.6		8.4	4.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
150	坏	C	12.0		6.2	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
151	坏	C	12.4		7.4	4.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密	自然釉	STC－3
152	坏	C	13.7		8.9	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	浅黄橙	密		STC－3
153	蓋	C	13.2		4.5	2.5	回転ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
154	皿	C	13.8		9.3	3.5	ヘラ削り	回転ナデ・ハケ		灰	灰オリーブ	密		STC－3
155	椀	C	14.7		7.3	6.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰オリーブ	密		STC－3
156	椀	C	14.4		7.4	5.8	回転ナデ・不定ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
157	椀	C	15.5		7.8	6.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	自然釉・窯体付着	STC－3
158	椀	C	12.2		6.5	4.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	粗		STC－3
159	椀	C	11.9		6.2	4.8	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰	密		STC－3
160	皿	C	14.8		6.8	4.0	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰	密		STC－3
161	皿	C	12.8		6.5	4.4	回転ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
162	坏	C	12.4		6.5	3.5	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
163	坏	C	12.6		6.1	3.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
164	坏	C	12.7		6.3	4.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		浅黄橙	浅黄橙	粗		STC－3
165	坏	C	12.9		5.4	4.7	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
166	坏	C	14.5		6.3	6.3	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		浅黄橙	浅黄橙	密		STC－3
167	坏	C	14.5		6.2	6.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		にぶい黄橙	浅黄橙	密		STC－3
168	坏	C	14.8		5.3	5.3	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
169	坏	C	14.9		7.6	7.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		暗灰	灰白	密		STC－3

表５　遺物観察表〈須恵器〉⑤　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
170	坏	C	14.5		6.0	6.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		褐灰	褐灰	密		STC－3
171	椀	C	13.4		7.7	7.7	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密	重ね焼き痕	STC－3
172	椀	C	14.8		7.4	7.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰	密		STC－3
173	皿	C	15.3		6.2	6.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		浅黄橙	浅黄橙	密		STC－3
174	蓋	C	12.2		6.6	2.4	ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
175	皿	C	14.2		6.9	3.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
176	椀	C	13.9		7.9	5.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰	密		STC－3
177	椀	C	15.7		7.5	5.7	回転ナデ	ヘラ削り・回転ナデ		橙	にぶい橙	密		STC－3
178	蓋	C	14.8		7.4	2.0	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
179	蓋	C					回転ナデ	回転ナデ		褐灰	灰黄	密		STC－3
180	蓋	C	15.9		9.4	2.2	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		褐灰	灰褐	密		STC－3
181	蓋	C	18.6		9.9	2.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰オリーブ	灰オリーブ	密		STC－3
182	蓋	C	13.8		6.7	1.9	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
183	壺蓋	C	11.5			4.2	ヘラ削り	回転ナデ		灰黄	灰黄	密		STC－3
184	壺蓋	C	14.6			3.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰	密		STC－3
185	壺	C	12.8		13.2	28.8	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	肩部列点文	STC－3
186	壺	C	7.1		16.6	20.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
187	壺	C	10.5		13.2	27.9	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	褐灰	密		STC－3
188	壺	C	9.4		14.5	28.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰オリーブ	灰オリーブ	密	外面鉄分付着	STC－3
189	壺	C	9.5		13.7	25.8		回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
190	壺	C	9.3		9.5	23.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密		STC－3
191	壺	C	8.4		12.1	24.5	回転ナデ・ヘラ削り・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰	密		STC－3
192	壺	C	10.5		11.9	24.7	ヘラ削り	回転ナデ		灰黄褐	灰白	密		STC－3
193	壺	C	8.9		14.7	27.4	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密	内面自然釉	STC－3
194	壺	C	9.5		11.2	24.9	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	自然釉	STC－3
195	壺	C					回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
196	壺	C					回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
197	壺	C					回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰オリーブ	灰	密	鉄分付着	STC－3
198	壺	C	8.6		11.1	24.0	回転ナデ・ヘラ削り・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
199	壺	C	3.4		6.0	7.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
200	壺	C	10.2		12.0	23.9	回転ナデ	回転ナデ		明オリーブ灰	明オリーブ灰	密		STC－3
201	壺	C	4.3		6.5	9.4	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
202	壺	C	8.7				格子目タタキ	回転ナデ		明褐灰	灰白	密	自然釉	STC－3
203	壺	C	8.6				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密	自然釉	STC－3
204	壺	C	8.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰	密		STC－3
205	壺	C	10.5		11.5	15.5	格子目タタキ・ハケ	ハケ		灰白	灰	密		STC－3
206	壺	C	8.8		10.5	22.5	ヘラ削り	回転ナデ		褐灰	灰白	密		STC－3
207	壺	C	9.1		14.2	25.2	回転ナデ	不定ナデ		灰	灰	密	自然釉	STC－3

表６　遺物観察表〈須恵器〉⑥　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
208	壺	C	10.1		13.1	29.5	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密	自然釉	STC－3
209	壺	C	8.0		12.0	21.9	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
210	壺	C	10.0		10.2	23.9	回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰白	灰	密	自然釉・窯体付着	STC－3
211	壺	C	5.1		13.0	13.1	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		暗灰	灰	密		STC－3
212	壺	C	9.5		12.4	15.5	ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰オリーブ	密		STC－3
213	壺	C	10.9		12.4	23.7	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰	密	自然釉・鉄分付着	STC－3
214	壺	C	12.7		15.2	27.2	格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・不定ナデ		灰	灰白	密		STC－3
215	壺	C	10.0		14.0	25.3	ヘラ削り	回転ナデ		暗灰	灰	密		STC－3
216	壺	C	8.9		15.5	28.2	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・不定ナデ		灰白	灰	密		STC－3
217	壺	C	10.5		14.1	28.0	回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ		灰オリーブ	灰	密	自然釉	STC－3
218	壺	C	10.3		11.7	25.1	回転ナデ	回転ナデ		灰白	褐灰	密	自然釉	STC－3
219	壺	C	9.4		11.6	26.0	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		明青灰	灰	密		STC－3
220	壺	C	7.0		10.0	25.6	ヘラ削り・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
221	壺	C	10.2		13.8	26.6	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰オリーブ	灰	密	自然釉	STC－3
222	壺	C	9.3		13.4	25.9	ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
223	壺	C	8.4		11.0	22.8	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
224	壺	C	10.7		11.2	23.9	回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密	自然釉	STC－3
225	壺	C	6.2		10.7	13.4	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ		灰	にぶい黄橙	密		STC－3
226	壺	C	8.5		10.0	22.9	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
227	壺	C	9.5		13.9	25.5	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
228	壺	C	6.3		16.0	19.9	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
229	壺	C	5.5				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
230	壺	C	5.1		12.9	13.8	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密		STC－3
231	壺	C	4.8		12.5	14.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰白	密	窯体付着	STC－3
232	壺	C					回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰	密	自然釉	STC－3
233	壺	C	5.7		16.5	17.4	回転ナデ・ヘラ	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
234	壺	C			13.5	11.0	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰	灰	密	自然釉	STC－3
235	甕	C	14.9				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
236	甕	C	14.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密	窯体付着	STC－3
237	甕	C	15.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密	自然釉	STC－3
238	甕	C	15.3				回転ナデ	同心円タタキ		暗灰	暗灰	密		STC－3
239	甕	C	15.3				回転ナデ・格子目タタキ	同心円タタキ		灰	灰	密		STC－3
240	甕	C	16.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
241	甕	C	16.9				回転ナデ・格子目タタキ	車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3

表７　遺物観察表〈須恵器〉⑦　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
242	甕	C	17.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
243	甕	C	19.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密	鉄分付着	STC－3
244	甕	C	26.1			66.0	回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・平行タタキ・ヘラ削り		褐灰	褐灰	密		STC－3
245	甕	C	27.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		灰	灰	密		STC－3
246	甕	C	15.8			40.9	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		灰白	灰白	密	自然釉	STC－3
247	甕	C	13.8				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰	密		STC－3
248	甕	C	10.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		浅黄	灰白	密		STC－3
249	甕	C	13.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		黄灰	黄灰	密		STC－3
250	甕	C	14.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		黄灰	黄灰	密		STC－3
251	甕	C	14.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
252	甕	C	15.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
253	甕	C	16.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		黒褐	灰白	密		STC－3
254	甕	C	16.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
255	甕	C	17.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
256	甕	C	18.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		褐灰	褐灰	密		STC－3
257	甕	C	18.2				回転ナデ	回転ナデ		灰オリーブ	灰白	密	自然釉・鉄分付着	STC－3
258	甕	C	17.2				回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		灰	灰	密		STC－3
259	甕	C	15.5				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		オリーブ黒	灰	密		STC－3
260	甕	C	16.3				回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・不定ナデ		灰	灰	密	自然釉	STC－3
261	甕	C	16.9				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密	自然釉・鉄分付着	STC－3
262	甕	C	18.9				回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
263	甕	C	12.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰	密		STC－3
264	甕	C	13.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰白	密	自然釉	STC－3
265	甕	C	15.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・平行タタキ		灰	灰	密		STC－3
266	甕	C	16.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
267	甕	C	16.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
268	甕	C	19.9				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
269	甕	C	24.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3

表８　遺物観察表〈須恵器〉⑧　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
270	甕	C	20.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		暗オリーブ灰	暗灰	密		STC－3
271	甕	C	17.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰黄	灰白	粗		STC－3
272	甕	C	18.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰	密		STC－3
273	甕	C	18.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰	粗		STC－3
274	甕	C	18.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
275	甕	C	18.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密	自然釉・鉄分付着	STC－3
276	甕	C	16.5				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
277	甕	C	18.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		オリーブ灰	灰	粗		STC－3
278	甕	C	18.9				格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
279	甕	C	19.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰白	密	自然釉	STC－3
280	甕	C	20.0				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		暗灰	灰	密		STC－3
281	甕	C	14.8				回転ナデ	回転ナデ		灰	灰オリーブ	密		STC－3
282	甕	C	15.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・平行タタキ		灰	暗灰	粗		STC－3
283	甕	C	16.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	粗		STC－3
284	甕	C	17.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		灰白	灰	密		STC－3
285	甕	C	20.0				回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰白	密		STC－3
286	甕	C	18.1				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰白	密	自然釉	STC－3
287	甕	C	18.5				回転ナデ・車輪状タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰白	灰白	粗		STC－3
288	甕	C	18.8				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		灰	灰白	粗		STC－3
289	甕	C					回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		灰	暗灰	密		STC－3
290	甕	C	10.9				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STC－3
291	甕	C	16.2				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・同心円タタキ・平行タタキ		灰白	灰白	密		STC－3
292	甕	C	18.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	暗灰	密	窯体付着	STC－3
293	甕	C	9.2				回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		灰	灰	密		STC－3
294	鉢	C	20.2		10.9	10.4	回転ナデ・格子目タタキ・ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰白	密		STC－3
295	鉢	C	25.4		14.3	12.5	回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ		暗灰	暗灰	粗		STC－3
296	鉢	C					回転ナデ・ヘラ削り	回転ナデ・ヘラ削り		灰	浅黄橙	密		STC－3
297	甕	D	11.8				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		赤灰	赤灰	粗		STD－8

表９　遺物観察表〈須恵器〉⑨　※佐土原町文化財調査報告書第10集『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』(1996年) 掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
298	甕	D	14.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STD－8
299	甕	D	17.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STD－8 D一括
300	甕	D	17.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		浅黄	淡黄	粗		STD－8 D一括
301	甕	D	18.4			42.6	回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ・平行タタキ		にぶい黄褐	褐灰	密		STD－6 D－8 D一括
302	甕	D	21.3				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STD－8 D一括
303	甕	D	13.8				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰褐	灰黄	密		STD－6
304	甕	D	15.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰	密		STD一括
305	甕	D	15.6				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STD－8 D一括
306	甕	D	16.4				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密		STD一括
307	甕	D	17.8				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ・車輪状タタキ		灰	灰	密	窯体付着	STD一括
308	壺	D	7.8		12.0	22.1	回転ナデ	回転ナデ		灰白	黄灰	密		STD－8 D一括
309	壺	D	8.2		11.0	21.2	回転ナデ・ヘラ削り・不定方向ナデ	回転ナデ・不定ナデ		灰褐	灰	密	鉄分付着	STD－8 D一括
310	壺	D	7.6		11.7	21.4	回転ナデ・ヘラ削り・格子目タタキ	回転ナデ		灰黄	黄灰	密		STD－6 D一括
311	壺	D	8.4		15.2	28.7	回転ナデ・ヘラ削り・格子目タタキ	回転ナデ		灰	灰白	密		STD－6 D－8 D－9 D一括
312	壺蓋	D	14.8			2.8	ヘラ削り	回転ナデ		灰白	灰黄褐	密		STD－8
313	壺	D	10.3		9.9	21.1	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰オリーブ	密		STD－6 D一括
314	壺	D	9.7				回転ナデ・格子目タタキ	回転ナデ		灰白	灰	密	自然釉	STD－8 D一括
315	坏	E	14.4		6.5	7.2	回転ナデ	指頭痕		灰黄	灰黄	密		STE－10
316	坏	E	12.0		6.8	7.0	回転ナデ	回転ナデ・ヘラ削り		灰オリーブ	灰	密		STE－10

表10　遺物観察表〈須恵器〉⑩　※本書掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
317	短頸壺蓋	A	16.0			4.0	回転ナデ	回転ナデ		灰、オリーブ黄	灰	密	壁体、自然釉付着	STA7－1K灰原
318	蓋	A	13.5			3.4	回転ナデ・ケズリ	ナデ		オリーブ灰	灰	黒色微粒子含有	他個体破片融着	STA7－1K灰原（黒層）
319	坏	B	13.7		7.8	6.2			ヘラ切り	浅黄橙	浅黄橙	1㎜褐色粒子含有	土師質、摩滅激し	STBA－2　44
320	長胴壺	B	8.4				回転ナデ	回転ナデ		オリーブ灰	オリーブ灰	密		STB－1　83
321	坏	C			6.0		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰白	灰白	白色微粒子含有	焼成不良	STCⅠ－3　909
322	坏	C			5.6		回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	白色微粒子含有		STCⅠ－4　99－2,987
323	坏	C			4.4		回転ナデ			灰白	灰白	1㎜白色粒子含有	摩滅激し	STCⅠ－3　729
324	椀	C	13.2		7.3	6.0	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	白色微粒子含有		STCⅠ－4　201
325	椀	C			6.8		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ナデ	明オリーブ灰	灰	0.5㎜白色粒子含有		STCⅠ－3・4ベ30
326	椀	C			7.3		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰	灰白	密		STCⅠ－4　1565,1867
327	椀	C			7.6		回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STCⅠ－4　114
328	椀	C			9.2		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰白	1㎜黒色粒子、白色微粒子含有		STCⅠ－4　717
329	椀	C			7.2		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰白	灰白	2㎜白色粒子含有		STCⅠ－4　1536
330	椀	C	16.4		6.7	7.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	明オリーブ灰	灰白	1㎜白色粒子含有		STCⅠ－3　80,704
331	椀	C	15.4		7.5	5.0	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STCⅠ－4　1009,1876
332	椀	C			6.7		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰白	灰白	密		STCⅠ－4　1405
333	椀	C			7.6		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰白	灰白	密		STCⅠ－4　951,1450他
334	椀	C			8.0		回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STCⅠ－3・4ベ63,Ⅰ－4　46,63
335	椀	C			7.8		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰	灰	密		STCⅠ.H－4ベ7
336	椀	C			7.3		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	白色微粒子含有		STCⅠ.H－4ベ38
337	椀	C			7.6		回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰	密	内面窯体融着	STCⅠ－4　1660
338	椀	C			7.2		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰オリーブ	灰白	密	自然釉	STCⅠ－3　1181
339	短頸壺	C	12.0	25.5	15.0	26.7	タタキのちナデ	ナデ		灰	灰	白色微粒子含有	自然釉	STCⅠ－4　1631,1639他
340	小壺	C	6.4				回転ナデ	回転ナデ		灰白	オリーブ灰	1㎜白色粒子含有		STCH－4　№12
341	小壺	C			6.6		回転ナデ・ケズリ	ナデ		灰	灰	密		STCⅠ－5ベ－1
342	長胴壺	C	7.9	15.3			回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STCⅠ－4　721,1524,1757
343	長胴壺	C	8.5	16.5			回転ナデ	回転ナデ		灰オリーブ	灰オリーブ	密		STCH－4窯体Ⅰ7,CM－10,9
344	長胴壺	C	8.4	23.5	11.6	23.6	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STCⅠ－4　77,100,105他
345	長胴壺	C	8.7				回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	白色微粒子含有		STCⅠ－4　1632,1626他
346	長胴壺	C	8.6				回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	黒色微粒子含有		STCⅠ－4　1412,1268,1521
347	長胴壺	C	10.3				回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密	破断面に自然釉	STCⅠ－3・4ベ134,Ⅰ－4　1829他
348	長胴壺	C	8.7	25.1	12.4	25.5	タタキのちナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰	密		STCⅠ－4　1714,1715他
349	長胴壺	C	10.1	21.4	10.2	26.8	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰	密	内面火膨多	STCⅠ－5　86
350	長胴壺	C	9.8	21.1	13.4	27.3	タタキのちナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STJ－4　61他
351	長胴壺	C	11.0	20.2	13.1	28.6	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	密	一部焼成不良	STCⅠ－3　1057,1093他
352	長胴壺	C	10.4	17.0	8.6	24.2	回転ナデ	回転ナデ		黄灰	黄灰	黒色微粒子含有		STCⅠ－3　388,370他
353	長胴壺	C	8.2	16.0	4.7	16.2	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰白	4㎜黒色粒子含有	口縁部窯体付着多	STCⅠ－4　1350,1427他
354	長胴壺	C	10.1				回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰	黒色微粒子含有	他個体破片融着	STCⅠ－5　62,221
355	長胴壺	C	9.5				回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰白	密	自然釉	STCⅠ－4　1642他
356	長胴壺	C	8.2				回転ナデ	回転ナデ		灰オリーブ	灰	白色微粒子含有	自然釉	STCⅠ－4　1077,1377他

表11　遺物観察表〈須恵器〉⑪　　※本書掲載資料

番号	器種	出土地区	法量				調整			色調		胎土	備考	注記記号
			口径	胴径	底径	器高	外面	内面	底面	外面	内面			
357	長胴壺	C	9.2				回転ナデ	回転ナデ		明オリーブ灰	灰白	2㎜白色粒子含有	自然釉	STCⅠ－4 1319他
358	長胴壺	C	10.5	21.0	12.6	28.4	タタキのちナデ	回転ナデ		灰	オリーブ黒	4㎜黒色粒子・白色微粒子含有		STCⅠ－3 998,1058他
359	長胴壺	C	8.9	21.2	15.0	26.5	タタキのちナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	密		STCⅠ－4 1915他
360	長胴壺	C		16.4	13.6		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰白	密		STCⅠ－4 1889,1236他
361	長胴壺	C	10.2				回転ナデ	回転ナデ		オリーブ灰	灰	密		STCⅠ－3 106, Ⅰ－4 497
362	短頸壺	D	7.2	12.4	8.6	14.2	回転ナデ	回転ナデ	ケズリ・ナデ	明オリーブ灰	オリーブ灰	1㎜白色粒子含有		STD33 10,12,27, D一括
363	長胴壺	D	7.2	18.0	11.3	22.9	タタキのちナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	密		STD F7・2,37号 H34,60他
364	長胴壺	D	7.6	16.2	11.8	19.8	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	白色微粒子含有		STD37号H23,D 14ベ47他
365	長胴壺	D	8.5	15.0	10.1	19.5	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	密		STD37号H 38,44,49他
366	長胴壺	D	8.8	15.0	9.5	20.4	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	密	自然釉	STD37号72,53,84
367	長胴壺	D	7.8	16.1	10.5	24.8	タタキのちナデ	回転ナデ	ナデ	灰	灰	密	自然釉	STD37号H 74,49,48,46他
368	長胴壺	D	7.0	16.4			回転ナデ	回転ナデ		褐灰	褐灰	白色微粒子含有	内面自然釉	STD37号H 20,34,38,46他
369	長胴壺	D	8.6	14.9	11.5	20.9	タタキのちナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰白	1㎜白色粒子含有		STD14ベ 88,61,68,55他
370	長胴壺	D	9.0	18.9	13.2	26.2	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰白	黒色微粒子含有		STD14ベ,D37号 H34,70他
371	長胴壺	D	12.0				回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰	密	自然釉	STD・33・68
372	坏	E	16.2		7.0	7.9	ナデ	ナデ	ヘラ切り	灰	灰	密	円柱状底部	STE仮39号一括
373	坏	E	13.4		5.9	6.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰	灰	黒色微粒子含有	円柱状底部	STE仮39号一括
374	椀／坏	E	18.2				回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		STE仮39号一括
375	坏	E			5.6		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰白	灰白	密	円柱状底部	STE仮39号一括
376	坏	E			7.2		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰白	灰白	密	円柱状底部	STE仮39号一括
377	坏	E			7.1		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	オリーブ灰	オリーブ灰	密	円盤状底部	STE仮39号一括
378	坏	E			7.7		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰	灰	白色微粒子含有	内面に他個体破片融着	STE仮39号一括
379	蓋		14.0			3.8	回転ナデ	回転ナデ		灰白	灰	0.5㎜白色粒子、黒色微粒子含有		ST1－c
380	蓋		15.3			1.3	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰白	1㎜白色粒子含有		ST1－b
381	蓋		13.8			2.1	回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	1㎜黒色粒子含有		ST1a(2～3)
382	椀		15.8		7.1	4.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	灰	※内面観察不可	密	内面窯体融着	ST一括
383	椀				8.4		回転ナデ	回転ナデ		灰	灰	密		ST
384	長胴壺			16.1	12.1		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	灰白	灰	密		ST
385	甕		20.2				回転ナデ	回転ナデ		灰	オリーブ黒	密		ST1a(2～3)
386	甕		15.9				回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ		灰黄	灰	密		ST1a－3
387	甕		20.6				回転ナデ	回転ナデ		褐色	灰	密		ST2－b

表12　遺物観察表〈瓦〉①　※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
389	A－仮1号 D一括	平瓦	斜方向の縄目タタキ		布目痕	6×7	ヘラ削り	ナデ	0.5㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
390	A－仮2－a	平瓦			ナデ		ヘラ削り	ヘラ削り	0.5㎜以下の細砂と5㎜位の礫を少量含む	良	黄灰 2.5Y5/1	浅黄 2.5Y7/4
391	A－仮1号 D一括	丸瓦	横方向の縄目タタキ		ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の灰色・茶色の砂粒を少量含む	軟	浅黄 2.5Y7/3	黄 2.5Y8/6
392	A－仮2－a	丸瓦	横方向の縄目タタキ	6本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ削り		0.5㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	にぶい黄 2.5Y6/3	暗浅黄 2.5Y5/2
393	B－A－3	平瓦	斜方向の縄目タタキ	6本	横方向の縄目タタキ	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の灰・茶の砂粒を少量含む	軟	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1
394	B－B－1	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕 ナデ	9×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂を少量含む	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/2	灰白 10YR7/1
395	B－B－1	平瓦	横方向の縄目タタキ	4本	ナデ		ヘラ切り	ヘラの跡有		良	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/1
396	B－B－2	平瓦	横方向の縄目タタキ	7本	布目痕	10×7	ヘラ切り		0.5㎜以下の灰・うす茶の細砂を少量含む	やや軟	黄灰 2.5Y6/1	灰 5Y6/1
397	B－B－2	平瓦	斜方向の縄目タタキ	6本	ナデ		ヘラ切り	縄目かナデか	2～3㎜以下位の灰・茶の砂粒を少量含む	軟	灰白 5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
398	B－B－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	5×5	ヘラ切り		0.5㎜以下位の灰・茶の砂粒を少量含む	良	明褐灰 7.5YR7/1	灰白 2.5Y7/1
399	B－C－1	丸瓦	ヘラ状工具ナデ		布目痕	6×6	ヘラ切り		2㎜以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 10YR8/1	灰白 10YR7/1
400	B－B－1	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕	8×8	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	灰白 10YR7/1	灰黄 2.5Y7/2
401	B－B－1	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	風化著しい		ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	浅黄 2.5Y7/3	明黄褐 10YR7/6
402	B－B－2	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	7本	布目痕	7×7	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	明黄褐色 5YR7/1	赤灰 2.5YR4/1
403	B－B－2	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕		ヘラ切り		0.5㎜以下の細砂を少量含む	良	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1
404	B－B－2	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ		ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の粒と2㎜位の高師小僧見られる	不良	淡黄 2.5Y8/3	黄 2.5Y8/6
405	B－C－1	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	5×5	ヘラ切り		0.5㎜以下の灰白の砂粒を多く含む	不良	灰白 5Y8/1	灰白 2.5Y7/1
406	B－C－1	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕		ヘラ切り		0.5㎜以下の灰の粒を含む	不良	灰白 10Y8/1	灰白 7.5Y7/1
407	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	11本	布目痕	8×7			0.5㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	黄灰 2.5Y6/1	灰白 5Y7/2
408	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	7本	布目痕	5×6			2㎜以下の灰色の砂粒を少量含む	軟	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1
409	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		横方向の縄目タタキ・布目痕	12本			2㎜以下の砂粒を少量含む	良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/2
410	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕		ヘラ切り	ヘラ切り	5㎜以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰 7.5Y6/1	灰白 5Y8/1
411	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	横方向の平行タタキ				0.5㎜位の黒色の細砂を少量含む	良	灰オリーブ 5Y6/2	灰 5Y5/1
412	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	12本	布目痕	7×6	ヘラ切り	ヘラ削り	2㎜以下の黒い礫を少量含む	良	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/3
413	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	9本	ナデ		ヘラ切り		2～7㎜位までの石粒を少量含む(白・灰・茶)	良	灰白 5Y8/2	灰白 5Y8/2
414	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	7×6	ヘラ切り 面取り		2㎜以下の砂粒を少量含む	良	灰白 5Y8/2	灰白 5Y8/2
415	C－3	熨斗瓦	ナデ		布目痕	6×6	ヘラ切り		5㎜以下の礫を少量含む(茶色)	やや軟	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄燈 10YR7/3
416	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕	5×5	ヘラ切り ヘラ削り		0.5㎜以下の褐色の砂粒を含む	やや不良	浅黄 2.5Y7/3	灰黄 2.5Y7/2
417	C－3	平瓦	斜方向の縄目タタキ	12本	布目痕	6×6		ヘラ削り	1㎜以下の黒色の砂粒を少量含む	やや不良	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y7/1
418	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	縦方向のヘラナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	浅黄 2.5Y7/3	にぶい黄 2.5Y6/3
419	A－下村1	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	縦方向の縄目タタキ	12本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む		明黄褐 10YR7/8	明黄褐 10YR6/8
420	A－下村1	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	6本	布目痕	7×7	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒と2.5～3.5㎜の高師小僧を含む	良	黄灰 2.5Y5/1	にぶい黄 2.5Y6/3
421	A－下村1	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	7本	布目痕	8×8	ヘラ切り		0.5㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	黄 2.5Y8/6	浅黄 2.5Y7/3
422	A－1a(2～3)	平瓦	斜方向の縄目タタキ	6本	布目痕	5×5	ヘラ切り 面取り？		0.5㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	淡黄 5Y8/3	灰白 5Y8/2
423	A－1a(2～3)	丸瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕	5×5		ナデ	0.5㎜以下の細砂を少量含む	不良	灰白 5Y8/2	にぶい黄 2.5Y6/3
424	A－下1C	丸瓦	横方向の縄目タタキ	7本	布目痕	5×5	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/3
425	A－下村4	平瓦	斜方向の縄目タタキ	8本	ナデ		ヘラ切り ヘラ削り	ナデ	0.5㎜以下の細砂を少量含む	良	赤褐 5YR4/6	浅黄 5Y7/4

表13 遺物観察表〈瓦〉②　※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
426	A－下村7	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	6本	ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒と3～7㎜の高師小僧を含む	良	浅黄 2.5Y7/4	灰白 2.5Y7/3
427	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	14本	布目痕	5×5	ヘラ切り		2㎜以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 5Y8/1
428	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	11本	布目痕	7×7	ヘラ切り	ナデ	5㎜以下のうす茶の砂粒を少量含む	やや軟	灰 5Y6/1	浅黄 2.5Y8/3
429	C－3	丸瓦	ヘラ工具ナデ		布目痕	5×5	ヘラ切り 面取り		2㎜以下の砂粒を少量含む(黒)	やや軟	灰白 2.5Y8/2	にぶい黄橙 10YR7/3
430	C－3	丸瓦	縦・斜方向の縄目タタキ	9本	布目痕	5×5	ヘラ切り		1㎜以下の茶色・黒の砂粒を少量含む	軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
431	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	6本	布目痕	5×4	ヘラ切り 面取り		0.5～2㎜の粗砂を多く含む(黒・白・灰)	やや軟	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1
432	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	灰 5Y6/1	灰白 5Y8/1
433	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕	5×5	ヘラ削り	ヘラ切り	1㎜位の褐色の砂粒が少量含まれる	やや軟	灰白 10YR8/2	灰黄 2.5Y7/2
434	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	2㎜以下の粗砂を少量含む(灰・黒)	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
435	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	12本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ナデ 布目痕	0.5㎜以下の黒色の砂粒がある	不良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1
436	C－3	平瓦	縦・斜方向の縄目タタキ	8本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ヘラ削り	1㎜位の褐色の砂粒を含む	やや不良	灰 7.5Y5/1	灰白 7.5Y8/1
437	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	6×6			0.5㎜以下の褐色の砂粒を少量含む	不良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1
438	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	13本	布目痕	5×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1.5㎜位の黒の粒を少量含む	良	灰 7.5Y5/1	灰白 N7/
439	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕 ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒含まれる	良	褐灰 7.5YR5/1	灰白 10YR7/1
440	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	15本	布目痕	5×6	ヘラ切り	ヘラ削り	3㎜以下の細砂を少量含む	良	灰黄 2.5Y7/2	灰 N6/1
441	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ	5×6	ヘラ切り		1㎜以下の灰・灰黄の砂粒を多く含む	やや軟	灰黄 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y6/2
442	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕		ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含む	やや軟	灰 N5/0	灰白 N8/0
443	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	7×6	ヘラ切り 面取り		1㎜位の細砂を少量含む(灰)	やや軟	黄灰 2.5Y6/1	灰白 10YR7/1
444	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の細砂を含む	良	灰 N4/0	灰 N4/0
445	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	8×9	ヘラ切り 工具痕有り		1㎜位の黒の粒と0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1
446	C－3	平瓦	平行タタキ		ナデ		ヘラ切り 手で割った跡	ナデ	2～5㎜位の礫を少量含む	軟	浅黄 2.5Y7/3	黄 2.5Y8/4
447	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕	6×5	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰白 10YR7/1	灰白 10YR8/1
448	C－3	平瓦	斜方向の縄目タタキ	9本	布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	暗灰 N3/1	暗灰 N3/1
449	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	7本	布目痕	6×6	ヘラ切り 面取り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	暗灰黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y5/1
450	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	11本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1
451	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	6×6	ヘラ切り		1㎜位の褐色の砂粒が少量含まれる	やや軟	灰白 7.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
452	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	9本	布目痕	7×7		ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰 N6/0	灰 N5/0
453	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ	5×7	ヘラ切り		1.5㎜位の黒の粒が多数含まれる	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰黄 2.5Y7/2
454	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	4×4	ヘラ切り	ナデ	2㎜以下の砂粒を少量含む(茶色)	やや軟	灰白 10YR8/1	褐灰 10YR5/1
455	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	14本	布目痕 板ナデ	7×6	ヘラ切り	ヘラ切り 4条位のナデ痕有り	1㎜位の褐色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
456	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	8本	横方向の縄目タタキ・布目痕	6×6 8本	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1
457	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	13本	布目痕		ヘラ切り ヘラ削り	ヘラ切り	2㎜位の乳白色の粒1つと0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰白 5Y7/1	灰 5Y6/1
458	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ		布目痕		ヘラ切り後縦方向ナデ	ヘラ切り後横方向ナデ	1×7㎜の灰と0.5㎜位の灰白の粒が含まれる	やや軟	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/2
459	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ		ナデ		ヘラ切り ヘラ削り		1㎜位の黒・灰の粒を含む	やや軟	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y6/2
460	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	12本	布目痕 ナデ	7×5	ヘラ切り後縦方向ナデ	ヘラ切り後ナデ	1㎜位の黒・灰の粒を含む	やや軟	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1
461	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ	8×6	ヘラ切り後ナデ・面取り	ヘラ切り後不定方向ナデ	1㎜以下の砂粒と黒石が少量含まれる	良	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR7/4
462	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	9本	布目痕		ヘラ切り 面取り	ヘラ削り	2㎜以下の粗砂を少量含む(黒・灰)	やや軟	灰白 7.5Y8/2	灰 5Y5/1

表14 遺物観察表〈瓦〉③　※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
463	C－3	平瓦	斜方向の縄目タタキ	9本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜位の褐色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y7/1	灰 7.5Y6/1
464	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	ナデ		ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜位の灰・灰白の粒を含む	やや軟	灰 7.5Y8/1	淡黄 5Y8/3
465	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	11×10	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰オリーブ 5Y6/2	灰 5Y6/1
466	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	7本	布目痕	4×5	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の細砂を含む	軟	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2
467	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り		1㎜以下の灰の粒少量と0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/2
468	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	14本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り 面取り	ヘラ切り	1㎜以下の褐色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2
469	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜以下の灰の粒を少量含む	良	灰白 7.5Y8/2	灰 7.5Y6/1
470	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	2㎜以下の灰の粒少量と1㎜以下の灰白・乳白の粒含む	やや軟	黄灰 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2
471	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	7×7	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜位の灰白・乳白の粒を含む	やや不良	灰 7.5Y6/1	灰白 7.5Y7/1
472	C－3	平瓦	斜方向の縄目タタキ	8本	布目痕	6×6	ヘラ切り ヘラ削り	ヘラ切り	1㎜位の黒色の砂粒が少量含まれる	良	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1
473	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	9×9	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜位の灰の砂粒を多くと白・褐色・黒の砂を少量含む	良	灰 7.5Y6/1	灰白 N7/
474	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕	6×6	ヘラ切り 面取り		1㎜以下の粗砂を少量含む(黒色)	良	褐灰 10YR6/1	灰白 5Y7/1
475	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	12本	布目痕 ナデ	4×4	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	やや軟	浅黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y8/2
476	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を少量含む(灰)	軟	浅黄 2.5Y8/4	浅黄 2.5Y7/3
477	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	7本	布目痕 ナデ	6×7		ヘラ切り後ナデ	1㎜以下の砂粒と黒石を多量に含む	やや軟	浅黄褐 10YR4/2	褐灰 10YR4/1
478	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	横方向の縄目タタキ	11本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜～5㎜位の黒の粒を少量含む	良	灰 N7/	灰 N8/
479	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	11本	布目痕	6×6	ヘラ削り ナデ		1㎜位の黒の粒1個と0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
480	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	9本	布目痕 ナデ	8×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰白 7.5YR8/2	浅黄橙 7.5YR8/3
481	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	14本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り ナデ	1㎜位の褐色・黒色の砂粒を少量含む	良	灰白 N7/	灰白 N7/
482	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	4×4	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含み風化作用が見られる	良	灰 5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1
483	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	10本	布目痕	6×6	ヘラ切り		1㎜位の黒色の砂粒を含む	良	灰白 N7/	灰白 2.5GY8/1
484	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	7本	横方向の縄目タタキ	8本	ヘラ切り	ナデ	0.5㎜以下の灰・白の細粒を少量含む	良	灰白 2.5Y8/1	黄灰 2.5Y6/1
485	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕 板ナデ	6×6	ヘラ切り		微粒を多く含む	不良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/1
486	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	12本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り		1.5～2㎜の黒い粒を含む	良	灰 7.5Y5/1	灰 5Y6/1
487	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕 板ナデ		ヘラ切り 面取り		2㎜以下の茶色っぽい礫を少量含む	やや軟	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1
488	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ		布目痕 ナデ	6×5	ヘラ削り 面取り	ヘラ切り・縦方向ヘラ削り	0.5㎜位の黒色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 7.5Y7/1	灰白 5Y8/1
489	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	7本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り	ナデ	1㎜以下の黒い砂粒少量と0.5㎜以下の灰の細砂を含む	やや軟	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1
490	C－3	平瓦	横・斜方向の縄目タタキ	9本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り 面取り？		2㎜の灰白の粒1個と1㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1
491	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の細粒を含む	やや軟	灰白 2.5Y8/2	淡黄 2.5Y8/3
492	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	ナデ		ヘラ切り 面取り	ヘラ切り	2㎜以下黒・灰・白の砂粒と0.5㎜以下の砂粒少量含む	やや軟	灰白 5Y8/1	灰 5Y6/1
493	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕		ヘラ削り		1㎜位の黒色の砂粒を含む少量含む	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1
494	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	12本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ削り		3㎜以下の黒色の砂粒を少量含む	やや軟	灰 5Y5/1	灰白 7.5Y7/1
495	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕	8×6	ヘラ切り	ナデ	2㎜以下の粗砂少量含む	軟	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y8/1
496	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	8本	ナデ		ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜位の黒色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y8/2	灰白 7.5Y7/1

表15 遺物観察表〈瓦〉④　※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
497	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	黄灰 2.5Y4/1	灰白 2.5Y8/2
498	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	8×8	ヘラ切り	ヘラ切り後斜方向にヘラ押さえ痕	0.5㎜以下の灰と2㎜の白と1㎜の黒の砂粒を含む	良	灰 5Y6/1	灰白 5Y8/1
499	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	12本	布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5位の白・褐色・黒の砂粒を少量含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y5/1
500	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	16本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り	ナデ	1㎜位の灰色の砂粒を多く含む	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1
501	C－3	平瓦	板状工具ナデ		布目痕 板ナデ	5×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の細粒を含む	軟	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y8/2
502	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ	6×4	ナデ		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR7/3
503	C－3	平瓦	平行タタキ		布目痕	5×5	ヘラ切り 手で割った痕		2㎜以下の黒い砂粒を少量含む	良	灰白 2.5Y7/1	黄灰 2.5Y6/1
504	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ		布目痕 ナデ			ヘラ切り	0.5㎜以下の乳白・灰白の砂粒を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1
505	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	10本	ナデ		ヘラ切り		0.5㎜以下の細粒を含む	やや軟	灰 5Y5/1	灰白 5Y8/1
506	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ		ヘラ切り	ヘラ切り		やや軟	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y8/2
507	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ	7×6	ヘラ切り	ヘラ切り	2㎜以下の黒・灰の細粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y7/1	灰白 10YR7/1
508	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	13本	ナデ		ヘラ切り 面取り	ナデ	0.5㎜以下の灰色の細粒を少量含む	やや軟	灰 5Y6/1	灰 5Y5/1
509	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕 ナデ		ヘラ切り		1㎜以下の灰・灰白の粒を含む	やや軟	灰白 7.5Y7/1	灰白 5Y8/1
510	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕 ナデ	6×5	ヘラ切り ヘラ削り		0.5㎜の白・黒の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
511	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ		布目痕 ナデ				0.5㎜以下の灰色の細砂を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/1
512	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	5×7	凹凸面面取り 後横ナデ	凹面面取り後横ナデ	0.5～1㎜以下の砂粒と黒石が多量に含まれる	良	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1
513	C－3	平瓦	斜方向の縄目タタキ	8本	布目痕	8×8	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜位の白の砂粒を少量含む	良	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y6/1
514	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	12本	ナデ		ヘラ切り	ヘラ切り	1.5㎜位の黒っぽい粒を含む	良	灰白 5Y7/2	灰白 5Y7/1
515	C－3	平瓦	縦方向の縄目タタキ・ナデ	10本	横方向の縄目タタキ・ナデ	10本			0.5㎜以下の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y8/2	灰 7.5Y6/1
516	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	12本	縦・横方向の縄目タタキ 布目痕	12本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	褐灰 10YR5/1	灰白 7.5YR8/1
517	C－3	平瓦	縦・横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	6×5	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜以下の黒の粒を含む	やや軟	灰白 7.5Y7/1	灰白 10Y7/1
518	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	13本	風化著しい		ヘラ切り		1㎜位の黒色の砂粒を少量含む	軟	灰白 7.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
519	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	12本	布目痕	6×7	ヘラ切り		2㎜位の茶色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y8/1	灰 5Y4/1
520	C－3	平瓦	縄目タタキ ナデ		ナデ		ヘラ切り ヘラ削り		0.5㎜位の褐色の砂粒が少量含まれる	やや軟	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1
521	C－3	平瓦	ナデ		縦方向の縄目タタキ	10本	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を少量含む(黒色)	やや軟	灰白 10YR7/1	灰白 5Y8/1
522	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ	13本	風化著しい	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜以下の細砂を少量含む(灰色)	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 5Y7/1
523	C－3	平瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	6×7	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜位の黒色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
524	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	10本	布目痕	5×5	ヘラ削り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒あり 風化作用見られる	やや軟	明オリーブ灰 2.5GY7/1	暗黒 N2/0
525	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ		横方向の縄目タタキ・ナデ	5×5	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	やや軟	灰白 10YR7/1	灰白 10YR8/1
526	C－3	丸瓦	ヘラナデ		布目痕	5×5	ヘラ切り ヘラ削り	ヘラ切り	0.5㎜以下の淡黄の砂粒を多く含む	やや軟	淡黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y8/2
527	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	9本	布目痕	5×5	ヘラ切り	ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少量含む(灰)	やや軟	灰黄 2.5Y6/2	灰白 5Y8/1
528	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	11本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の灰・乳白・黒の砂粒を多く含む	良	灰白 2.5Y7/1	浅黄 5Y7/3
529	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り		0.5㎜の黒の砂粒を少量含む	良	明オリーブ灰 2.5GY7/	灰 N4/
530	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ 板状工具ナデ	11本	ナデ	5×5	ヘラ削り	ナデ	0.5㎜以下の砂粒が含まれる	良	灰 N5/0	灰 N4/0
531	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ		布目痕	5×5	ヘラ切り	ナデ	0.5㎜以下の茶の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 N7/1	灰白 N8/1
532	C－3	丸瓦	横・斜方向の縄目タタキ	10本	ナデ	5×5	ヘラ切り		0.5㎜以下の黒の砂粒が少量含まれる	やや軟	灰白 N7/	灰白 7.5Y8/1
533	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒が含まれる	やや軟	灰 7.5Y4/1	灰黄 2.5Y7/2

表16 遺物観察表〈瓦〉⑤　※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
534	C－3	丸瓦	ナデ		布目痕	5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	1.5㎜位の灰・灰白と2㎜位の茶褐色の粒を少量含む	良	灰白 5Y7/1	灰 7.5Y6/1
535	C－3	丸瓦	横方向に縄目タタキ・ナデ		布目痕	5×6	ヘラ切り	ナデ	0.5㎜以下の茶の砂粒を少量含む	良	灰白 5Y7/1	浅黄 5Y7/3
536	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	14×15	ヘラ切り		0.5～1㎜程の灰・乳白の粒を含む	良	灰白 7.5Y7/1	灰 10Y6/1
537	C－3	丸瓦	横・斜方向の縄目タタキ	8本	布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1
538	C－3	丸瓦	ナデ		布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰白 2.5Y8/2	暗灰黄 2.5Y5/2
539	C－3	丸瓦	平行タタキ ナデ		布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰 10Y6/1	灰黄 2.5Y7/2
540	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	12本	布目痕	7×8	ヘラ切り			良	灰白 7.5Y7/1	灰 5Y6/1
541	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ	13本	布目痕 ナデ	7×6	ヘラ切り後縦方向ナデ	ヘラ切り後横方向ナデ	1㎜以下の灰の粒を少し含む	良	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1
542	C－3	丸瓦	縦・横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	6×5	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜位の黒色の砂粒を少量含む	良	灰白 N7/	灰白 N7/
543	C－3	丸瓦	ナデ		布目痕		ヘラ切り ヘラ削り	ヘラ切り	1～1.5㎜位の灰・灰色の粒を含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
544	C－3	丸瓦	ナデ		布目痕・縦方向の縄目タタキ	6×6	ヘラ削り		0.5㎜以下の粒を含み黒光りする砂粒が見られる	良	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR7/2
545	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕		ヘラ切り		0.5～1㎜位の灰白・灰乳白の粒を含む	やや軟	淡黄 2.5Y8/4	灰白 2.5Y8/1
546	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	4本	布目痕 ナデ		ヘラ切り 手で割った痕	ナデ	1㎜以下の灰の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y7/1
547	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	5本	平行タタキ 布目痕	5×5	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラ切り	2㎜の茶・灰白の礫1㎜の灰・灰白の粗砂1㎜の砂粒	良	灰 10Y5/1	灰白 7.5Y7/2
548	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕	7×7	ヘラ切り ヘラ削り		1.5～2㎜の灰白・灰の粒を含む	やや軟	灰白 7.5Y7/2	灰白 7.5Y7/1
549	C－3	熨斗瓦	ナデ		横方向の縄目タタキ	9本	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	やや軟	灰白 5Y8/2	灰白 5Y8/2
550	C－3	熨斗瓦	平行タタキ	5本	布目痕	6×6	ヘラ切り		0.5㎜以下の灰の砂粒を多くと1㎜の白・黒の砂粒少量	良	灰 7.5Y6/1	灰白 7.5Y7/1
551	C－3	熨斗瓦	平行タタキ	6本	布目痕	6×6	ヘラ切り		1㎜位の灰・灰白の粒を含む	良	灰 7.5Y6/1	灰白 7.5Y6/1
552	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	6×6	ヘラ切り後手で切断 ヘラ削り		0.5㎜以下の細砂を含む	良	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1
553	C－3	熨斗瓦	平行タタキ	4本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜位の白・黒の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 10YR8/1	灰白 2.5Y8/2
554	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	7本	布目痕	6×6	ヘラ切り	ナデ	0.5㎜以下の砂粒を少量含む(灰白)	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
555	C－3	熨斗瓦	縦・横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	6×5	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラのような工具痕	3㎜位の灰白・黒の粒と1㎜以下の黒・灰白・白の砂粒	良	灰白 5Y8/2	灰白 2.5GY8/1
556	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕	8×7	ヘラ切り	ヘラ削り	0.5㎜の褐色の砂粒を少量含む	良	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1
557	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ		ヘラ切り 手で割った痕		1㎜位の灰・灰白の粒と0.5㎜以下の乳白・灰白の砂粒	やや軟	淡黄 5Y8/3	灰白 5Y8/2
558	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	11本	横方向の縄目タタキ・布目痕	6×6 10本	ヘラ切り 手で割った痕	ナデ	0.5㎜以下の細砂を含む	やや軟	明黄褐 2.5Y6/6	淡黄 5Y8/3
559	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	12本	布目痕 ナデ	7×7	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰白 10YR8/1
560	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	7×7	ヘラ切り 手で割った痕		0.5㎜以下の茶色の砂粒を少量含む	良	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1
561	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラ切り	0.5㎜位の褐色の砂粒を含む	良	灰白 5Y8/2	灰 7.5Y6/1
562	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕 板ナデ		ヘラ切り・ヘラ削り 手で割った痕	ヘラ切り	1㎜位の黒褐色の砂粒を少量含む	良	灰白 2.5GY8/1	灰白 10Y7/1
563	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	9本	横方向の縄目タタキ・布目痕	10本 5×5	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の細砂を少量含む	軟	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y7/1
564	C－3	熨斗瓦	縦方向の縄目タタキ	10本	布目痕		ヘラ切り		1～1.5㎜位の灰・灰白の粒を含む	やや軟	灰白 5Y7/2	灰白 5Y8/2
565	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ	7×7	ヘラ切り		1㎜位の灰白の粒を少量含む	やや軟	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/2
566	C－3	熨斗瓦	縦・斜方向の縄目タタキ	9本	横方向の縄目タタキ・布目痕	9本 6×6	手で割った痕	ヘラ切り	0.5㎜以下の灰白の砂粒を少量含む	良	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y8/2

表17 遺物観察表〈瓦〉⑥　※ 本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
567	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	9本	横方向の縄目タタキ・布目痕	9本 5×5	ヘラ切り 手で割った痕		3～4㎜の礫を3個、0.5㎜以下の細砂粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/1	灰黄 2.5Y7/2
568	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ	8×5	ヘラ切り 面取り		1.5㎜位の灰白・黒を少量 1㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1
569	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ・ナデ	9本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り	ヘラ切り			明褐灰 7.5YR7/1	灰白 5Y7/1
570	C－3	熨斗瓦	格子目タタキ・ナデ 横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ		凹面面取り痕縦方向ナデ	ヘラ切り	1㎜以下の砂粒と黒色を少量含む	良	灰 5Y5/1	灰オリーブ 5Y6/2
571	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	11本	布目痕 ナデ	5×5	ヘラ切り		1㎜位の灰の粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y8/2	灰白 5Y8/2
572	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	10本	横方向の縄目タタキ	9本	ヘラ切り		0.5㎜以下の細砂を少量含む(灰・茶)	良	灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1
573	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ	10本	布目痕	8×7	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の白の砂粒を少量含む	良	灰 N6/	灰 7.5Y5/1
574	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	横方向の縄目タタキ・布目痕	10本 6×6	ヘラ切り 手で割った痕		0.5㎜以下の灰の砂粒を多く含む	良	灰 N6/	灰 7.5Y6/1
575	C－3	熨斗瓦	縦・斜方向の縄目タタキ	9本	横方向の縄目タタキ・布目痕	8本 5×6	ヘラ切り	ヘラ切り	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	褐灰 10YR4/1	にぶい黄橙 10YR7/3
576	C－3	熨斗瓦	平行叩き		布目痕	6×5	ヘラ削り		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	浅黄 2.5Y7/3	灰黄 2.5Y6/2
577	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	8本	ナデ		ヘラ切り	ナデ？	2㎜以下の細砂を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2
578	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	6本	布目痕	6×6	ヘラ切り・ヘラ削り 手で割った痕		0.5～4㎜位の褐色の砂粒を少量含む	やや軟	淡黄 5Y8/3	灰白 5Y8/2
579	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	9本	板状工具によるナデ		ヘラ切り後横ナデ 手で割った痕		1㎜以下の砂粒と黒石・塊状の褐鉄鉱を多量に含む	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4
580	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ・ナデ	8本	横方向の縄目タタキ・ナデ	8本	ヘラ切り 面取り	ナデ	1㎜位の粗砂を少量含む(灰)	やや軟	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/2
581	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	11本	布目痕	9×8	ヘラ切り	ヘラ切り		良	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/2
582	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	8本	横方向の縄目タタキ・布目痕	8×8	ヘラ切り		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1
583	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ	8本	横方向の縄目タタキ・布目痕	8本 6×5	ヘラ切り 面取り		0.5㎜位の灰・乳白・灰白の粒を含む	やや軟	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/1
584	C－3	熨斗瓦	平行タタキ ナデ		布目痕 板ナデ	5×5	ヘラ切り・工具痕 手で割った痕	ヘラ切り	0.5㎜以下の灰色の砂粒を少量含む	良	暗灰 N3/	灰 N4/
585	C－3	丸瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	12本	布目痕	4×6		ヘラ切り後不定方向ナデ	1㎜以下の砂粒と黒石が少量含まれる	良	灰 7.5YR6/1	灰白 10YR7/1
586	C－3	熨斗瓦	板状工具によるナデ		布目痕 板ナデ	4×5	ヘラ削り	ナデ	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰白 N7/1	灰白 N7/1
587	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ ナデ	9本	横方向の縄目タタキ	9本	ヘラ切り 割った痕	ヘラ切り	1㎜位の黒褐色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y7/2	灰白 5Y8/1
588	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ ナデ	8本	布目痕 ナデ	8×8	ヘラ切り		2㎜以下の砂粒を少量含む(灰)	やや軟	灰黄 2.5Y6/2	灰白 2.5Y8/1
589	C－3	熨斗瓦	平行タタキ		横方向の縄目タタキ・布目痕	11本 6×6	凹面面取り痕縦方向ナデ	ヘラ切り後横方向ナデ	1㎜以下の砂粒と黒石が多量に含まれる	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	灰白 7.5YR8/2
590	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	12本	布目痕 ナデ	5×8	ヘラ切り	ヘラ削り	0.5㎜以下の砂粒を含む	良	暗赤灰 10R4/1	赤灰 10R6/1
591	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	9本	布目痕	7×7	ヘラ切り ヘラ削り		0.5㎜の白・黒の砂粒を少量含む	やや軟	灰 N6/	灰 7.5Y6/1
592	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	6×7	ヘラ切り 面取り	ヘラ切り	1㎜位の粒と2㎜の粒1個と灰・乳白砂粒を多く含む	良	灰白 10Y7/1	灰 7.5Y6/1
593	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	9本	布目痕 ナデ	8×8	ヘラ切り後縦方向ナデ		1㎜以下の砂粒と黒石を少量含む	良	灰 7.5YR6/1	灰白 10YR7/1
594	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ・ナデ	7本	横方向の縄目タタキ・布目痕	7本 6×7	ヘラ切り後横ナデ、斜方向タタキの上から横ナデ	ヘラ切り後横ナデ	1㎜以下の砂粒と黒石を多量に含む	やや軟	灰黄褐 10YR4/2	褐灰 10YR4/1
595	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	8×8	ヘラ切り		0.5㎜以下の粗砂を少量含む(黒)	やや軟	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2
596	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	13本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ削り		0.5㎜以下の細砂を含む	良	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR7/3
597	C－3	熨斗瓦	平行タタキ・横方向の縄目タタキ	9本	布目痕 板ナデ	7×7	ヘラ切り 手で割った痕	ヘラ削り	2㎜以下の砂粒を少量含む(灰・白)	やや軟	灰白 5Y7/1	灰 5Y6/1
598	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	5×5	ヘラ削り		1㎜位の白・黒の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1
599	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	8本	横方向の縄目タタキ	11本	ヘラ切り		1㎜位の白・黒の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1
600	C－3	熨斗瓦	縦・横方向の縄目タタキ	9本	布目痕	7×6	ヘラ切り 手で割った痕		0.5㎜以下の砂粒を含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1

表18 遺物観察表〈瓦〉⑦　※本書掲載資料

番号	出土区	種類	外面調整	縄目条数	内面調整	布目条数	側面調整	端面調整	胎土	焼成	色調 外面	色調 内面
601	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ	9本	布目痕	10×8	ヘラ切り 手で割った痕		0.5㎜以下の砂粒を少量含む	良	灰 7.5Y6/1	灰オリーブ 7.5Y6/2
602	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ・ナデ	10本	布目痕		ヘラ切り ナデ		1.5㎜位の乳白の粒と0.5㎜以下の砂粒を多く含む	やや軟	灰白 5Y7/1	灰白 5Y8/1
603	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	8本	布目痕 ナデ	7×6	ヘラ切り後手で切断　ヘラ削り	ナデ	5㎜以下の砂粒を多く含む	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1
604	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ	10本	布目痕 ナデ	8×7	ヘラ切り		0.5～1㎜位の灰・灰白の粒を少量含む	やや軟	灰白 2.5Y7/1	淡黄 2.5Y8/3
605	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ・ナデ	8本	横方向の縄目タタキ	8本	ヘラ切り	ヘラ切り	1.5㎜位の灰白の粒を少量含む	軟	灰白 2.5Y8/1	灰黄 2.5Y7/2
606	C－3	熨斗瓦	横・斜方向の縄目タタキ　ナデ	9本	布目痕 ナデ	7×7	ヘラ切り ヘラ削り		1㎜位の白の砂粒を少量含む	良	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1
607	C－3	熨斗瓦	横方向の縄目タタキ	9本	横方向の縄目タタキ・布目痕	9本 6×6	ヘラ切り	ヘラ切り	1㎜の褐色の砂粒を少量含む	やや軟	灰白 7.5Y8/1	灰 N6/
608	C－3	熨斗瓦	斜方向の縄目タタキ・ナデ	9本	布目痕 ナデ	6×6	ヘラ切り後手で切断　ヘラ削り		0.5㎜以下の砂粒を多く含む(鉄分を含む)	良	灰白 N8/0	灰 N6/0

第Ⅳ章　考　察

下村窯跡の須恵器編年

下村窯跡で出土した須恵器は、椀、坏、長胴壺の3種が多勢を占め、他に甕、短頸壺、蓋（椀・坏・短頸壺）、皿、高坏、鉢、水滴などがある。本章では、下村窯跡の操業年代検討のため、型式設定による編年案の作成を行う。なお、ここで提示する編年案は本書独自のものであり、前報文〈基礎資料編〉（木村編 1996）中に提示された編年案や年代観と整合させたものではないことをお断りしておきたい。

（1）　型式の設定

一定量の出土している椀、坏、蓋、甕、長胴壺、短頸壺の6器種において、属性分析により群設定を行った（表19～24）。各群の様相・詳細について、以下に述べる。

椀、坏については、断面形状（椀：坏部断面、坏：全体断面）が分類の大きな指標となる。椀1～3類と坏1～3類については内面における体部（口縁部）と底部の境が明瞭で、断面形はくの字状を呈するが、椀4類及び坏4～6類については内面における境が不明瞭で、該当箇所の器厚が厚く、断面三角形状を呈する。また椀は高台貼り付け位置が坏部底面の内側と外側の別、高台の長短（高低）の別がある。坏底部の別については、特記すべきものとして円盤状の底部を持つものと、円柱状の底部を持つものがある。円盤状の底部は、文字通り平たい円盤状の底部の上に体部が成形されているもので、この底部が、大きく外側に張り出したものを指す。円柱状の底部は、「円盤高台」、「充実した底部」などとも表現され、南九州特有の形態として認識されている（中島・城戸 1994、岡本 1995）。

蓋については、坏・椀に用いられるものと、短頸壺に用いられるものの2種があるが、短頸壺蓋は分類可能な一定量が出土していないため、今回は分析の俎上に上げない。蓋は天井部から口縁端部まで断面形が緩やかな弧を描く、やや丸味を帯びた1類（全体断面弧状）と、天井部が弧を描きながらも口縁端部近くにおいて水平に近くなる2類（全体断面翼状）、天井部と口縁部の別が明瞭な低台形状の3類がある。1類と2類は頂部に宝珠つまみを持ち、3類は輪状のつまみを持つものもあるが、基本的につまみは持たない。この3種は、口縁端部の形状にも別があり、3類は直口であるが、1・2類はかえりの名残を持つ。また1類の端部は丸味を帯び（口縁端部丸垂下）、2類の端部はやや尖り気味（口縁端部尖垂下）である。

甕は二重口縁の退化した名残を留める1類（擬二重口縁）と、直口の2・3類（単口縁）の2種に大別され、更に口縁部と肩部の境が明瞭で、内面に稜が明瞭に入る2類（頸部断面くの字）と、口縁部と肩部が一連のものとなり、内面稜が不明瞭になる3類（頸部断面C字）に分けられる。また3類の胴部内面には、車輪状当て具痕が残る。

南九州に偏重し、下村窯を代表する器種となっている長胴壺は、二重口縁の形状において、第1口縁と第2口縁の別が明瞭な1類と、別が不明瞭になる2類、一連のものとなる3類に分けられる。また甕と同じく頸部の形状により、口縁部、頸部、肩部の作り分けが明瞭な1類（頸部断面コの字）と、境が不明瞭となる2・3類（頸部断面C字）に大別される。また、1類はわずかではあるが胴部がやや丸味を帯び（胴部下半弧状）、3類は直線的である。

表19　椀の属性と分類

椀	坏部形状			器高		高台位置		高台長		坏部断面	
	丸台形	三角形	半円形	低	高	内側	外側	短	長	くの字	肥厚
1類	■			■		■		■		■	
2類		■		■			■	■		■	
3類		■			■		■		■	■	
4類		■			■		■		■		■

表20　坏の属性と分類

坏	全体形状		全体断面		器高		底部		
	丸台形	三角形	くの字	三角状	低	高	普通	円盤底	円柱状
1類	■		■		■		■		
2類		■	■		■		■		
3類		■	■		■			■	
4類		■		■		■	■		
5類		■		■		■		■	
6類		■		■		■			■

表21　蓋の属性と分類

蓋	全体断面			口縁端部			つまみ	
	弧状	翼状	低台形	丸垂下	尖垂下	直口	宝珠	無
1類	■			■			■	
2類		■			■		■	
3類			■			■		■

表22　甕の属性と分類

甕	口縁長		口縁断面		頸部断面		外面叩き		内面当具	
	長	短	擬二重	単口縁	くの字	C字	平行	格子目	同心円	車輪状
1類		■	■		■		■			
2類	■			■	■		■			
3類		■		■		■		■		■

表23　長胴壺の属性と分類

長胴壺	胴部下半		頸部断面		第1・2口縁境		
	弧状	直線的	コの字	C字	明瞭	不明瞭	同化
1類	■		■		■		
2類	■	■		■		■	
3類		■		■			■

表24　短頸壺の属性と分類

短頸壺	全体形状			法量		口縁長		口縁器厚		頸内面稜	
	算盤玉	丸	長胴	小	大	長	短	薄	厚	明瞭	不明瞭
1類	■			■		■		■		■	
2類		■		■			■		■		■
3類			■		■		■		■		■

表25　各型式の出土地区（※数字は報告書掲載番号に対応）

		A地区	B地区	C地区	D地区	E地区
椀	1類	1～5・7・12・13	40～45			
	2類	6・8・9	46・49			
	3類	15・16		141・142(6層), 155～157(9層), 321～329		
	4類			98～111(1層), 112～121・132・133(3層), 135～137(4層), 330～338		
坏	1類	21・23	56			
	2類	22	58	147～152(9層)		
	3類	20		144(8層), 145・146(7層)		
	4類		57	87～95・122～126・128(3層), 138～140(6層)		
	5類	19	55			378・379
	6類		319			315・316・372・373・375・376
蓋	1類	25・27・379	80～84			
	2類	24・26・318	75～79			
	3類	28		130・131（3層）, 178～181(4層), 182・183(10層), 184(9層)		
甕	1類	36	66			
	2類		62～64・69～71			
	3類	30・31・35・37		235・236・239・240・242・243(1層), 241・244～246・251・252・254～256(3層)・258(4層), 260～269(6層), 270(7層), 271～275(8層), 276～285(9層), 289・291・292	298～302・304～307	
長胴壺	1類			204(6層), 207・210（8層）, 220・223・224・226（9層）, 227（C区10層）, 342～345	314・363	
	2類			185(1層), 188～193(3層), 198・200(4層), 202・203(6層), 206(7層), 209～210(8層), 216～219・221・222(9層), 346～357	309・310・364～370	
	3類			187・234(1層), 358～361	308・311・313	
短頸壺	1類		72			
	2類	38				
	3類			213(10層), 214・215(9層), 339		

短頸壺も明瞭な形態的別があり、出土量は少ないものの分類が可能であった。最も顕著なのは法量の別であり、全体の形状が扁平な球形の1・2類と、長胴で大型の3類に大別される。また1類と2類は、甕や長胴壺と同じく、頸部内面における稜の有無で分けられる。

以上、椀4群、坏6群、蓋4群、甕3群、長胴壺3群、短頸壺3群にそれぞれ分類したが、型式的な変遷としては、製作工程の省略化、粗雑化という普遍的な変異の方向性により、各器種ともに1類→2類→3類……、という流れになると予想される。層毎の取り上げが成されているC地区出土資料で検証すると（表25)、複数型式が出土している椀（3類：6・9層、4類：1～4層)、坏（2類：9層、3類：7・8層、坏4類：3・6層)、長胴壺（1類：6～10層、2類：1～9層、3類：1層）の3器種において、下層から上層への時間的変移に齟齬はない。

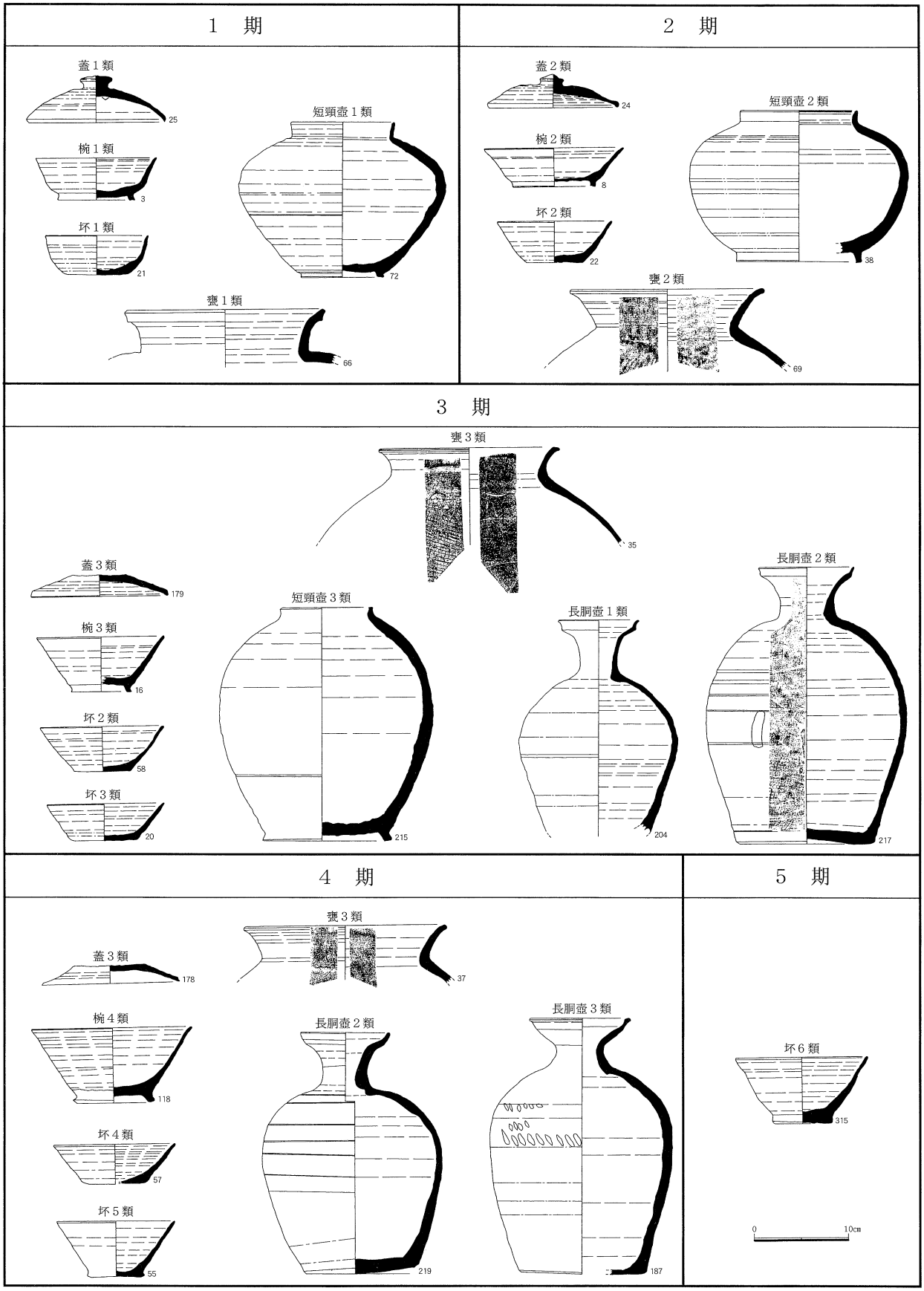
（2） 時期の設定

次に各器種、各群の同時性、共伴関係であるが、同じくC地区出土資料が有効である。詳細については表25を参照していただきたいが、型式の変遷は漸移的で、それぞれの器種、型式において、複雑な重複関係にある。そこで、多種に分類が可能であった、即ち、時間的変移を最も鋭敏に表出していると考えられる椀と坏を見ると、C地区における遺物相は、大きくは7～10層における椀3類と坏2・3類、1～4層における椀4類と坏4類の2相に分けられる。この2相を便宜的にC地区下層（7～10層)、C地区上層（1～4 層）と呼称しておく。椀、坏以外の器種について見ると、蓋、甕は上層、下層ともに蓋4類、甕3類で、短頸壺は下層のみに3類が、長胴壺は下層に1・2類、上層に2・3類が伴う。長胴壺は、中間型式の2類が上層、下層両方にまたがり、各層において複数型式の重複が認められるが、下層において、同じく複数型式の認められる坏の変遷と対応しており、上層、下層をそれぞれにおいて更に二分する指標となりそうである。また短頸壺は出土量が少ないため、多少確実性に欠けるが、下層前半（9・10層）のみに伴うようである。

以上よりC地区出土資料は、椀3類の下層、椀4類と坏4類の上層に二分され、さらに坏2類、長胴壺1類、短頸壺3類の下層前半（9・10層)、坏3類、長胴壺2類の下層後半（7・8層)、長胴壺2類の上層前半（3・4層)、長胴壺3類の上層後半（1層）という4相に分けられる。また蓋3類、甕3類が通時的に伴う。上層後半において、坏を除き、各器種の最後の段階にあると思われる型式が出揃い、また椀においてはC地区で型式群の後半にあたる3・4類が出土しているため、このC地区の様相が、下村窯の変遷における後半段階の様相を表出したものと考えられる。

C地区以外の状況を見ると、A地区では坏5類が、B地区では坏5類と6類が出土している。A地区の坏5類は甕3類と蓋3類（椀3・4類に並行）に、B地区の坏5・6類は長胴壺3類（椀4類並行）に伴うと思われ、更に、坏5類→坏6類という時間的変遷に間違いがなければ、坏5類は椀3類に、坏6類は椀4類に並行するものである可能性が高い。この場合、C地区での検討結果より、坏5類は坏3類に、坏6類は坏4類に並行するということになり、坏2類より派生した円柱状底部と普通底という二つの系統が並存したと理解できる。

またA地区においては椀1～3類と坏1～3・5類、甕1・3類、短頸壺2類が、B地区においては椀1・2類と坏1・2・5・6類、甕1・2類、短頸壺1類が出土している。うち坏については、先の検討により、2～6類と椀3・4類との共伴関係がわかっている。残る坏1類については、形態的類似性より、椀1類との同時性は間違いあるまい。また同様の理由で、坏2類と椀2類が共伴することも間違いな



第45図　下村窯跡出土須恵器編年図（scale：1/6）

※数字は報告書掲載番号

いと思われ、C地区での検討結果を併せ、坏2類は椀3類の前半段階まで残ると理解できる。

蓋については、C地区での検討により、3類と椀3・4類との共伴が判明している。残る1～3類については、下村窯の開始期に、椀、坏が蓋とのセット関係無しで生産されたとは考え難いため、蓋の初期型式である1類を椀、坏の1類と同時と考えたい。また、つまみを持つ蓋3類とつまみを持たない蓋4類は、それぞれ蓋2類から系統を異にして派生したものと考えられるため、蓋3類を蓋4類と同じく椀3・4類並行に、残る蓋2類を椀2類並行と位置付ける。

甕は、A地区とB地区での様相が鍵となる。この両地区では、椀4類段階のものは皆無であり、椀3段階にしても椀、坏、蓋に数点があるのみである。即ち、A地区とB地区においては、椀2類段階まででほぼ生産を終了していたと理解できる。両地区において長胴壺の出土が皆無であることも、場所による器種の作り分けというよりも、長胴壺の生産が行われた椀3・4類段階には、操業が終了していたと捉えるべきであろう。しかしその中でA地区における甕3類の出土は4点と比較的多い。C地区での検討により、甕3類は椀3･4類に伴うことがわかっているが、A地区でも出土していることは、椀3・4類段階に留まらず、それ以前から甕3類が生産されていた可能性を示す。よって、不確実性が高いものの、甕3類を椀2～4類並行に、甕1・2類を椀1類並行に位置付けておきたい。

短頸壺については、A地区で2類が1点、B地区で1類が1点出土している。ともに両地区で生産の行われた椀1・2類段階のものではあるが、資料数が少なく、それぞれがどちらの段階に位置付けられるかを考察するに足るものがない。甕同様、便宜的に短頸壺1類を椀1類並行、短頸壺2類を椀2類並行に位置付けておきたい。

なお、円盤状、円柱状の底部を持つ坏5・6類については、坏部形態の類似性より、坏5類は椀4類に並行し、坏6類はやや体部が丸味を帯びていることから、椀4類、坏5類にやや後出するものと思われる。

以上に検討して来た各器種、各群の並行関係をまとめたのが第45図である。下村窯の須恵器は大きくは5つの時期に分けられ、それぞれを下村1～5期と呼称する。

（3） 実年代の比定

各期の実年代については、下村窯跡の出土遺物は須恵器と瓦以外になく、出土遺物そのものからの比定は出来ない。そこで周辺地域の様相と比較すると、下村1期の椀と蓋の様相は、牛頸窯跡群における8世紀中頃の様相に類似する。また下村2期の蓋の形態は8世紀後半段階の陶邑窯跡群（中村Ⅳ－3・4期）や、トギバ窯跡の8世紀後葉（トギバⅠ期）の様相に類似する。下村3・4期の蓋における落し蓋状の形態や、つまみを持たない低台形状の形態は、牛頸窯跡群では9世紀台に見られる。また下村3･4期の椀における器高の高い三角形状の坏部形態は、中島恒次郎氏による大宰府における椀形式編年の中で、9世紀台のものに類似する（中島1992）。同じく中島氏の論考を参考にすれば、大宰府においては西暦900年前後に坏部が三角形から丸形に移行している。下村窯跡では、椀形式最後の4期段階においても、椀の坏部形態は三角形であり、丸形になる前に生産が終了している。

以上より、下村1期を8世紀中葉、2期を8世紀後葉、3期を9世紀前葉、4期を9世紀中葉、5期を9世紀後葉に比定する。

第Ⅴ章　まとめ

下村窯跡出土の須恵器は、前章に検討した通り、多くは8世紀中葉から9世紀中葉までに位置付けられる。一部、円柱状底部を持つ坏など、これに後出する可能性があるが、下村窯の操業は、9世紀後葉にはおおむね終了していたと見て間違いなかろう。

九州の古代須恵器窯跡についてまとめた石木秀啓氏は、九州では8世紀中頃から後半にかけて新たな生産地の発生や生産の拡大が認められ、9世紀後半から10世紀にかけて、各国ともに生産を終了するとしている（石木 2007）。8世紀中葉に操業を開始し、9世紀後葉に生産を終了する下村窯の消長は、九州全体の動向に合致したものと言える。

宮崎県内では、下村窯跡の他に、延岡市古川窯跡、同苺田窯跡、宮崎市松ヶ迫窯跡の計4ヶ所の古代窯が確認されている。古川窯跡は調査年代が古く、詳細が不明であるが、松ヶ迫窯跡には8世紀中頃～9世紀初頭の実年代が与えられており（今塩屋・秋成 2006）、また苺田窯跡は、出土須恵器から8世紀後葉～9世紀前葉に位置付けられる。ともに比較的短期間の操業であったと考えられるが、その中において下村窯の操業は比較的長期間に及ぶ。

下村窯跡は、直線距離で8～10kmの位置にある日向国衙、国分寺への供給を担った官窯と表現されることが多い。西都市の日向国分寺では、形態、製作技法の両面から見て、本窯跡の製品と思われる瓦が多数出土しており（西都市教育委員会 筌瀬明宏氏教示）、官窯としての性格を持っていたことは間違いない。下村窯跡出土の瓦は、すべて凸面縄目叩きで型式的な差はなく、ほぼ一時期に収まるものと思われる。出土地区別で見ると、C地区に明らかな偏重があるが、当地区出土須恵器の年代は9世紀前葉～中葉におさまるため、本窯跡の瓦にもまた、同様の年代をあてることができる。『続日本紀』より、日向国分寺は、下村窯での瓦生産に先立つ8世紀中葉には成立していたと考えられ、創建時には、下村窯跡以外の窯が瓦の生産・供給を担っていたと理解できる。また、下村窯跡では軒瓦の出土が一点もないことから、より高度な製作技術を要する軒平・軒丸瓦の製作・供給もまた、他の窯が担っていたと考えられる。このことは、下村窯跡が国分寺における瓦生産の一義的な存在ではなかったことを示す。

日向国衙（西都市寺崎遺跡）出土の遺物相を見ると、8世紀代には長頸壺や内面同心円当て具痕の甕など、下村窯跡で生産していない、つまり他の窯の製品と思われるものが目立つ。また下村窯跡において9世紀台に生産が開始され、その後の本窯製品の過半を占めるようになる長胴壺が、該当時期に1点も出土していない。つまりは現在までのところ、国衙出土の土器に、積極的に下村窯跡の製品と評価できるものはなく、下村窯産須恵器の供給先については、国衙より下位レベルの消費地をも視野に入れて検討する必要がある。

日向国分寺に供給するための瓦を生産していたことから、下村窯が官窯としての性格を持っていたことは、改めて言うまでもない。但し、国衙への須恵器製品の供給を積極的には認め難いことや、国分寺瓦の生産において、途上から、しかもその一部での参画に留ま

るなど、国衙、国分寺への供給を一手に担っていた、国専用の窯として機能していたわけではない。むしろ、より下位レベルでの流通を目的として開窯し、後に国レベルの官窯としての性格が加わったものとの印象を受ける。

下村窯跡から日向国分寺へは直線距離で8km、日向国衙（寺崎遺跡）へは9km強あり、供給地としては、必ずしも近距離にあるとは言い難い。9世紀台、国衙・国分寺の拡大、発展に伴い、下村窯跡のような国府周辺地域の陶窯にも、国衙・国分寺への瓦供給という、より直接的な官窯としての性格が付されたものかと推測される。この下村窯跡の瓦陶兼窯への変質は、国府主導による窯業生産の体制再編と捉えることが出来、これに加えられたことが、下村窯跡の操業期間を長期化させた要因かと思われる。今後、国衙、国分寺を含め、消費地出土の須恵器について、下村窯製品の有無を、その供給年代とともに慎重に検討する必要がある。

本書をまとめるにあたり、西都市教育委員会の筌瀬明宏氏や、九州土器研究会の諸氏には貴重な御教示を数多頂きました。文末ではありますが、記して感謝いたします。

【下村窯跡関係報告書】

木村明史編　1991『佐土原町遺跡詳細分布調査報告書』佐土原町文化財調査報告書第5集

長津宗重・木村明史編　1992『下村窯跡概要報告書Ⅰ』佐土原町文化財調査報告書第7集

木村明史編　1993『隠山遺跡概要報告書』佐土原町文化財調査報告書第8集

木村明史編　1996『下村窯跡群報告書〈基礎資料編〉』佐土原町文化財調査報告書第10集

【参考文献】

網田龍生　2001「九州における須恵器製作技法とその転換」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東6 須恵器の製作技法とその転換—』古代の土器研究会 第6回シンポジウム 発表要旨・資料集

石川恒太郎　1968『宮崎県の考古学』吉川弘文館

石木秀啓　2007「牛頸窯跡群と九州の須恵器生産体制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第134集　国立歴史民俗博物館

今塩屋毅行・秋成雅博　2006「松ヶ迫窯跡の再検討」『宮崎考古』第20号　宮崎考古学会

岡本武憲　1990「日向における古代末の土器」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ　日本中世土器研究会

岡本武憲　1995「13. 九州南部」(中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社)

小田富士雄　1983「Ⅰ延岡市苺田窯跡」『宮崎県文化財調査報告書』第26集　宮崎県教育委員会

小田富士雄　1992「日向における須恵器窯跡調査の成果」『宮崎考古』第12号

小田富士雄・下原幸裕編　2007『豊前・トギバ窯跡の調査』福岡大学考古学研究室研究調査報告第5冊　福岡大学人文学部考古学研究室

栗原和彦　2000「大宰府史跡出土の軒平瓦」『九州歴史資料館　研究論集』25　九州歴史資料館

出合宏光　2000「九州南部における平安時代の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』XV　日本中世土器研究会

中島恒次郎　1992「大宰府における椀形態の変遷」『中近世土器の基礎研究』Ⅷ　日本中世土器研究会

中島恒次郎・城戸康利　1994「薩摩国から来た食器」『中近世土器の基礎研究』X　日本中世土器研究会

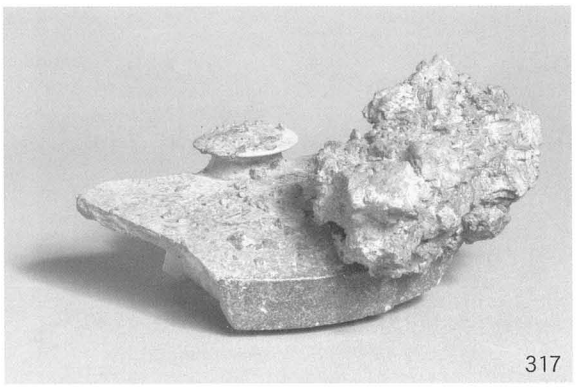
中村　浩　2001『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版

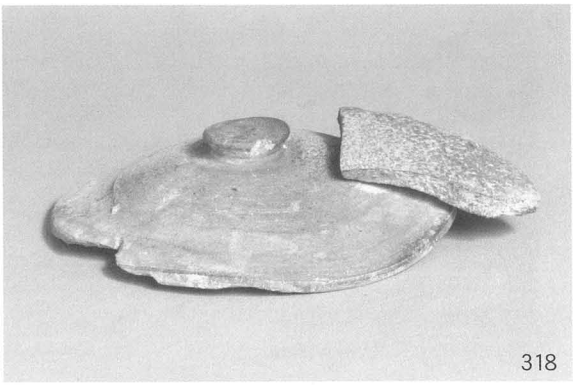
蓑方政幾・筌瀬明宏編　2002『市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅶ』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第31集　宮崎県西都市教育委員会

宮崎県　2001『宮崎県史』通史編 古代2

吉本正典編　2001『寺崎遺跡』国衙保存整備基礎調査報告書　宮崎県教育委員会

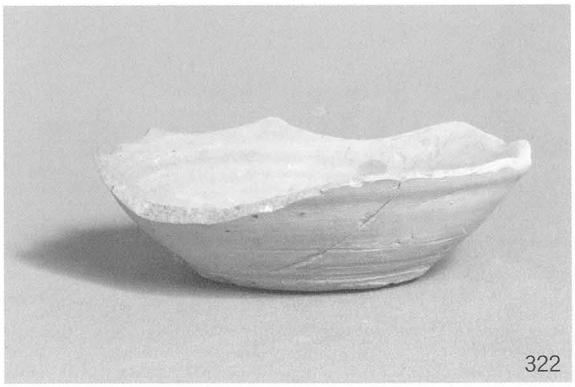
図版１　調査風景

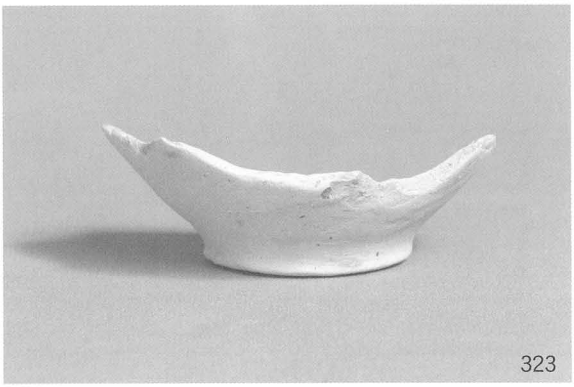

317


318

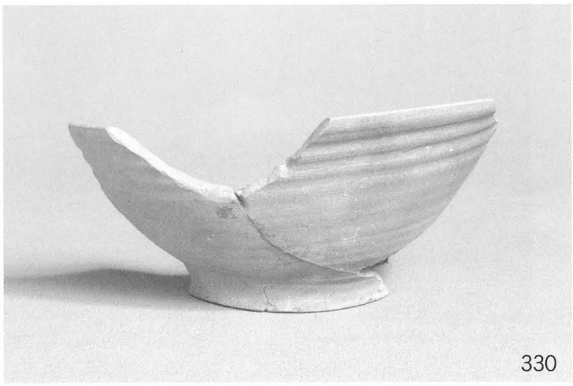
319

320


322


323

325


330

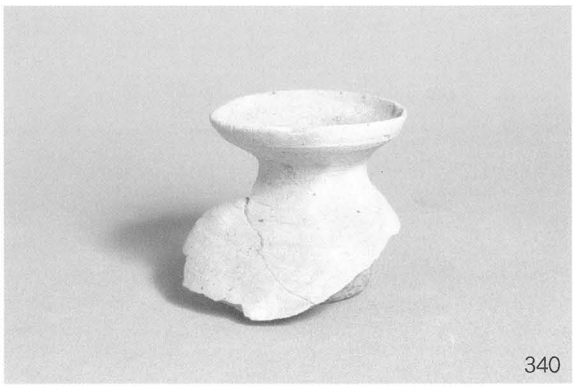
図版２　出土須恵器①

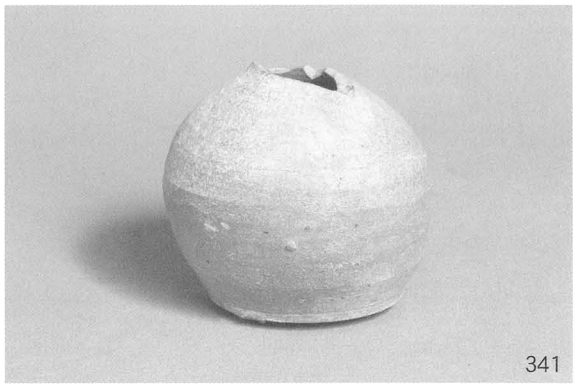
333

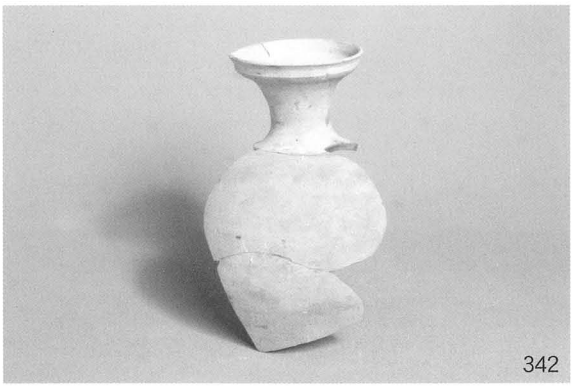
335

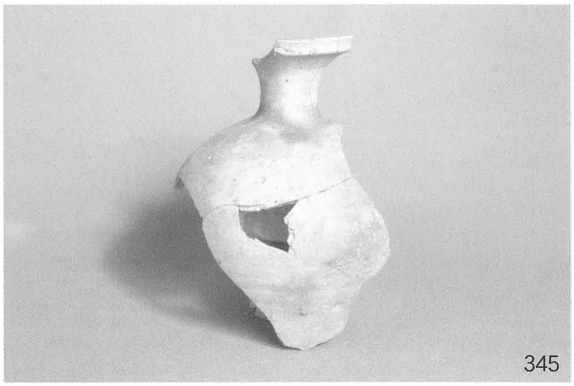
336

338

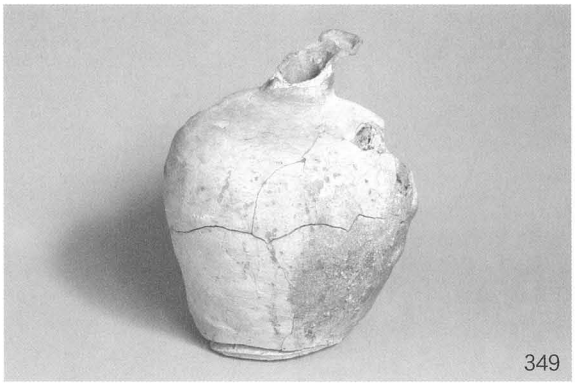

340

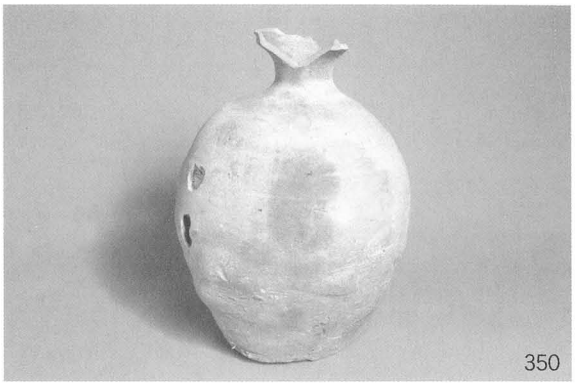

341

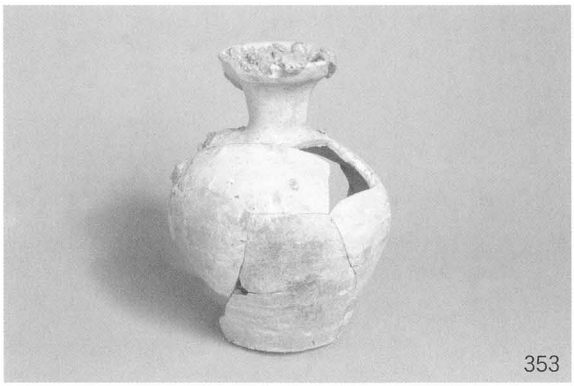

342

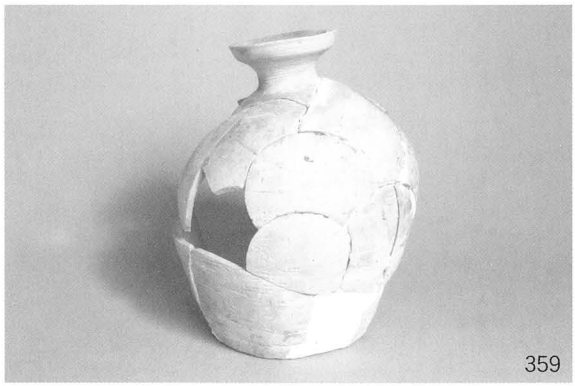

345

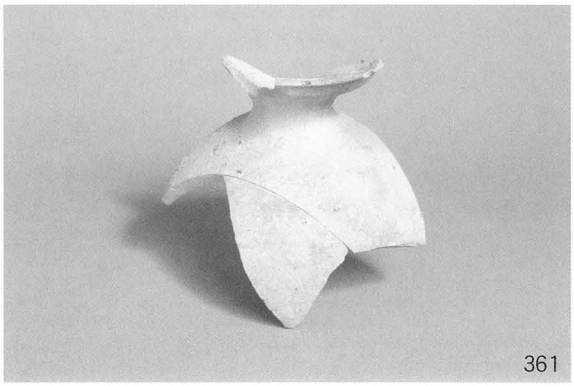
図版３　出土須恵器②



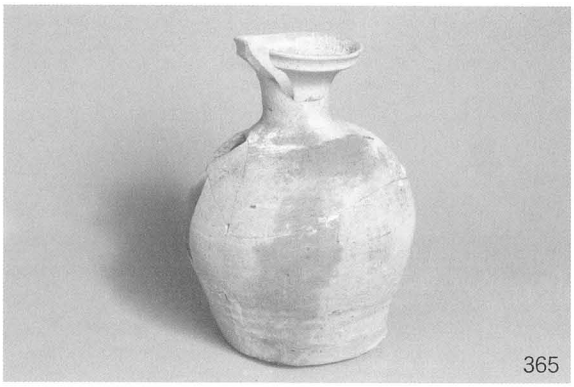


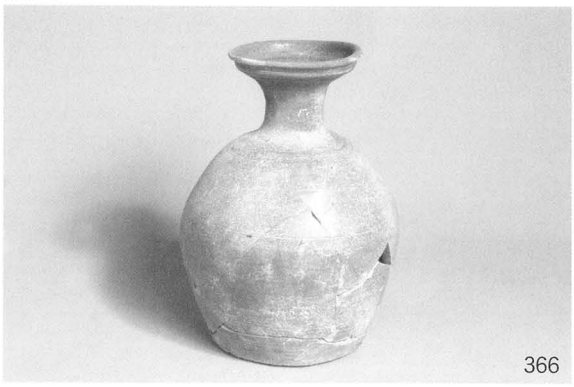


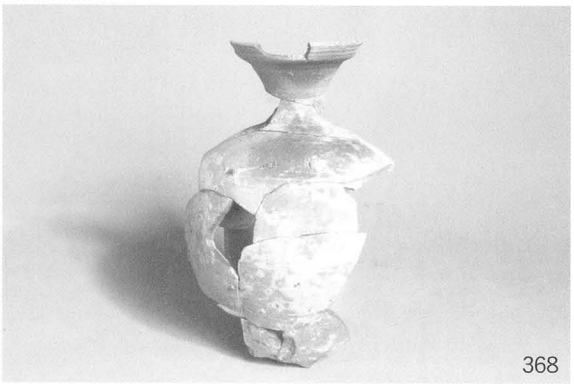


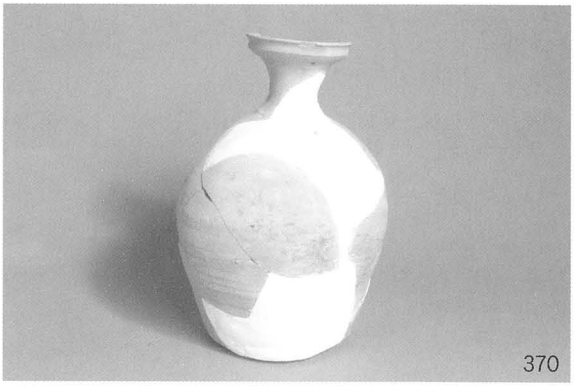


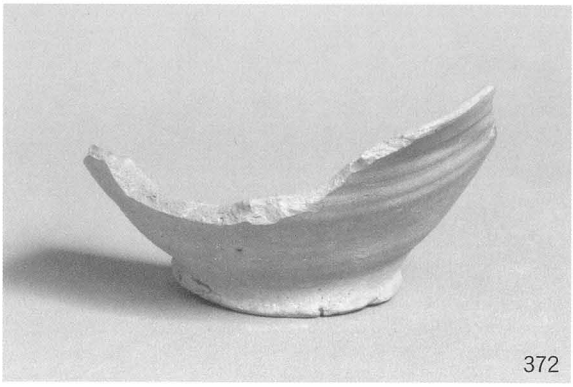
図版４　出土須恵器③

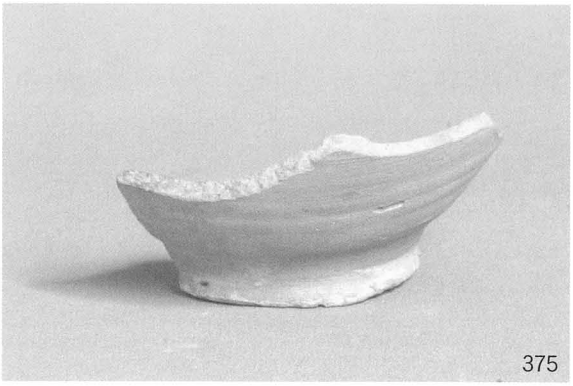




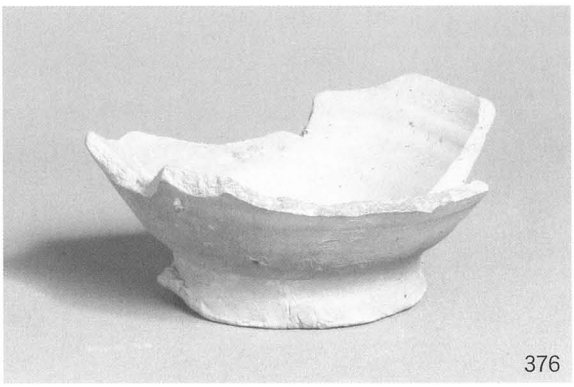


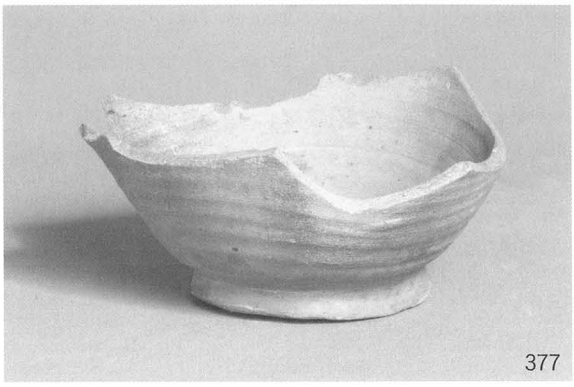


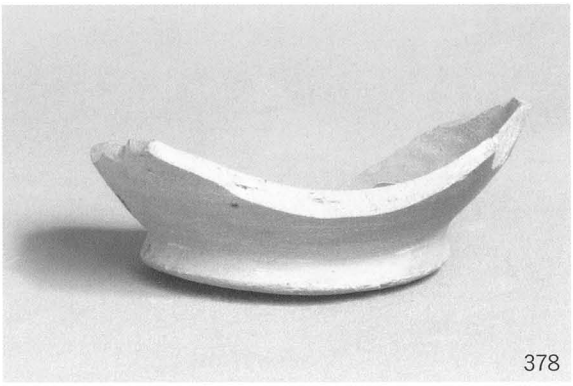


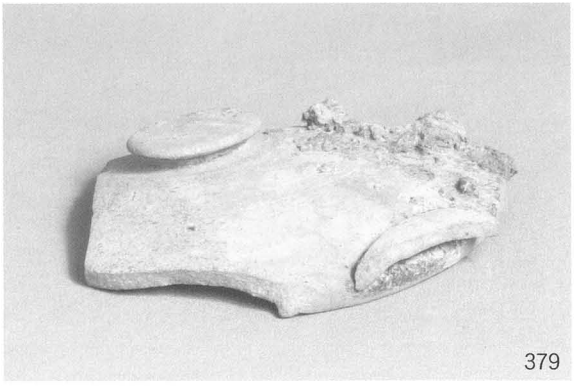


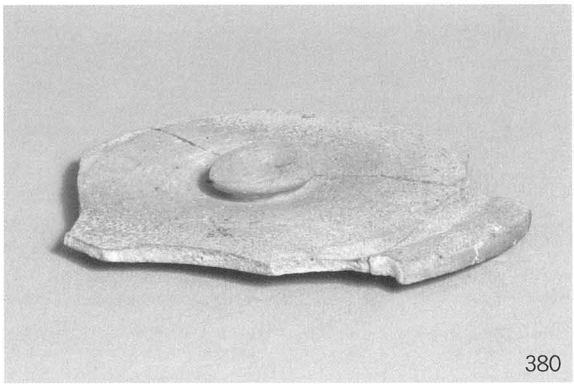
図版５　出土須恵器④

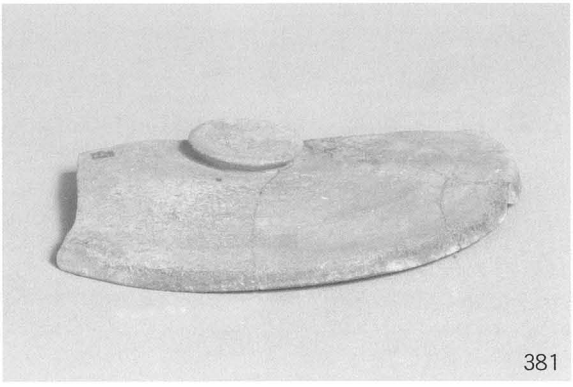


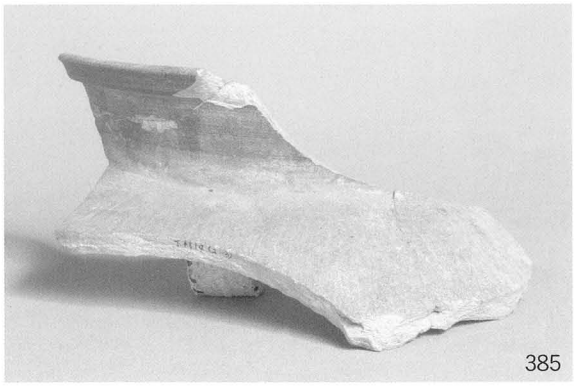


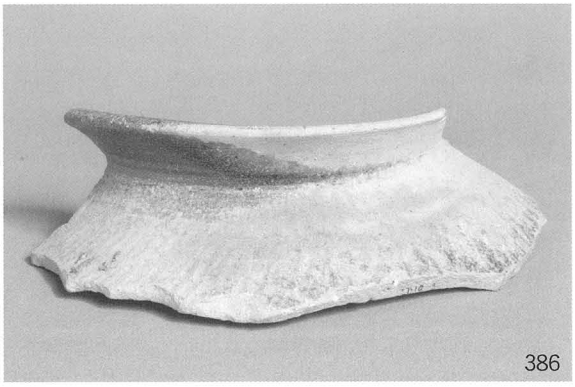




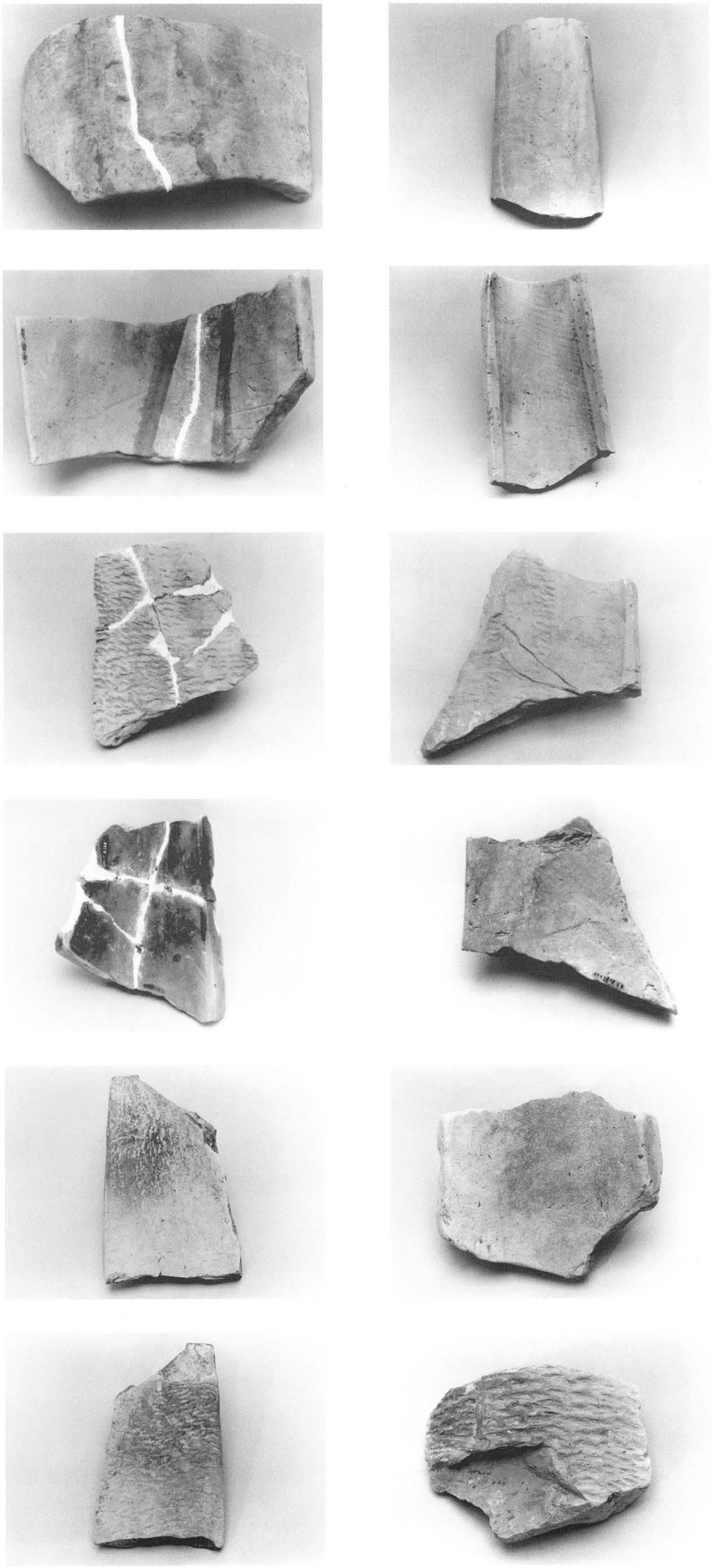




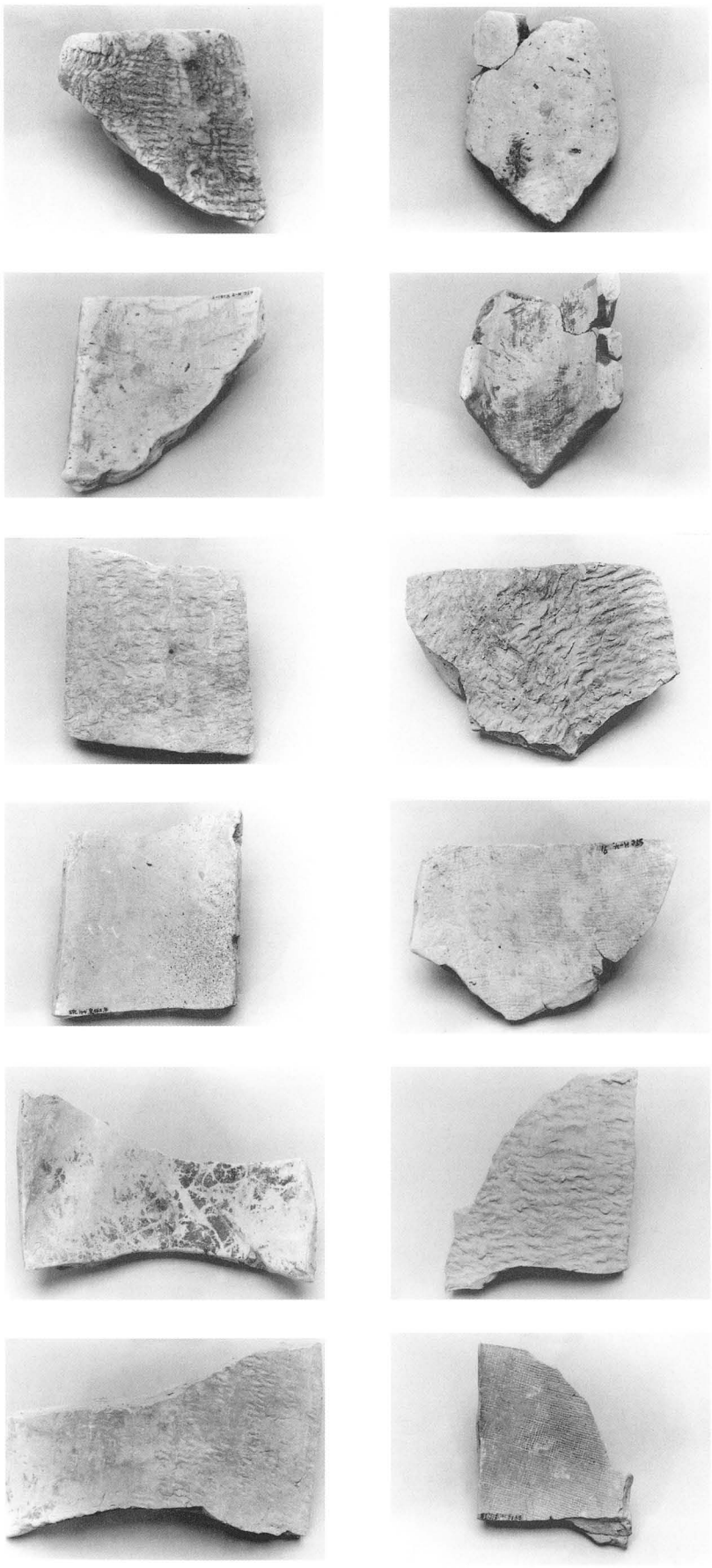




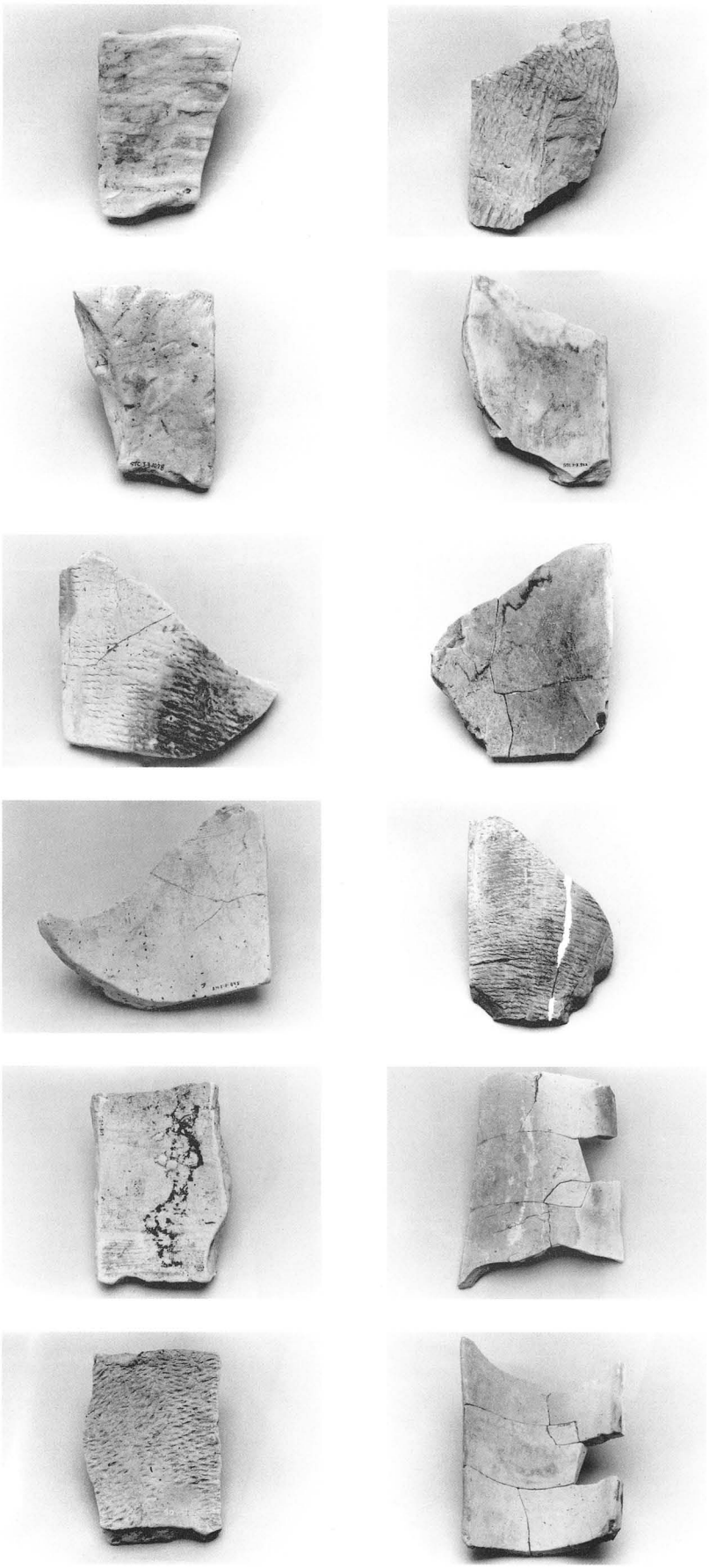
図版 6　出土須恵器⑤



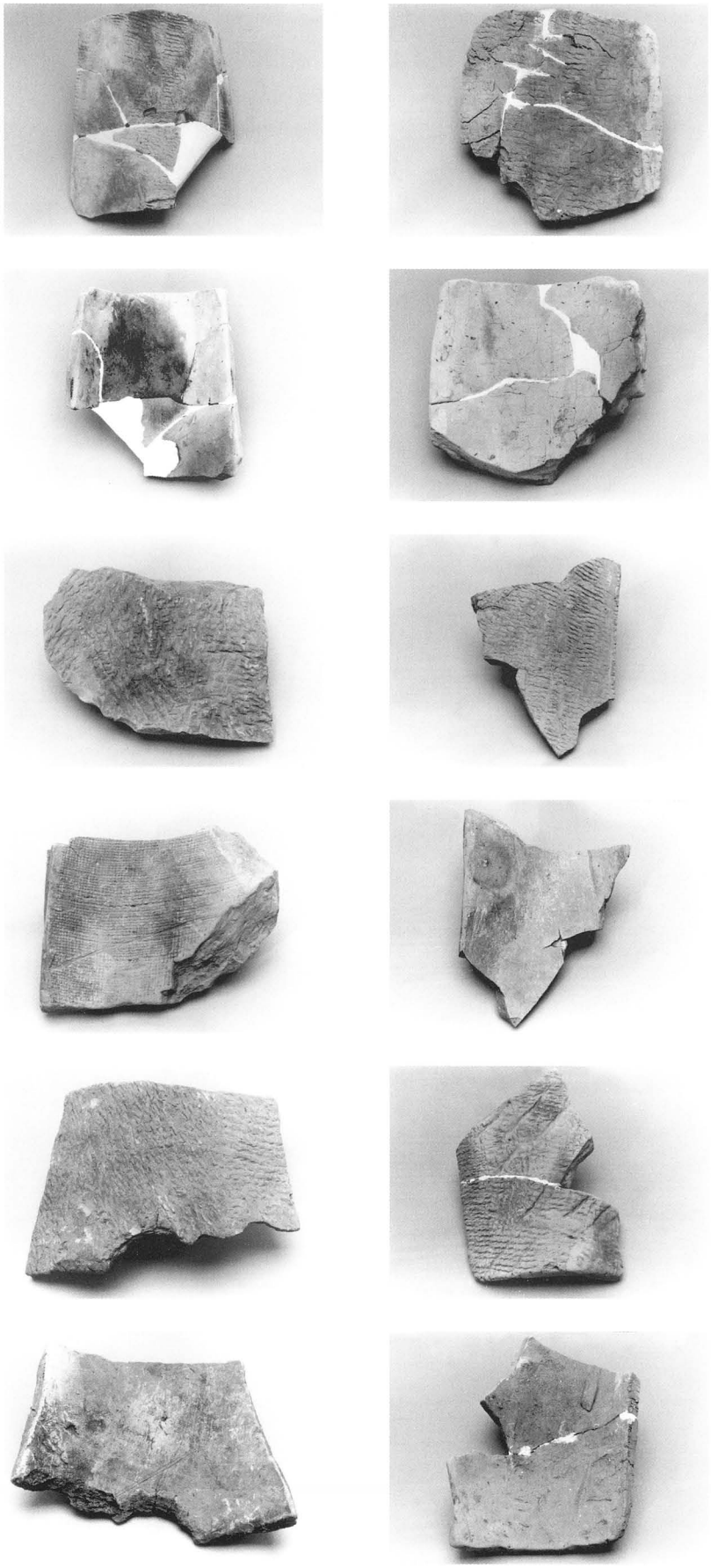
図版７　出土瓦①



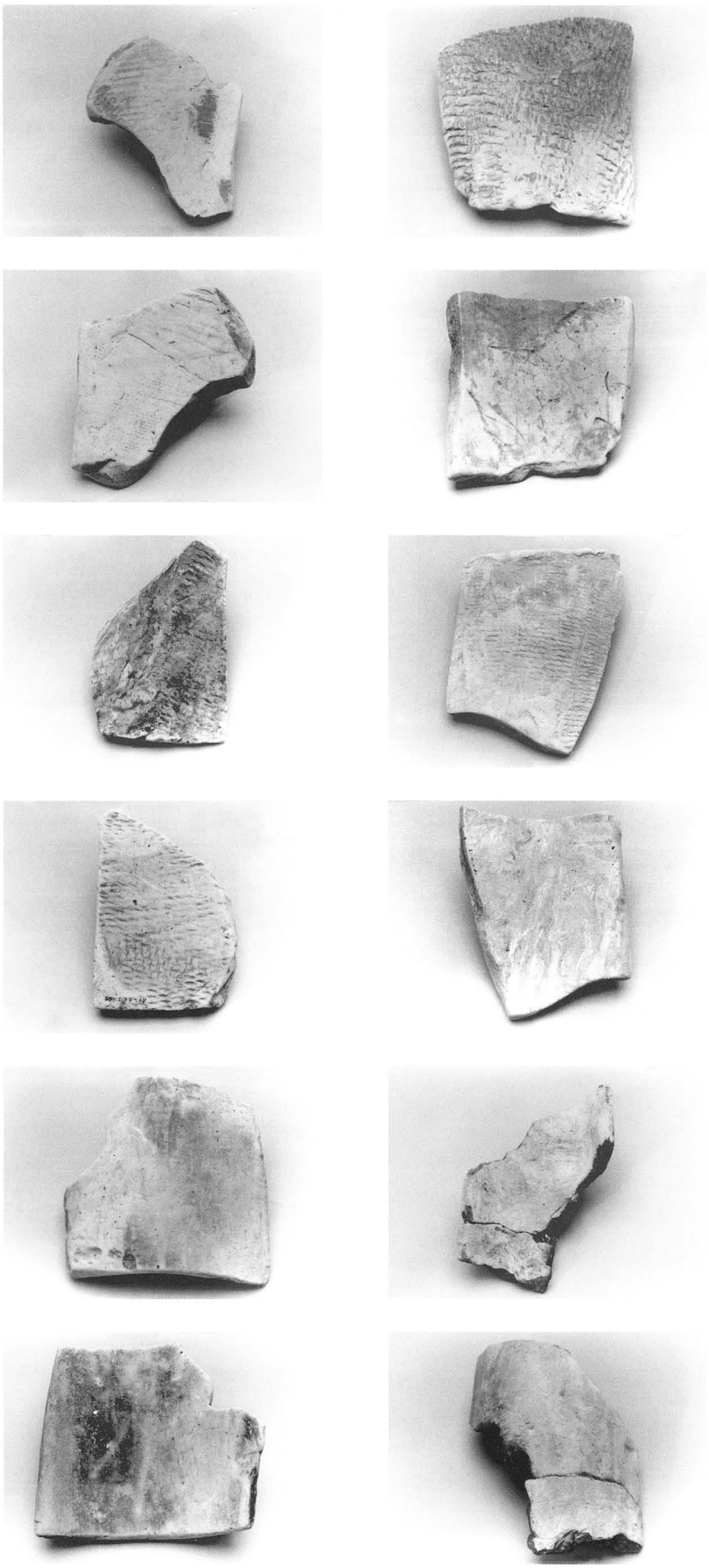
図版８　出土瓦②



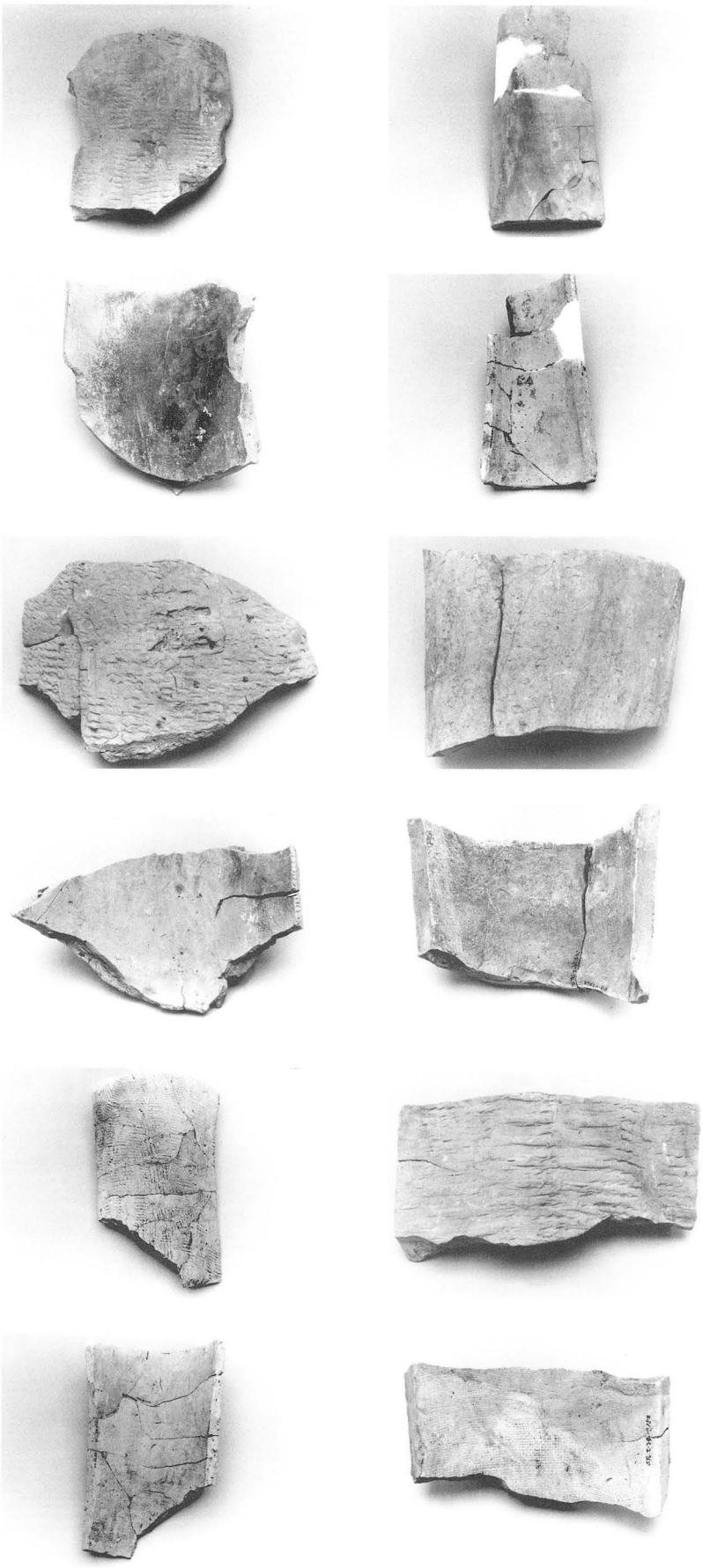
図版９　出土瓦③



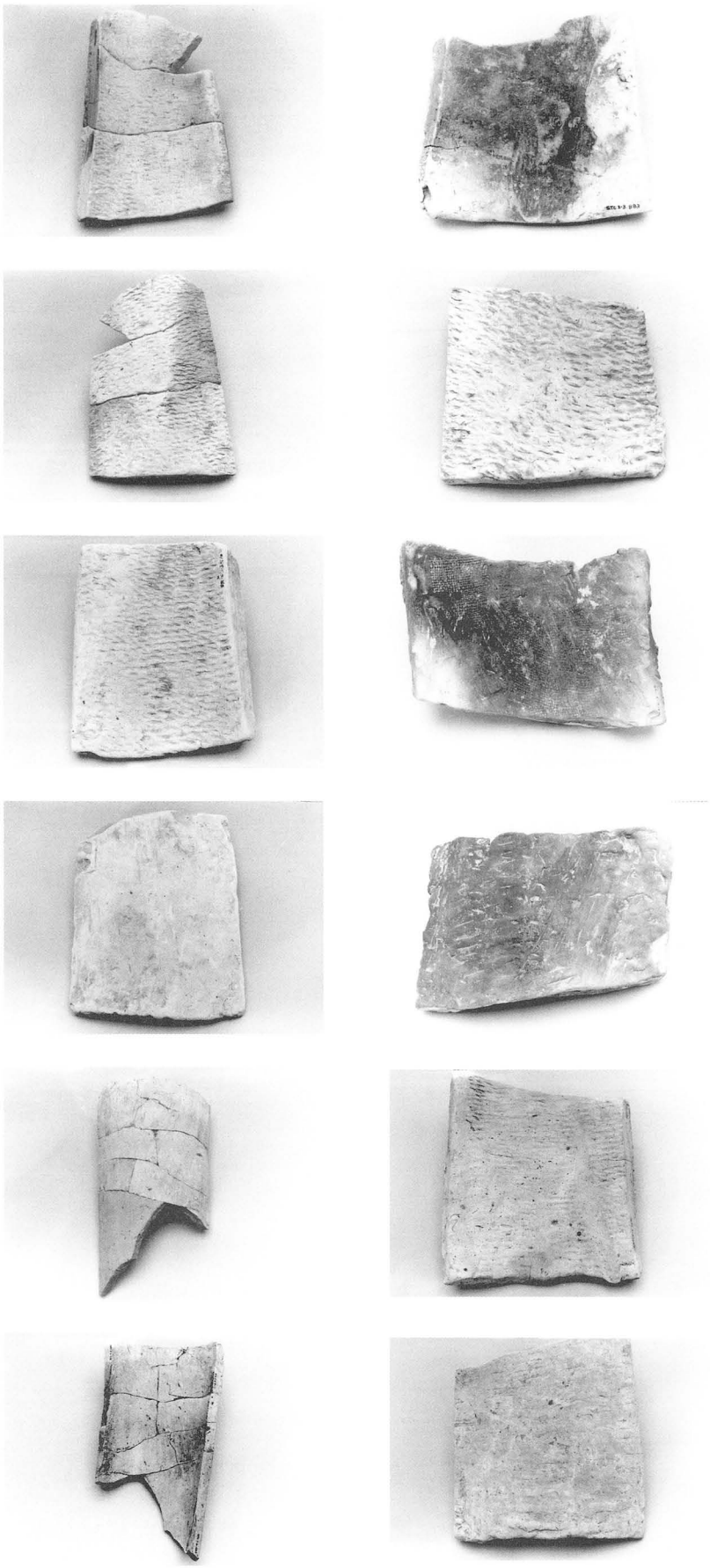
図版10　出土瓦④



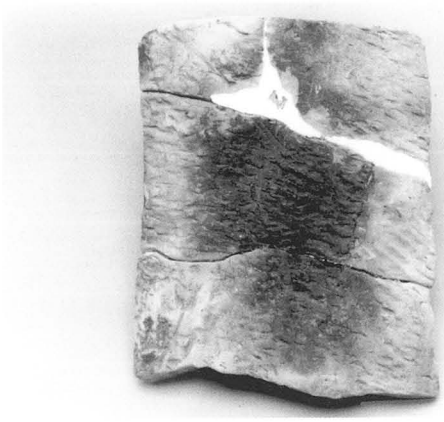
図版11　出土瓦⑤

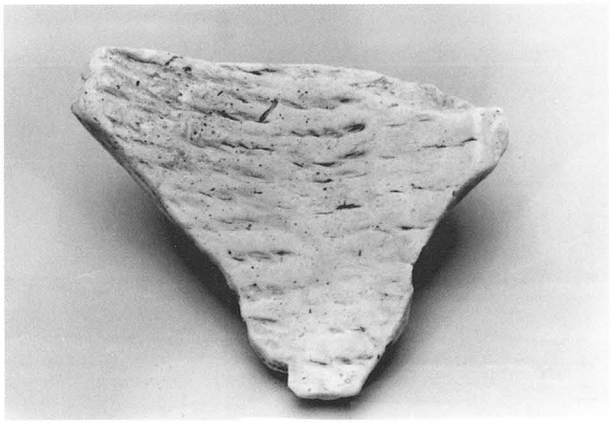


図版12　出土瓦⑥



図版13　出土瓦⑦





図版14　出土瓦⑧

報 告 書 抄 録

ふりがな	したむらようせきぐんほうこくしょ Ⅱ
書名	下村窯跡群報告書 Ⅱ
副書名	〈遺物編〉
巻次	
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第72集
編集者名	竹中 克繁
編集機関	宮崎市教育委員会
所在地	〒880-0805　宮崎県宮崎市橘通東１丁目14番20号　TEL　(0985) 25－2111
発行年月日	2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
下村窯跡群	宮崎県宮崎市 佐土原町 東上那珂	45201	11-005	32° 2′ 10″ 付近	131° 26′ 2″ 付近	1991.7.1 ～ 1992.9.18	19,900	ゴルフ場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下村窯跡群	窯跡	古代	窯	須恵器 瓦	

宮崎市文化財調査報告書　第72集

下村窯跡群報告書 Ⅱ

〈遺物編〉

2008年3月

発　行　　宮崎市教育委員会